

リ之ヲ爲ス可キコト及ヒ再審ノ許否ニ付テハ、辨論及裁判ハ本案ノ辨論前ニ之ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定シ第四百八十條ハ原告ノ不利益ト爲ル判決ノ變更ハ相手方ヨリモ再審ヲ求メタルトキニ限り之ヲ爲スヘキコトヲ示定セリ

第四百七十九條 本案ニ付テハ辨論及ヒ裁判ハ不服ノ申立テアリテ且其理由ノ存スル部分ニ限り之ヲ爲スヘキナリ故ニ其申立ナキ部分ニ付テハ仮令再審ノ理由アリト認ムルモ辨論及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得ス是レ當事者ノ求メナキ事ハ之ニ干渉セストノ精神ニ出ツルモノナリ又不服ノ申立アルモ其理由ノ存セサルトキハ之ヲ不適法ナルモノトシテ棄却ス可キナリ

再審ノ訴ヲ受ケタル裁判所ハ再審ニ付テハ辨論及ヒ判決ト本案ニ付テハ辨論及ヒ判決トヲ同時ニ併合スルヲ以テ通例トス然レトモ裁判所ハ審理上ノ便宜ニ從ヒ本案ノ審理ニ着手スル前テ先ツ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付キ辨論及ヒ裁判ヲ爲スヘキコトヲ命スルヲ得而シテ再審ヲ許容シタル裁判アリタルトキハ本案ニ付テハ審理ハ前審理ノ繼續ト看做シ又再審ヲ許容シタル裁判ヲ中間判決ト看做ス可キナリ

第四百八十條 再審裁判所ハ原告ノ不利益トナルヘキ判決ノ變更ヲ爲ス可ラス然レトモ相手方ヨリモ再審ヲ求メ其變更ヲ申立テタルトキハ勿論之カ變更ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ民事訴訟上ノ不干渉主義ニ出ツルモノニシテ控訴ニ於ケル第四百二十五條ト同一精神ナリ

〔參照〕 獨 第五百五十三條 本事件ハ不服理由ニ關スル部分ニ限り更ニ之ヲ審問スルモノトス

裁判所ハ裁判手續再施ノ理由及許否ニ付テハ審問及判決ヲ本事件ノ審問前ニナスヘキコトヲ命スルヲ得此場合ニ於テ本事件ニ付テハ審問ハ之ヲ裁判手續再施ノ理由及許否ニ付テハ審問ノ繼續ト看做スヘキモノトス

第四百八十一條 訴カ上告裁判所ニ屬スルトキハ上告裁判所ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ其許否ニ付テハ辯論ノ完結カ係爭事實ノ確定及ヒ斟酌ニ繫ルトキト雖トモ其完結ヲ爲スヘシ

第四百八十二條 上訴ハ訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ判決ニ對シ一般ニ爲スコトヲ得ヘキトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕 第四百八十一條ハ上告審ノ確定判決ニ對シ上告裁判所ニ再審ヲ求ムル訴ノ起リタル場合ヲ示定シ第四百八十二條ハ再審ノ裁判ニ付テハ上訴ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定セリ

第四百八十一條 上告裁判所ハ法律ノ點ニ付テハ再審ノ事實上ノ點ニ涉ラサルヲ以テ原則ト爲スト雖トモ上告裁判所ノ確定判決ニ對シ再審ヲ求ムルノ訴起リタルトキハ上告裁判所ハ其再審ヲ求ムル理由及ヒ其許否ニ付テハ辨論ヲ完結セサルヘカラサルコトアルヲ以テ此場合ニ於テハ係爭事實ノ確定及斟酌ニ涉ルコトアリト雖トモ其完結ヲ爲サル

可ラス尙ホ此場合ニ於テ證據調ノ必要アルトキハ第四百四十六條第二項ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第四百八十二條 再審ニ因リ新ニ受ケタル判決ニ對シテハ一般ノ場合ト同シク上訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ第一審裁判所ニ再審ヲ求メ判決ヲ受ケタルトキハ第二審裁判所ニ控訴スルコトヲ得ヘク又第二審裁判所ニ再審ヲ求メテ新ニ受ケタル判決ニ對シ上訴セントスルトキハ上告裁判所ニ上告スルコトヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第五百五十三條 訴訟ニ付テ權限ヲ有スル上告裁判所ハ裁判手續再施ノ理由及許否ニ付テノ審問ヲ完結スヘキモノトス其完結爭ヒトナリタル事實ノ確定及酌量ニ依テ定マルトキニモ亦同シ

獨 第五百五十四條 上訴ハ訴訟ヲ處理シタル裁判所ノ裁判ニ對シ一般ニナスコトヲ得ルトキニ限り之ヲナスコトヲ得

第四百八十二條 第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ第三者ノ債權ヲ詐害スル目的ヲ以テ判決ヲ爲サシメタリト主張シ其判決ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ原狀回復ノ訴ニ因レル再審ノ規定ヲ準用ス  
此場合ニ於テハ原告及被告ヲ共同被告ト爲ス

〔解説〕 〔分析〕 本條ハ民法ニ依リ廢罷訴權ヲ行ヒ得ヘキ者カ再審ヲ求ムル場合ヲ示定セリ

第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ已ノ債權ヲ詐害スルノ目的ヲ以テ故ラニ訴訟ニ失敗シタリト主張シ其判決ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ原狀回復ノ訴ニ因レル再審ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

本條ノ訴ヲ起サンニハ左ノ諸項ニ該當セサル可ラス

- 一 他人ノ間ノ確定ノ判決カ自己ノ債權ヲ害スルモノトシテ不服ヲ申立ツルトキ若シ判決ノ確定前ナレハ第五十一條第二項ニ依リ主參加訴訟ニ依テ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ
- 二 原告及ヒ被告ノ共謀ニ因ルコト而シテ第三者ニ對スル債務者ハ原告タルト被告タルトヲ問ハサルナリ
- 三 債權ヲ詐害スル目的ニ出ツルコト

此場合ニ於テハ原告及ヒ被告ヲ共同被告トシテ相手取ルモノトス

本條ハ再審ノ訴ニアラス何トナレハ再審ノ訴ハ確定ノ判決ニ對スル救濟法ナレハ當事者ニ於テ之ヲ求ムヘク第三者ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニ非ラサレハナリ然ルニ再審ノ方法ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ許シタルハ畢竟第三者ニ便益ヲ與エタルモノナリ

第五編 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

第四百八十四條 一定ノ金額ノ支拂其他代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ハ其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル

○證書訴訟及ヒ爲替訴訟

事實ヲ證書ニ依リ證スルコトヲ得ヘキトキハ證書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

〔字解〕〔解義〕〔分析〕〔理由〕 本條ハ證書訴訟トシテ訴フル事ヲ得ヘキ要件ヲ示定セ

リ  
證書訴訟ハ證書ニ因リ請求ヲ證明シ得ル者ノ爲メニ簡易手續ニ循ヒ直ニ執行スルヲ得ヘキ判決ヲ與フル所ノ訴訟ナリ(本法第五百二條第二)乃チ此證書訴訟ハ特別訴訟手續中ノ簡易手續ニ屬スルヲ以テ其事件ノ性質一定シタル數額ノ請求ニシテ其權利關係ニ付テノ事實モ亦簡單ニ證書ノミヲ以テ證明シ得ヘキモノニ制限セリ抑此簡易手續ヲ設ケタル所以ハ當事者ノ便宜ト一般ノ經濟トヲ計リ務メテ日時ト費用トヲ省略スル趣旨ニ出ツルモノナリ

證書訴訟トシテ訴フルニハ左ノ條件ヲ要ス

- 第一 金額又ハ代替物若クハ有價證券ニ付テノ訴ナルコト
  - 第二 其支拂(金)額又ハ給付(代替物若クハ有價證券)ヲ目的トスル請求ナルコト
  - 第三 金額又ハ數量ノ一定スルコト
  - 第四 請求ノ理由タル事實ヲ證書ニ依リ證明シ得ヘキコト
- 以上ノ條件ニシテ其ニ欠クキハ證書訴訟トシテ訴フルコトヲ許サズルナリ
- 〔參照〕 獨 第五百五十五條 一定ノ金額ノ支拂ニ關シ又ハ其他換用物又ハ有價證券ノ一

定ノ數量ノ供給ニ關スル請求ハ其請求ノ理由トナスニ必要ナル總テノ事實ヲ證書ヲ以テ證明スルコトヲ得ルトキ證書裁判手續ニ於テ之ヲ申立ルコトヲ得

### 第四百八十五條 訴狀ニハ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ掲ケ且證書

ノ原本又ハ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

〔解義〕 本條ハ訴狀ニ具備スヘキ要件ヲ示定セリ

證書訴訟モ第九十條ニ掲グル三要件ヲ具備シタル訴狀ヲ提出セサル可ラサルハ勿論尙ホ本條ノ規定ニ從ヒ左ノ二件ヲモ具備セサル可ラス

第一 證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ掲ルコト

第二 訴狀ニ證書ノ原本又ハ謄本ヲ添フルコト

此條件ニシテ其一ヲ欠クキハ通常訴訟トシテ取扱ハサル可キナリ

〔參照〕 獨 第五百五十六條 訴訟ニハ證書裁判手續ニ於テ訴訟ヲナス旨ヲ載スヘキモノトシテ證書ハ其原本又ハ其謄本ヲ以テ訴訟ニ添フヘシ

### 第四百八十六條 本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此抗辯ニ付キ辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得

〔解義〕〔理由〕 本條ハ妨訴抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ムヘカラサルコトヲ示定セリ

○證書訴訟及ヒ爲替訴訟

○證書訴訟及ヒ爲替訴訟

證書訴訟ハ簡易手續ニシテ元來落着ノ敏捷ヲ旨トスルヲ以テ被告ハ妨訴ノ抗辨ヲ提出シテ本案ノ辨論ヲ拒ムコトヲ許サ、ルナリ然レトモ抗辨ノ理由アルニ之ヲ主張スルコトヲ許サ、ルニアラス唯之カ爲メニ本案ノ辨論ヲ拒ムコトヲ許サ、ルノミニシテ本案ノ辨論中ニ主張シ得ヘキハ固ヨリ論ヲ竣タサルナリ然レトモ妨訴抗辨ノ理由アルニ尙ホ本案ノ辨論ニ進行スルトキハ却テ無益ノ行爲ヲ爲サシムルニ至ルヲ以テ本條ハ裁判所ノ職權ヲ以テ此抗辨ニ付テノ辨論ヲ分離セシムルコトヲ得ヘシトセリ

〔參照〕 獨 第五百五十七條 妨訴辨駁ヲ以テハ本事件ノ審問ヲ拒ムコトヲ許サス但裁判所ハ職權ヲ以テモ亦其辨駁ニ付テ分離シタル審問ヲ命スルコトヲ得

第四百八十七條 反訴ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

證書ノ眞否及ヒ第四百八十四條ニ掲ケタル以外ノ事實ニ關シテハ書證ノミヲ以テ適法ノ證據方法ト爲ヌコトヲ得

書證ノ申出ハ證書ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕 〔理由〕 本條ハ證書訴訟ニハ反訴ヲ許サ、ルコト適法ノ證據方法ニハ書證ノミヲ以テスルコト及ヒ書證ノ申出ハ證書ヲ提出シテ爲ヌヘキコトヲ示定セリ  
證書訴訟ニ於テハ反訴ヲ爲スコトヲ許サス是レ證書訴訟ハ簡易迅速ニ完結セシムコトヲ希圖スレハナリ

證書訴訟ハ書證ニ限リ適法ノ證據方法ト爲ヌノミ決シテ他ノ證據方法ヲ用ユルコトヲ許サ、ルナリ故ニ證書ノ眞否及第四百八十四條ニ掲クル請求ノ理由タル可キ事實ノミナラズ被告カ其請求ニ應スル責ナシト主張スル事實ノ如キ或ハ原告カ被告ノ證明シタル事實ヲ攻撃スルカ如キ一切ノ證明ハ書證ヲ以テスル外他ノ證據方法乃チ人證鑑定臨檢等ニ依ルコトヲ許サ、ルナリ又書證ノ申出ハ證書ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ第三百三十五條乃至第三百四十七條ノ規定ニ依リ相手方又ハ第三者ノ手中ニ存スル書面ヲ以テ證據方法ト爲ヌカ如キハ之ヲ許サ、ルナリ若シ原被告ニシテ證書以外ノ證據方法ヲ用ヒントスルトキハ次條以下ノ決定ヲ受ク可キナリ

〔參照〕 獨 第五百五十八條 反訴ハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
證書ノ眞正ナルコト又ハ眞正ナラサルコト并ニ第五百五十五條ニ記載シタルヨリ他ノ事實ニ付テハ證書及宣誓要求ニ限リ證據物トナスコトヲ許スモノトス  
證書證據ノ申出ハ證書ヲ呈出スルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ヌ宣誓ハ證據決議ヲ以テ之ヲ命スヘキモノトス

第四百八十八條 原告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ要セ

ズシテ通常ノ手續ニテ訴訟ヲ繫屬セシメテ證書訴訟ヲ止ムルコトヲ得  
〔解義〕 〔理由〕 本條ハ原告ニ於テ證書訴訟ヲ止メント欲スルトキハ之ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定セリ

○證書訴訟及ヒ爲替訴訟

○證書訴訟及ヒ爲替訴訟

原告ハ口頭辨論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ要セスシテ證書訴訟ヲ脱シ其訴訟ニ依  
リ生シタル物件拘束ノ効力ヲ消滅セシメスシテ通常訴訟ニ移ルコトヲ得ヘシ此時ハ原被  
告ハ他ノ證據方法ヲ用ユルコトヲ得ヘク又被告ハ反訴ヲ起シ若クハ妨訴抗辨ヲ以テ本案  
ノ辨論ヲ拒ムコトヲ得ヘシ如此原告ニ證書訴訟ヲ中廢スルノ權ヲ與ヘタルハ若シ被告ニ  
於テ書證ヲ提出シテ防禦シタルニ原告ハ他ノ證據方法ニ依ルノ外之ヲ攻撃スル能ハスト  
セシカ新ニ通常訴訟ヲ起ササル可ラサルノ不便宜且經濟ヲ免ル能ハサレハナリ而シ  
テ獨リ原告ニ限り之ヲ許ス所以ハ被告ハ證書以外ノ證據方法ヲ申立ツルコト能ハスシテ  
敗訴ノ言渡ヲ受クルモ第四百九十一條ニ依リ權利ノ行使ヲ留保セラレ判決ノ後モ尙ホ通  
常訴訟トシテ繫屬シ權利ヲ主張スルコトヲ得レハナリ

〔參照〕 獨 第五百五十九條 原告ハ被告ノ承諾ヲ要スルコトナクシテ口頭上審問ノ終結  
スルニ至ルマテ訴訟ノ通常裁判手續ニ於ケル裁判關係ヲ存シテ證書裁判手續ヲ脱スルコ  
トヲ得

第四百八十九條 訴ヲ以テ主張シタル請求カ理由ナシト見エ又ハ被告ノ  
抗辯ニ因リ理由ナシト見ユルトキハ原告ノ請求ヲ却下ス可シ

證書訴訟ヲ許ス可カラサルトキ殊ニ適法ノ證據方法ヲ以テ原告ノ義務  
タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ舉ケサル場合ニ於テハ被告カ口頭

辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於  
テ許サル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖トモ此訴訟ニ  
於テハ其訴ヲ許サルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

〔解説〕 本條ハ原告ノ訴ヲ却下ス可キ場合ヲ示定セリ

被告證書訴訟ニ於テ原告ノ提出シタル請求ノ全部若クハ一部ヲ認諾スルトキハ原告ノ申  
立ニ依リ直ニ被告ニ對シ敗訴ノ言渡ヲ爲スハ勿論ナリト雖トモ若シ提起セラレタル請求  
ニシテ原告ノ陳述ニ依リ又ハ原告ノ自認シタル被告ノ抗辯ニ依リ又ハ證書ヲ以テ證明セ  
ラレタル被告ノ抗辯ニ依リ不當ナルトキハ原告ニ對シ訴訟ヲ却下スル旨ヲ言渡ス可シ仮  
令被告ノ欠席スルトキト雖トモ亦全一トス此場合ニ於テハ再ヒ訴ヲ起スコトヲ許サス唯  
此裁判ニ對シテ上訴スルノ外ナカルヘシ

又原告ノ請求正當ナルモ證書訴訟ノ要件ニ適合セサルトキ即チ第四百八十四條ノ要件ヲ  
具備セサルトキ就中原告カ證書ヲ以テ請求ヲ證明セサルトキ若クハ完全ニ證明セサルト  
キハ證書訴訟トシテ許サル旨ヲ言渡シ之ヲ却下ス可シ仮令被告カ口頭辨論ノ期日ニ出  
頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於テ許サル異議ノミヲ以テ訴ニ對  
シ抗辨シタルトキト雖トモ亦同シトス然レトモ此場合ニ於テハ更ニ通常訴訟ヲ起スコト  
ヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第五百六十條 訴訟ヲ以テ申立テタル請求自然又ハ被告ノ辨駁ニ依リ理由ナ

○證書訴訟及ヒ爲替訴訟

キコトノ判然スルトキニ限り原告ヲ請求ト共ニ退斥スヘキモノトス  
 證書裁判手續ヲ許スヘカラサルトキ特ニ原告ノ負擔スル證據ヲ證據裁判手續ニ於テ許サ  
 レタル證據物ヲ以テ申出テス又ハ其證據物ヲ以テ充分ニ擧ケサルトキ訴訟ハ其撰ヒタル  
 裁判手續ノ種類ニ於テナスコトヲ許サレサルモノトシテ退斥スルモノトス口頭上審問ノ  
 爲メニスル裁判期日ニ被告出廷セサルトキ又ハ被告法律上ノ理由ナキ異存又ハ證書裁判  
 手續ニ於テ許スヘカラサル異存ニ依リテノニ訴訟ニ對シ抗辨スルトキト雖トモ亦同シ  
**第四百九十条** 證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證  
 據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ擧ケサルトキハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ  
 於テ許サレルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

**第四百九十一条** 主張シタル請求ヲ争ヒタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ケ  
 タル總テノ場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ留保ス可シ  
 判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二条ノ規定ニ依リ判決ノ補  
 充ヲ申立ツルコトヲ得  
 留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及強制執行ニ付テハ之ヲ終局判決ト看做ス  
**第四百九十二条** 被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟ハ通常ノ訴  
 訟手續ニ於テ緊屬ス

此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯  
 ハル、トキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費  
 用ノ全部又ハ一分ノ辯濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂  
 ヒ又ハ給付シタルモノ、辯濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ  
 右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ闕席判決ニ關スル規  
 定ヲ準用ス

〔**解義**〕 第四百九十条及ヒ第四百九十一条モ亦辨論ノ結果ニ依リ判決ヲ爲スニ付テノ規定  
 ナリ殊ニ被告ニ敗訴ノ判決ヲ與フル場合ヲ示定シ又第四百九十二条ハ留保ノ効果ニ付キ  
 示定セリ

**第四百九十条** 第四百九十一条 訴訟ハ證書訴訟トシテ許ス可キ事件ニシテ且原告ノ請  
 求カ理由アリト見ユル場合ニ於テ被告カ適法ノ證據方法即チ書證ヲ申出テス又ハ其舉證  
 ノ完全ナラサルモハ裁判所ハ被告ノ異議ヲ證書訴訟ニ於テハ許サストシテ却下スヘキナ  
 リ證書訴訟ノ辨論期日ニ被告カ出頭セサル場合ニ於テ其訴訟ハ證書訴訟トシテ許スヘキ  
 事件ニシテ且原告ノ請求カ理由アリト見ユルトキハ通常訴訟手續ニ從ヒ原告ノ申立ニ因  
 リ被告ニ對シテ欠席判決ヲ爲ス可ク而シテ此判決ニハ權利ノ行使ヲ留保スルコトナシ又  
 原告カ辨論期日ニ於テ出頭セサルトキモ通常ノ手續ニ從ヒ欠席判決ヲ以テ原告ノ訴ヲ却

下ス可キナリ

原告ノ請求ニ對シ抗辨ヲ爲シタルモ之ヲ證明スルニ書證ノ方法ナカリシ爲メ被告カ敗訴ノ言渡ヲ受ケタルトキハ通常ノ訴訟手續ニ於ケル判決ノ規定ニ從フ外證書訴訟ニ於テハ特ニ職權ヲ以テ二个ノ條件ヲ添附スルコトヲ要ス第一其權利ノ行使ヲ留保スルコト第二假執行(本法第五百一條第二)ヲ命スルコト之ナリ若シ判決ヲ言渡ス場合ニ於テ此二个ノ條件ノ一ヲ遺漏シタルトキハ原告若クハ被告ハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(本法第五百八條)

此權利ノ行使ヲ留保スル判決ハ性質上中間判決タルニ過キサルモ其確定ヲ妨クルカ爲メ終局判決トシテ直ニ上訴ヲ爲スコトヲ許セリ

第四百九十二條 判決中被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟ハ通常ノ訴訟手續ヲ以テ繼續ス左レハ被告ヨリ口頭辨論ノ期日ヲ定メシコトヲ申立テ期日ヲ開キタルトキハ證書訴訟ニ於テ用ユル能ハサリシ證據方法ヲ申出テ、原告ノ請求ニ對シ防禦ヲ爲スコトヲ得ヘシ若シ一ヶ年間被告ヨリ期日ヲ定ムルノ申立テヲ爲サ、ルトキハ第八十八條ノ規定ニ依リ訴訟ハ終局ス可キナリ

此繼續シタル通常訴訟手續ニ於テ被告ノ異議正當ナラストスルトキハ前判決ヲ維持シ若シ原告ノ請求理由ナカリシコトノ顯ハル、トキハ前判決ヲ廢棄シテ原告ノ請求ヲ却下シ且之カ爲メ生シタル費用ノ全部若クハ一部ヲ辨償スヘキ旨ヲ言渡スヘシ又被告カ判決ニ

基キテ已ニ支拂若クハ給付ヲ爲シタルトキハ被告ノ申立ニ依リ支拂若クハ給付シタルモノヲ返還スヘキ旨ヲ原告ニ言渡ス可キナリ

此口頭辨論ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルハ一般ノ規定ニ從ヒ欠席判決ヲ爲ス

〔參照〕 獨 第五百六十一條 被告ノ異存ハ之ニ付キ被告ノ負擔スル證據ヲ證據裁判手續

ニ於テ許サレタル證據物ヲ以テ申出テス又ハ其證據物ヲ以テ充分ニ舉ケサルトキ之ヲ證據裁判手續ニ於テナスコトヲ許サレサルモノトシテ却下スヘキモノトス

獨 第五百六十二條 申立テラレタル請求ニ對シ抗辨シタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ル總テノ場合ニ於テ其權利ヲ執行スルコトヲ得セシムルノ制限ヲ與フヘキモノトス

判決ニ此制限ヲ掲ケサルトキハ第二百九十二條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ申立ルコトヲ得

權利ヲ執行セシムルノ制限ヲ付シテ言渡ス判決ハ上訴及權利執行ニ關シテハ之ヲ終局判決ト看做スヘキモノトス

獨 第五百六十三條 被告其權利ヲ執行スルコトヲ得セシムルノ制限ヲ與ルトキ訴訟ハ通常裁判手續ニ於ケル裁判關係ヲ存スルモノトス

此裁判手續ニ於テ訴訟ヲ以テ申立テタル請求理由ナカリシコトノ判然スルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ヲ請求ト共ニ退斥シ及ヒ之ニ對シ其生シタル費用ノ全部又ハ一部ノ辨償并ニ申立ニ依リ判決ニ憑據シテ被告ノ支拂ヒタルモノ又ハ供給シタルモノ、辨償ヲ言渡ス

ヘキモノトス  
此裁判手續ニ於テ原被告ノ一方出廷セサルトキハ亦懈怠判決ニ付テノ規定ヲ適用スルモノトス

第四百九十三條 第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ノ規定ハ證書訴訟ニ之ヲ適用セス

〔解義〕「理由」控訴ニ於ケル第四百二十六條及第四百二十七條ノ規定ハ證書訴訟ニ之ヲ適用セス之ノ證書訴訟ニ於テ異議ヲ主張シタル被告カ敗訴シタルトキハ總テノ場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ留保スルヲ以テ右控訴ニ於ケル時機ニ後レテ提出シタル防禦方法ヲ却下シタルトキノ權利行使ノ留保ヲ爲スノ必要ナクレハナリ

〔參照〕獨 第五百六十四條 第五百二條第五百三條ノ規定ハ之ヲ證書裁判手續ニ適用セサルモノトス

第四百九十四條 商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ以下二條ニ掲クル特別ヲ適用ス

第四百九十五條 爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ

被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

第四百九十六條 訴訟ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲クルコトヲ要ス

訴ノ許スヘキモノナルトキハ直ニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

〔解義〕第四百九十四條乃至第四百九十六條ハ爲替訴訟ニ關スル規定ナリ

第四百九十四條乃至第四百九十六條 商法ニ規定スル所ノ手形ニ依リテ爲ス請求ヲ證書訴訟トシテ提出スルトキハ總テ證書訴訟ニ於テ適用スル規定ヲ用ユルノ外左ノ特別ナル規定ヲ適用スヘキナリ

- 一 爲替訴訟ハ被告ノ普通管轄裁判所ノ外支拂地ノ裁判所ニモ之ヲ起スコトヲ得ヘシ又數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受クヘキトキハ支拂地ノ裁判所ニ訴エラル、ノミナラス義務者一名ノ普通管轄裁判所ニ訴ヘラル、ヲ得
- 二 原告ハ訴狀ニ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ニ換テ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲ク可キナリ
- 三 訴ニシテ許スコキトキハ就審時間ハ二十四時間以上ニ之ヲ定ム即チ本法第九十四條第九十七條ノ變則トナス



○強制執行

〔參照〕 獨 第五百六十五條 證書裁判手續ニ於テ爲替規則ニ謂ヘル爲替ヨリ生スル請求ヲ申立ル(爲替裁判手續)トキハ以下ノ特別規定ヲ適用スルモノトス  
獨 第五百六十六條 爲替訴訟ハ支拂地ノ裁判所并ニ被告普通ノ裁判管轄ヲ有スル裁判所ニ之ヲナスコトヲ得

數名ノ爲替義務者共同シテ訴ヘラル、トキハ支拂地ノ裁判所ノ外其被告ノ一名普通裁判管轄ヲ有スル各裁判所權限ヲ有スルモノトス

獨 第五百六十七條 許訟ニハ爲替裁判手續ニ於テ訴訟ヲ爲ス旨ヲ載スヘキモノトス  
就審期限ハ訴訟ヲ裁判所ノ所在地ニ於テ送達スルトキハ二十四時以上裁判所管轄内其他ノ地ニ於テ送達スルトキハ三日以上獨逸國內其他ノ地ニ於テ送達スルトキハ一週以上トス

第六編 強制執行

本編ハ強制執行ニ關スル手續ヲ定メタルモノニシテ強制執行トハ裁判上若クハ合意上ニ於テ債務ノ履行ヲ爲スヘキ債務者カ其債務ヲ履行セサルニ因リ債權者カ法律ノ規定ニ基キ公力ヲ藉リテ債務者ニ對シ強抑制進シテ以テ之ヲ執行シ其目的ヲ達スルヲ謂フナリ  
強制執行ハ訴訟以後ノ手續ニシテ真正ナル訴訟手續ニ非ラズ然レトモ強制執行ハ概テ訴訟ノ結果ニ出テ、且訴訟中ノ事項ト關聯スルコト少ナカラサルヲ以テ之ヲ民事訴訟法中

ニ編入シタルモノナリ各國ノ訴訟法ヲ閱スルニ大抵然ラサルハナシ

第一章 總 則

第四百九十七條 強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

〔解義〕 本條ハ強制執行ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ示定セリ

強制執行ハ終局判決ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ終局判決ニ先ツ所ノ中間判決ニ因リテハ之ヲ爲サ、ルヲ通例トス然レトモ法律ニ於テ特ニ上訴及ヒ強制執行ニ關シテハ終局判決ト看做スヘキ旨ヲ明記シタル中間判決即チ第二百七條第二百二十八條第四百二十六條第四百九十一條ノ如キ場合ニ於テハ其變例トシテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ  
本條ニ依ルニ強制執行ヲ爲シ得ヘキ判決ニアリ曰ク確定ノ終局判決曰ク假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決之ナリ而シテ終局判決ハ何レノ時ニ確定スヘキカハ次條ニ於テ知ルコトヲ得ヘシ又未確定ノ終局判決ニ假執行ノ宣言ヲ付スルノ場合ハ第五百一條以下ニ之ヲ規定セリ

一般ニ強制執行ヲ爲シ得ヘキハ以上ノ如ク確定ノ終局判決假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ノ二箇ナレトモ法律ハ此外ニ強制執行ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ認メリ即チ第五百五十九條ニ列記セルモノ之ナリ詳細ハ該條ニ至リ知ルコトヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第四百四十四條 強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ヲナスコトヲ得ルノ

○強制執行

言渡ヲナシタル終局判決ニ依リ之ヲナスコトヲ得  
婚姻事件ニ於ケル判決ハ假ニ執行スルコトヲ得ルノ言渡ヲナスコトヲ許サス

第四百九十八條 判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル時間ノ滿了前ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

〔解義〕 本條ハ判決ハ確定スル時期ヲ示定セリ

判決ノ確定ハ欠席判決ニ付テハ故障申立ノ期間ヲ經過スルコト對審判決ニ付テハ上訴期間ヲ經過スルコトニ因リテ爲ル(本法第二百五十五條第四百條第四百三十七條)

然レトモ故障期間内ニ故障ヲ申立テ上訴期間内ニ上訴ヲ提起シタルトキハ其不服ヲ申立テラレタル判決ノ確定ハ爲メニ遮斷セラル、ヲ以テ更ニ故障ニ因リテ爲ス終局判決又ハ上訴裁判所ニ於テ爲ス終局判決カ前同條ノ條件ニ因リテ確定スルモノトス然リ而シテ其事件ヲ完結シタル終局判決ニシテ上訴ノ道ナキモノハ亦自ヲ其期間ナシ故ニ大審院ニ於テ第四百三十九條第一項及ヒ第四百五十二條ノ場合ニ於テ上告棄却ノ判決ヲ爲シ又ハ第四百五十一條ノ場合ニ於テ對審判決ヲ爲ストキハ其判決上訴ノ道ナキヲ以テ直ニ確定ス

〔參照〕 獨 第六百四十五條 判決ノ確定ハ其許サレタル上訴又ハ異議ヲ呈出スル爲メニ

定メタル期限ノ經過前ニハ始マラサルモノトス其確定ノ始マリハ期限内ニ上訴又ハ異議ヲ呈出スルニ依リテ停止セラル、モノトス

第四百九十九條 原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル

〔解義〕 〔理由〕 本條ハ判決ノ確定ニ關スル證明書ノコトニ付示定セリ

判決ハ時ノ經過ニ因リテ確定スルコト前條ノ如クナルヲ以テ果シテ確定シタルヤ否ヲ知ランニハ之カ證明方法ナカル可カラス而シテ此證明ハ專ラ判決執行文ノ付與ヲ求ムルニ當リ其之ヲ與ル裁判所ヲシテ判決ノ確定トナリタルコトヲ知ラシムルノ具ト爲スモノナリ

確定ノ證明書ハ原告若クハ被告ノ申請ニ依リテ第一審裁判所之ヲ付與スルヲ通例トス何トナレハ確定ノ證明書ハ訴訟記録ニ依リテ付與スルモノナルニ其訴訟記録ハ概テ第一審

○強制執行

五百九十八

裁判所ノ保管ニ屬スルモノナレハナリ然レトモ其當時第一審裁判所ニ訴訟記録ナキカ又ハ第一審裁判所ニ於テ確定ヲ知ル能ハサルトキハ變例トシテ他ノ裁判所確定ノ證明書ヲ付與ス可キナリ

一 一訴訟ニ於ケル一部分ニ付テノ判決ハ確定シタルモ他ノ部分ニ付テノ判決ニ對シ上訴アリテ訴訟カ猶ホ上級審ニ繫屬中ナルトキ

第二百二十六條ニ依リ請求中ノ一部分又ハ本訴ト反訴ト並立シタルトキ本訴若クハ反訴ノミニ付一分終局判決ヲ爲シ之ニ對シテハ上訴ナクシテ確定シタルモ他ノ部分ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ爲シタル如キ場合ナリ此場合ニ於テハ第四百三十一條及ヒ第四百五十四條第八號ノ規定ニ從ヒ訴訟記録ハ上級裁判所ニ送付シアルヲ以テ上級裁判所ノ書記ハ其訴訟記録ニ基キ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付確定ノ證明書ヲ付與ス

二 判決ニ對シ上訴ノ提起ナキコトヲ確知スル場合ニ非ラサレハ確定ノ證明書ヲ付與スル能ハサルトキ

此場合ニ於テハ上訴ノ管轄裁判所ニ上訴ノ提起ナカリシ旨ノ證明ヲ申請シ其裁判所ノ書記ヨリ適法ナル上訴ノ期間内ニ上訴ノ提起ナカリシ旨ノ證明書ヲ申受クルトキハ別段確定ノ證明書ナシトモ之ヲ以テ確定ヲ證明スルニ足ルヘシ而シテ上訴ノ管轄裁判所ニハ訴訟記録ナキヲ以テ何時判決ノ送達アリシヤ從テ何日迄カ適法ノ上訴期間ナルヤ之ヲ知ル能ハサルヲ以テ申請者ハ豫メ判決ノ送達ノ謄本ヲ添ヘテ申請ヲ爲スカ又ハ訴訟記録ノ存

スル下級裁判所ノ書記ヨリ送達ハ何日ナルカノ證明書ヲ申受ケ之ヲ添ヘテ申請ヲ爲ス可シ是ニ於テ初メテ上訴ノ管轄裁判所ハ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキ旨ノ證明書ヲ付與シ得ヘキナリ若シ然ラサルトキハ單ニ上訴ナキ旨ノ證明書ヲ付與セラル、ノミニシテ未タ確定證明書ニ代用スルノ效力アラサルモノトス

第一審及ヒ第二審ノ判決ニ付テハ上訴ノナカリシコトヲ知ルニ非ラサレハ確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ス然レトモ第一審裁判所ニ保管スル訴訟記録中ニ判決ノ送達證アリテ之ヨリ起算シ適法ノ上訴期間滿了後數箇月モ經過シ確定證明書ヲ求メタルトキハ第一審裁判所ニ於テ直ニ確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ヘシ何トナレハ若シ上訴シタランニハ上訴裁判所ノ書記ハ廿四時間内ニ第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記録ノ送付ヲ求ムヘキヲ以テ斯ク數个月ヲ經過シテ猶ホ記録送付ノ照會ナキハ以テ上訴ノ提起ナキコト明白ナレハナリ又欠席裁判ノ場合ニ於テモ判決送達後十四日ヲ過クルトキハ直ニ證明書ヲ付與スルコトヲ得ヘシ上訴期間滿了後幾クモナクシテ證明ヲ求ムル如キ場合ニハ上訴裁判所ヨリ記録ノ送付ヲ求ムルノ途中ニアルヤモ知ル可ラサルヲ以テ必ス上訴ノ提起アラサル旨ノ證明書ヲ要ス可キナリ

〔參照〕 獨 第六百四十六條 判決確定ニ付テノ證書ハ訴訟書類ニ依リ始審裁判ノ裁判所書記之ヲ交付シ訴訟上級裁判ニ於テ裁判關係トナリタル間ハ其上級裁判ノ裁判所書記之ヲ交付スヘキモノトス

○強制執行

五百九十九

○強制執行

判決ニ對シ上訴ヲ呈出セザリシ場合ニアラサレハ其證書ヲ交付スルコトヲ得ヘカラサル  
トキニ限リ上訴ニ付テ權限ヲ有スル裁判所ノ裁判所書記不變期間内ニ裁判期日ヲ定ル爲  
メ書面ヲ呈出セザリシコトニ付テ作リタル證書ヲ以テ足レリトス

第五百條 原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因  
リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止ス可  
キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及  
ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトヲ  
得

保證ヲ立テシメスシテ爲ス強制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコト能  
ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服  
ヲ申立ツルコトヲ得ス

〔解義〕〔字解〕〔理由〕 本條ハ強制執行ヲ停止シ若クハ強制處分ヲ取消ス可キ場合ヲ示  
定セリ

本法第七十四條以下ニ定ムル原狀回復ノ申立又ハ第四百六十七條以下ニ定ムル再審ヲ

求ムル申立ヲ爲ストキハ或ハ確定判決ヲ動スコトナシト云フ可ラサルヲ以テ本條ハ一般  
ノ場合ト其取扱ヲ異ニシ左ノ如ク數多ノ例外ヲ設ケリ

第一 裁判所ハ敗訴者即チ執行ヲ受ケントスル者ノ申立ニ因リ裁判所ノ意見ニ於テ定ム  
ル保證ヲ立テシメ又ハ執行ヲ受クルトキハ後日確定判決ヲ動カサル、コトアリトモ元ノ  
如ク回復スル能ハサルコトヲ疏明スルトキハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止  
ス可キコトヲ命シ得ヘシ

第二 又敗訴者ノ申立ニ因リ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ノ取消ヲ命スルコト  
ヲ得ヘシ

第三 勝訴者ノ申立ニ因リ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲スヘキコトヲ命シ得ヘシ然レ  
トモ敗訴者ヨリ先ニ強制執行ノ停止若クハ取消ヲ申立テタルトキハ勝訴者ノ申立ヲ許ス  
可ラサルナリ故ニ敗訴者ノ申立ナキ以前ニ此申立ヲ爲サル可ラス

一時ノ停止トハ執行以前ナレハ進テ執行爲スヲ得サラシメ已ニ着手セハ其以後ノ手續ヲ  
停止スルヲ云フ又強制處分ノ取消トハ一度爲シタル處分ヲ全ク解除スルヲ云フ故ニ處分  
ノ取消ハ執行ニ着手シタル以後ニノミ存スヘキナリ

一般ニ保證ヲ立テシムルコト、セシハ執行ノ爲メニ損害ヲ蒙ルカ又ハ執行セサルカ爲メ  
得ヘキ利益ヲ失フノ危険ニ備フルカ爲メナリ

右申立テニ付テノ裁判ハ敏捷ヲ要スルカ故ニ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

○強制執行

○強制執行

而シテ其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ許サス

〔辨疑〕 本條ニ一時停止トアルハ即チ無限停止ノ反對ヲ示シタルハ明カナリ然ラハ何時如何ナル手續ヲ以テ其停止ヲ解除セラル可キヤ本法ハ此事ニ付キ何等ノ明文ヲ掲ケスト雖トモ原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立ヲ爲シタル者敗訴ノ裁判ヲ受ケタルトキハ其裁判ノ確定シタル後裁判所ニ先ノ命令取消ヲ申請ス可キナリ若シ原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立ヲ爲シタル者勝訴ノ裁判ヲ受ケタルトキハ一時停止ハ自ラ強制執行ノ廢止トナリ強制處分ノ取消ハ眞ノ取消トナルヘキナリ

〔參照〕 獨 第六百四十七條 故態恢復又ハ裁判手續ノ再施ヲ求ムルノ申立ヲナストキ裁判所ハ申立ニ依リ保證ヲ得又ハ保證ヲ得スシテ強制執行ヲ一時停止スヘキコトヲ命シ又ハ保證ヲ得ルトキニ限り強制執行ヲナスヘキコトヲ命シ及保證ヲ得テ其ナシタル強制處分ヲ廢棄スヘキコトヲ命スルヲ得保證ヲ得ルトコトナクシテナシタル強制執行ノ停止ハ其執行ニ依リ償フニト能ハサル損害ヲ生スヘキコトヲ証明スルトキニ限り之ヲナスヲ許スモノトス

其裁決ハ豫メ口頭上ノ審問ナクシテ之ヲナスコトヲ得其決議ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ得ス

第五百一條 左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

第二 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

第三 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ關席判決

第四 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

第五 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三個月間ノ爲ニ支拂フ可キモノナルトキハ限ル

第五百二條 左ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取、明渡、使用、占據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第二 占有ノミニ係ル訴訟

第三 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一箇年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間

○強制執行

○強制執行

ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟  
 イ 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料  
 ロ 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケ  
 タル手荷物、金銭又ハ有價物  
 第五 此他財産權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テ貳拾圓ヲ超過セ  
 サル訴訟但其物ノ價額ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用  
 ス

第五百三條 前二條ニ掲ケタル外左ノ場合ニ於テハ財産權上ノ請求ニ關  
 スル判決ニ限り債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申出ツルトキ  
 第二 債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又  
 ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ疏明スルトキ

第五百四條 債務者カ判決ノ確定トナル前ニ判決ヲ執行セハ回復スルコ  
 トヲ得サル損害ヲ受クヘキコトヲ疏明シタルトキハ其申立ニ因リ左ノ

宣言ヲ爲スヘシ

第一 第五百一條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假ニ執行スヘカラサルコト  
 第二 第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債權者ノ假執行ノ申  
 立ヲ却下スルコト

第五百五條 總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債權者豫メ  
 保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得  
 債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサルトキハ債務者ノ申  
 立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カル  
 ルコトヲ許ス可シ

〔解義〕〔字解〕〔理由〕 第五百一條ハ裁判所ノ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可キ場合  
 第五百二條及ヒ第五百三條ハ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可キ場合ヲ第五  
 百四條及ヒ第五百五條ハ第五百一條乃至第五百三條ノ規定ニ付テノ例外ヲ示定セリ  
 第五百一條 左ノ判決ハ權利ノ關係明瞭ニシテ且最モ至急ヲ要スルヲ以テ債權者ノ申立  
 ヲ待タズシテ假執行ノ宣言ヲ爲ス

第一 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決(本法第二百二十九條)

○強制執行

○強制執行

- 第二 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決（本法第四百八十四條乃至第四百九十六條）
- 第三 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ欠席判決
- 第二ノ欠席判決トハ本法第二百六十三條ノ場合ヲ云フ而シテ第二回ノ欠席判決ニ對シテハ復タ故障ヲ爲ス可ラサルヲ以テ其後ノ欠席判決ヲ爲ス場合ハ之レアラサルモノ、如シ然ラハ則チ其後ノ欠席判決トハ如何第二ノ欠席判決ニ對シ第三百九十八條ノ但書ニ依リ控訴ヲ爲シタルニ控訴裁判所ニテハ尙ホ辨論ヲ爲スノ必要アリト認メテ第四百二十二條ノ規定ニ從ヒ第一審裁判所ニ差戻シタルニ其口頭辨論期日ニ於テ尙ホモ欠席シタルトキハ即チ第一審ニ於テ第二以後ノ欠席判決ヲ生スルニ至ルナリ此ニ注意スヘキハ同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シトアル語辭之ナリ第一審ニ於テ欠席判決ヲ受ケ其相手方ニ於テ控訴ヲ爲シ第二審ニ於テモ亦欠席シタルトセシカ決シテ假執行ノ宣言ヲ爲ス可ラス何トナレハ同一審ニ於テトアレハナリ又第一回ニ於テハ原告欠席シ第二回ニ於テ被告欠席スルトキハ決シテ假執行ノ宣言ヲ爲ス可ラス何トナレハ同一ノ原告若クハ被告ニアラサレハナリ
- 第四 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決（本法第七百四十五條第七百四十六條第七百四十七條第七百五十六條）

- 第五 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三個月間ノ爲メニ支拂フヘキモノニ限ル
- 要スルニ訴ノ提起前三個月以來ノ部分ニ付テノニ假執行ノ宣言ヲ爲ス
- 第五百二條 第五百三條 左ニ掲クル場合ハ概テ事件輕微ニシテ且執行ヲ爲スモ重大ノ損害ヲ來スコトナキヲ以テ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス
- 第一 住家其他ノ建物又ハ其部分ノ受取、明渡、使用、占據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟事件ノ判決
- 受取トハ借主ヨリ貸主ニ對シ其受取方ヲ求ムル如キ場合ヲ云ヒ占據トハ事實上其住家又ハ建物ニ現實住居シ又ハ之ヲ利用シタル如キ状態ヲ云ヒ又差押ヘタルコトニ關シトハ賃借人ノ留置權ニ依リ賃借人ノ物品ヲ差止メタルヲ云フ
- 第二 占有ノニ係ル訴訟事件ノ判決
- 第三 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一箇年以下ノ契約ニ關シ起リタル訴訟事件ノ判決
- 第四 旅入ト旅店若クハ飲食店ノ主人若クハ水陸運送人トノ間ニ於テ旅行ノ爲メ生シタル行爲ニ係ル訴訟事件ノ判決
- 第五 財産權上ノ請求ニ關シ金錢又ハ價格ニ於テ二十圓ヲ超過セサル訴訟事件ノ判決但其價格ノ計算ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

○強制執行

○強制執行

第六 財産權上ノ請求ヲ爲ス訴訟事件ノ判決ニシテ債權者カ保證ヲ立テ執行ヲ爲ス可キ旨ヲ申出ツルトキ

此場合ニ於テハ裁判所ハ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ノ停止ノ條件ヲ付シタル假執行ヲ宣言ス

第七 財産權上ノ請求ヲ爲ス訴訟事件ノ判決ニシテ債權者カ判決ノ確定トナルマテ執行ヲ爲サ、ルトキハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ疏明スルトキ

第五百四條 抑假執行ハ真正ナル權利者ヲシテ速ニ其權利ヲ満足セシメンカ爲メ判決ノ確定ヲ俟タスシテ假ニ執行スルコトヲ得セシムル變例ノ手段ナリ然レトモ之カ爲メニ債權者ニ不利益ヲ生セシムルノ憂アルトキハ必ス之ヲ斷行セシメスシテ可ナリ故ニ債權者カ判決ノ確定前ニ執行セハ回復スル能ハサル損害ヲ受クヘキコトヲ疏明シタルトキハ其申立ニ依リ左ノ如キ宣言ヲ爲ス

第一 職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキトキ即チ第五百一條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其判決ヲ假ニ執行スヘカヲサルコト

第二 申立ニ依リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキトキ即チ第五百二條及第五百三條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債務者ノ假執行ノ申立ヲ却下スルコト

第五百五條 債務者カ前條ノ如ク回復スルコトヲ得サル損害ヲ受ク可キコトヲ疏明スル能ハサルモ第五百一條乃至第五百四條中何レノ場合ニ於テモ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因

リ債權者豫メ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ノ停止ノ條件ヲ付シタル假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ債務者ヲシテ不慮ノ損害ヲカラシメンコトヲ期スルノ趣旨ニ出ツ如此停止ノ條件ヲ付シタル假執行ノ宣言ハ(第五百三條第一號モ亦同シ)第五百二十九條第二項ノ手續ヲ踐行スルニアラサレハ強制執行ヲ始ムルヲ得ス然レトモ債務者ノ申立アルトキハ必ス之ヲ採用セサル可ラサルニアラヌ若シ債權者ノ權利明確ニシテ疑フ可ラサルトキハ假令之等ノ申立アルモ單純ナル假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ヘシ

又債權者カ假執行ノ爲メニ保證ヲ立ツル旨ヲ申出テサル中ニ債務者翻テ先ツ自ラ執行ノ目的ヲ確實ニスル爲メ保證ヲ立テシコトヲ申立ツルトキハ裁判所ハ債務者カ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ假執行ヲ免ルコトヲ得ヘキ解除ノ條件ヲ付シタル宣言ヲ爲ス此場合ニ於テ債務者ハ第五百五十條第三號ノ手續ヲ履行セハ假執行ノ宣言ハ其効力ヲ失ヒ假執行ヲ止ムルコトヲ得ヘシ故ニ債權者ニ於テ必ス假執行ノ宣言ヲ付セラレシコトヲ希望スルトキハ第五百一條乃至第五百三條中何ノ場合ヲ問ハス保證ヲ立テシコトヲ申立ツルニ若カス

〔參照〕 獨 第六百四十八條 左ニ掲ル判決ハ申立ナキモ之ヲ假ニ執行スルコトヲ得ルノ旨ヲ申出ツルトキ  
第二 設若終局判決ニ掲ケタル結果ヲ言渡ス判決

○強制執行



○強制執行

- 第三 同一ノ裁判ニ於テ同一ノ原被告一方ニ對シ本事件ニ付テ言渡シタル第二又ハ其後ノ懈怠判決
- 第四 証書又ハ爲替裁判手續ニ於テ言渡シタル判決
- 第五 押置又ハ臨時處分ヲ廢棄スル判決
- 第六 給養支拂ノ義務ヲ言渡ス判決但其給養訴訟提起後ノ時間及其訴訟提起前最後ノ三月間ノ爲メ支拂フヘキモノナルトキニ限ル
- 獨 第六百四十九條 判決ハ左ノ場合ニ於テハ申立ニ依リ假ニ執行スルコトヲ得ルノ言渡サナスヘキモノトス
- 第一 家宅其他建造物ノ貸主ト借主トノ間ニ於テ其引渡、使用、明渡并ニ借主ヨリ持込ミタル物件ノ留置ニ付テ生シタル訴訟
- 第二 借主ト傭人トノ間及ヒ工業主人ト勞役者トノ間ニ於テ其傭入及ヒ勞役者ノ關係ニ付テ生シタル訴訟并ニ營業規則第百八條ニ掲ケタル訴訟但傭入勞役又ハ見習ノ關係中生シタルモノニ限ル
- 第三 旅客ト旅店主人又ハ運輸人、船長、棧主又ハ乗船港ニ於ケル移住世話人トノ間ニ於テ其旅宿料、運輸賃船賃、旅客及ヒ其荷物ノ運輸ニ關シ及荷物ノ紛失又ハ損傷ニ關シ生シタル訴訟并ニ旅客ト手職人トノ間ニ於テ旅行ニ關シ生シタル訴訟
- 第四 其他ノ財産權ニ請求スル敗訴ノ言渡ヲ受ケタル事件金錢又ハ價格ニ於テ三百円マ

- ルク」ヲ超ニサルモノ但其事件ノ價格ニ付テハ第三條ヨリ第九條マテノ規定ヲ適用ス
- 獨 第六百五十條 判決ハ其執行ヲ延期スルニ依リ債主ニ償ヒ難キ損害又ハ索知シ難キ損害ヲ生スヘキコトヲ證明スルトキ又ハ債主其執行前ニ保證ヲナスコトヲ申立ルトキハ之ヲ假ニ執行スルコトヲ得ルノ言渡ヲナスヘキモノトス
- 獨 第六百五十一條 判決ヲ執行スルニ依リ負債者ニ償フヘカラサルノ損害ヲ生スヘキコトヲ證明スルトキ第六百四十八條ノ場合ニ於テハ負債者ノ申立ニ依リ判決ヲ假ニ執行スルコトヲ得ヘカラサルノ言渡ヲナシ第六百四十九條第六百五十條ノ場合ニ於テハ債主ノ申立ヲ却下スヘキモノトス
- 獨 第六百五十二條 裁判所ハ申出ニ依リ豫メ保證ヲナスニアラサレハ假執行ヲ言渡サ、ルコトヲ得
- 裁判所ハ債主執行前ニ保證ヲナスコトヲ申立サルトキハ申立ニ依リ負債者ニ保證ヲナサシメ又ハ藏密ヲナサシメテ執行ヲ免カル、コトヲ許スヘキモノトス
- 第五百六條 假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

- 第五百七條 假執行ニ付テノ裁判ハ判決主文ニ之ヲ掲ク可シ
- 第五百八條 職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ於テ假執行ニ

○強制執行

付テノ裁判ヲ爲セ、ルトキ又ハ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立ヲ看過シタルトキハ第二百四十三條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得

第五百九條 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ條件付ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサ  
ル部分ニ限リ口頭辯論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付ス可シ

第五百十條 本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テ效力ヲ失フ

假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノ、辯濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ言渡ス可シ

第五百十一條 第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁

判ヲ爲ス可シ

口頭辯論ノ延期ニ付テノ第四百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百十二條 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障ヲ申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

〔解釋〕〔理由〕第五百六條ハ假執行ニ關スル申立ハ口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可キコトヲ第五百七條ハ假執行ノ判決ハ判決主文ニ掲ク可キコトヲ第五百八條ハ後日ニ於テ假執行ノ宣言ヲ補充シ得ヘキコトヲ第五百九條ハ上級裁判所ニ於テ下級裁判所ノ判決ニ對シ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキコトヲ第五百十條ハ裁判ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ假執行ノ效力ヲ失フ可キコトヲ第五百十一條ハ第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルトキ原告若クハ被告ヨリ先ツ假執行ニ付キ辯論及裁判アラシコトヲ申立テタルトキハ第二審ハ先ツ假執行ニ付テノ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可キコト及ヒ假執行ニ付テノ第二審ノ判決ニ對シテハ不服ヲ申立ツルヲ得サルコトヲ第五百十二條ハ假執行ノ判決ニ對シ故障ヲ申立テ又ハ上訴シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用シ執行ノ停止又ハ處分ノ取消ヲ爲スヘ

○強制執行

キコトヲ示定セリ

第五百六條 第五百二條以下ニ定ムル假執行ニ關ル總テノ申立ハ判決ニ接着スル口頭辨論ノ終結前ニ爲ス可シ何トナレハ次條ニ定ムル如ク假執行ノ宣言ハ本案ノ判決ト共ニ爲スモノナレバナリ若シ其時期ヲ失スルトキハ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第五百七條 假執行ニ付テノ裁判即チ假執行ノ宣言ヲ付スルノ裁判又假執行ヲ免レシムルノ宣言等ハ總テ判決主文ニ掲ク何トナレハ總テ執行ハ判決主文ニ因テノミ爲スモノナレハナリ

第五百八條 職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコキ場合ニ於テ其裁判ヲ脱漏シタル片(本法第五百一條)債權者ヨリ假執行ノ宣言アラソコト申立テ而カモ宣言ヲ爲スヘキ場合ナルニ(本法第五百二條第五百三條)之ヲ脱漏シタルトキハ第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ其申立ニ因リ補充判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ

又第五百四條及第五百五條ニ因リ假ニ執行ス可ラサルコトヲ宣言シ若シハ條件付ノ假執行ヲ宣言ス可キニ之ヲ脱漏シタルトキ又ハ債權者ノ申立ヲ却下スルノ宣言ヲ爲スヘキニ之ヲ脱漏セントキハ同シク補充判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第五百九條 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ(假執行ヲ爲スヘカラサル旨ノ宣言ヲ爲シタルト債權者ノ申立ヲ却下シタルト債權者ノ申立ナキ爲メ宣言ナカリシト宣言ヲ脱漏シタル等總テノ場合ヲ問ハス)又ハ條件付ノ假執行ノ宣言アリ

タルモノ(前ニ説ケル如ク停止ノ條件若クハ解除ノ條件ヲ付シテ宣言シタル如キヲ云フハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ口頭辨論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上訴裁判所ハ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付ス可シ何トナレハ其部分ニ付テ不服ヲ申立テサルトキハ暗ニ之甘諾スルコト明カナルヲ以テ仮令未確定ナルモ損害ヲ生スルノ恐レナケレハナリ

第五百十條 假執行ノ宣言ニシテ廢棄、破毀又ハ變更セラル、トキ假執行ノ效力ヲ失フハ勿論本案ノ裁判ニシテ廢棄若クハ破毀又ハ變更セラル、トキト雖トモ從ハ主ニ從フノ原則ニ依リ假執行ノ宣言ハ消滅ス可キナリ又全部ノ中一部ノミ廢棄若クハ破毀又ハ變更セラル、トキハ其一部ノ限度ニ於テ效力ヲ失フ可キナリ假執行ニシテ其效力ヲ失フタルトキ執行着手前ナルトキハ之ヲ始ムルコトヲ得サラシメ已ニ着手後ナレハ本法第五百五十條及ヒ第五百十一條ニ因リ執行ヲ停止シ又ハ執行處分ヲ取消ス可キナリ

又執行ヲ遂ケ已ニ支拂若クハ給付シタルトキハ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ其辨濟ヲ原告ニ言渡スヘシ然ルニ本條ハ假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ取消シ若クハ變更シタル場合ニ限リ其辨濟ヲ原告ニ言渡スコト、セリ是レ假執行ノ宣言ノミ取消又ハ變更セラ

ル、トモ本案ノ權利關係ハ未タ之ヲ知ル能ハサレハナリ

第五百十一條 第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルトキ原告若クハ被告ヨリ先ツ假執行ニ付キ辨論及ヒ裁判ヲ爲サソコト申立ツルトキハ第二審ニ於テハ本案ヲ後ニシテ先ツ

○強制執行

○強制執行

六百十六

假執行ノ當否ニ付キ辨論及ヒ裁判ヲ爲ス是レ假執行ハ最モ急速ヲ要スレハナリ故ニ假執行ノ口頭辨論ニ付テハ第四百十條ニ定ムル相手方ノ控訴期間ヲ竣ツカ如キ延期ノ規定ヲ適用セサルナリ第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス是レ第二審ノ判決ハ大ニ其推測ヲ堅フスルヲ以テ之ヲ基礎トシテ執行セシムルモ弊害ヲ生スルコト稀ナルヘク殊ニ其執行ヲ急速ニスルノ必要アリハナリ

第五百十二條 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障ヲ申立テ又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ニ從ヒ執行ノ一時停止若クハ執行處分ノ取消ヲ爲シ得ヘキナリ

〔參照〕 獨 第六百五十三條 第六百四十九條ヨリ第六百五十二條マテニ掲ケタル申立ハ判決ノ憑據トナル口頭上審問終局前之ヲナスモノトス

獨 第六百五十四條 判決ヲ假ニ執行スルコトヲ得ルノ言渡ヲ求ル申立ヲ看過シタルトキ又ハ申立ナクシテ判決ヲ假ニ執行スルコトヲ得ルノ言渡ヲナスヘキ場合ニ於テ其假執行ニ付テノ裁決ヲナサ、ルトキハ其判決ヲ補充スル爲メ第二百九十二條ノ規定ヲ適用スルモノトス

獨 第六百五十五條 假執行ハ本事件ノ裁決又ハ假執行ノ言渡ヲ廢棄シ又ハ變更スル判決ノ言渡ト同時ニ其廢棄又變更ヲナス部分ニ限り效力ヲ失フモノトス

假ニ執行スルコトヲ得ルコトヲ言渡シタル判決ヲ廢棄シ又ハ變更スルトキニ限り原告ハ被告ノ申立ニ依リ判決ニ憑據シテ被告ノ支拂ヒタルモノ又ハ供給シタルモノヲ辨償スヘキモノトス

キコトヲ言渡サルヘキモノトス

獨 第六百五十六條 控訴裁判ニ於テハ申立ニ依リ假執行ニ付キ審問及判決ヲナスヘキモノトス

口頭上審問ヲ延期スルニ付テノ第四百八十六條ノ規定ハ此場合ニハ之ヲ適用セサルモノトス

控訴裁判ニ於テ假執行ニ付キ言渡シタル判決ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

獨 第六百五十七條 假執行ヲナスコトヲ得ルノ言渡ヲナシタル判決ニ對シ異議又ハ上訴ヲ呈出スルトキハ第六百四十七條ノ規定ヲ適用スルモノトス

第五百十二條 本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕 本條ハ保證又ハ供託ハ何レニ向テ之ヲ爲スコキモノナルヤヲ示定セリ

本編中強制執行ニ付保證ヲ立ツルノ義務ヲ負フ場合ト保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ或ル

○強制執行

六百十七

○強制執行

六百十八

行爲ヲ爲スコトヲ許シタル場合トヲ問ハス其保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲ス原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ノ中ニテ便宜ニ從ヒ其一裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得而シテ幾何ノ保證ヲ立テ若クハ供託ヲ爲スヘキカ又如何ナルモノヲ以テ之ヲ立ツ可キカハ各本條ト第八十七條ニ因テ知ルコトヲ得ヘシ本編中保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコキ場合ハ第五百條第五百三條第五百五條第五百二十二條第五百四十九條第六百五十六條等ニ規定シアリテ枚擧ニ違アラス

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其求ニ因リ之カ證明書ヲ付與セサル可ラズ即チ保證ヲ立テ供託ヲ爲シタル者ハ此證明ニ因リ始テ強制執行ヲ爲シ又ハ強制執行ヲ免カレ或ハ強制執行上ノ行爲ヲ爲シ得ヘキナリ(本法第五百二十九條第二項)

〔參照〕 獨 第六百五十九條 第六百五十二條第二項ニ從ヒ負債者ニ保證ヲナサシメ又ハ藏寄ヲナサシメテ執行ヲ免ル、コトヲ許ストキハ抵當金又ハ抵當品ノ賣得金ヲ藏寄スヘキモノトス

第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判

所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

第五百十五條 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ

ム可キトキ

第三 本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ

第四 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサリシトキ但訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ本人ニ送達セサリシトキニ限ル

第五 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

〔解義〕 〔理由〕 〔的例〕 此兩條ハ外國裁判所ノ判決ニ依リ本邦ニ於テ強制執行ヲ爲スニ付テノ規定ナリ

第五百十四條 第五百十五條 外國裁判所ノ判決ニ付テハ本邦裁判所ニ於テ口頭審理ノ

○強制執行

六百十九

○強制執行

末執行判決ヲ以テ執行ヲ爲スコトヲ許シタルトキニ限り強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ若シ如此定メサルモハ或ハ謂レナキ裁判ノ執行ヲ強イラル、カ如キコトアルノミナラズ他邦ノ命令ニ強制セラル、カ如キ不都合ノ結果ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ故ニ執行判決ナル一ノ方法ヲ設ケ如此嫌ヲ避ケシメ其命令ハ決シテ他邦ノ命令ニ非ラサルコトヲ明ニシテ強制力ヲ用ニルニ適當ノ理由ヲ備ヘシメ併セテ外國裁判所ノ判決ノ果シテ適法ノ判決タルヤ否ヤヲ調査セシメ不法ノ命令ニ苦シマシムルカ如キコトナカラシムルモノナリ

此執行判決ヲ求ムルニハ通常ノ法式ニ從ヒ訴訟ヲ提起ス可シ且訴訟ハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所若シ普通裁判籍ナキトキハ第十七條ニ依リ其財産又ハ請求スルモノ、所在地ヲ管轄スル裁判所ニ提起ス可シ而シテ事物ノ管轄ニ付テハ事件ノ性質又ハ價格ノ多寡ニ因リ或ハ區裁判所ニ屬シ或ハ地方裁判所ニ屬ス可キナリ

執行判決ハ單ニ其判決ヲ執行セシム可キヤ否ヤヲ判定スルニアリテ其判決ノ適否ヲ調査スルヲ得ス何トナレハ判決ノ適否ヲ調査スルトキハ是レ判決ヲ更改スルノ所爲ニシテ取モ直サス外國裁判所ニ對スル上級裁判所トナルモノナレハナリ

本法ニ於テハ如何ナル判決コソ本邦ニ於テモ執行力ヲ有スルモノナルカヲ定メス所謂反對論法ヲ以テ執行判決ニ於テ適法トシテ言渡ス可ラサル場合ヲ列記シ第一ヨリ第五ニ列記シタル場合ニ於テハ裁判所ハ外國ニ於テ言渡サレタル判決ニ付キ執行力ヲ付與スヘカ

ラサルモノトナセリ故ニ此五个ノ場合ヲ除ク外ハ外國裁判所ノ判決ヲ適法ノモノト認メサル可ラス

即チ左ニ掲クル五个ノ一ニ該當スルトキハ強制執行ヲ爲シ得サルモノトシテ其訴ヲ却下ス可キナリ

第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ  
内國裁判所ノ判決ト均シク執行判決ヲ求ムルモノハ先ツ其判決ノ確定セルコトヲ證明セサル可ラス若シ證明ニシテ欠クルトキハ其訴ヲ却下セラル可キナリ而シテ判決ノ確定ハ外國法ニ於テ確定スルヲ要ス故ニ内國ノ法ニ於テハ上訴期間内ナルモ外國法ニ於テ其期間ヲ經過セハ可ナリ又内國法ニ於テ確定ス可キモ外國法ニ照シテ未確定ナルトキハ同シク却下セラル、ヲ免レス又判決ノ確定トアルヲ以テ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付シアルモ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第二 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ爲サシム可キトキ

例ヘハ佛獨等ノ法律ニ於テハ民事上ニ拘留ヲ爲スコトアレトモ本邦ニハ斯ル法律ナキヲ以テ其判決文ニ此事アルモ本邦ニ於テハ執行ス可カラサルカ如シ

第三 本法ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ

例ヘ佛國ニ於テハ不動産ニ關スル訴ハ不動産所在地若クハ被告ノ住所ノ地ニ提起シ得ヘキヲ以テ被告ノ住所地ニ依リ佛國裁判所ニ於テ日本ニ在ル不動産上ノ訴訟ヲ判決シタリ

○強制執行

○強制執行

トセシニ本邦ニ於テハ不動産上ノ訴訟ハ不動産所在地ノ裁判所ニ專屬スルヲ以テ本邦ノ法律ヨリセハ佛國裁判所ハ管轄權ヲ有セサルノ類是ナリ

第四 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セザリシトキ

然レトモ訴訟ノ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又ハ本法第五百十三條ノ如ク法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ本人ニ送達シタルトキハ其懈怠本邦人ニ在ルヲ以テ固ヨリ執行判決ヲ爲スヲ妨ケズ

第五 國際定約ニ於テ相互ヲ保セザルトキ

外國裁判所ノ判決ハ一般ニハ本邦ニ於テ強制執行ヲ爲スヘキニ非ラス唯國際定約ニ依リ交互相保シ其利益ヲ交換スルノ目的ヲ以テ互ニ之カ執行ヲ爲スヘキ特別ノ約定アリタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ其請求ヲ爲スモノ、本國ト本邦トノ間ニ斯ル條約ナキトキハ之ヲ爲サズ

〔參照〕 獨 第六百六十條 外國裁判所ノ判決ニ依テナス權制執行ハ執行判決ヲ以テ之ヲ許スノ言渡ヲナシタルトキニアラサレハナスコトヲ得ス

其言渡ヲ求ル訴訟ニ付テハ負債者ノ普通管轄ヲ有スル區裁判所又ハ地方裁判所權限ヲ有シ其裁判所ナキトキハ第二十四條ニ從ヒ負債者ニ對シ訴訟ヲ提起シ得ル區裁判所又ハ地方裁判所權限ヲ有スルモノトス

獨 第六百六十一條 執行判決ハ判決ノ法律ニ適スルヤヲ審査スルコトナクシテ之ヲ言

渡スヘキモノトス

其判決ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ言渡スヘカラサルモノトス

第一 外國裁判所ノ判決其裁判所ニ現行スル法律ニ從ヒ未タ確定セザリシトキ

第二 權制執行ノ許否ヲ判決スル獨逸裁判官ノ法律ニ依ルニ強テナサシムルコトヲ許サル行爲ヲ其執行ニ依リ強テナサシムルニ至ルトキ

第三 權制執行ノ許否ヲ判決スル獨逸裁判官ノ法律ニ依ルニ外國裁判所ノ屬スル國ノ諸裁判所權限ヲ有セザリシトキ

第四 敗訴ノ言渡ヲ受ケタル負債者獨逸人ニシテ審問ニ就カザリシトキ但審問ヲ開始スル喚出又ハ命令ヲ訴訟裁判所ノ所屬國ニ於テ本人ニ送達セズ及法律上補助ヲ與ヘ獨逸國ニ於テ送達セザルトキニ限ル

第五 相互ヲ保證セザリシトキ

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又ハ訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

○強制執行

○強制執行

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

〔解義〕〔理由〕第五百十六條ハ強制執行ハ何ヲ根據トシテ行フヘキモノナルヤ且根據ト爲ルモノハ何人ニ於テ之ヲ與フルモノナルヤヲ示定シ第五百十七條ハ執行文ハ如何ナル書式ニシテ且如何ナル方法ヲ以テ之ヲ與フルヤヲ示定セリ

第五百十六條 第五百十七條 眞執行ト假執行トヲ問ハス執行原因ヲ有スル債權者ハ其原因ニ依リテ以テ直ニ強制執行ヲ求ムヘキモノニ非ラス必ス其原因ヲシテ執行力ヲ發生セシムルノ手段ヲ施ササル可カラズ此原則ニ付テハ獨リ執行命令ノ例外アルノミ(本法第五百六十一條)

凡ソ強制執行ヲ實施セントスル者ハ眞執行ト假執行トノ別ナク裁判所ニ申立テ、其執行原因ニ基ク所ノ執行文ヲ付記シタル判決正本ノ付與ヲ受ケサル可ラス是ニ於テ執行原因ルモノ始テ執行力ヲ發生ス可キナリ故ニ強制執行ヲ實施セシムルハ判決正本ナルコト、執文ヲ付スルコトノ二條件ヲ次ク可カラズ執行文ヲ付セタル、モ若シ其判決書カ正本タナラサルハ之ニ依テ執行ヲ阻ユルコト能ハス又判決正本ト雖トモ執行文ノ付セラレザ行ルトキハ同シク執行スル能ハサルナリ抑執行文ヲ付スルハ訴訟記録ニ因テ之ヲ爲スモノナルヲ以テ執行文ノ付與ヲ求ムルハ常ニ訴訟記録ノ存在スル第一審裁判所ノ書記局ニ爲スヲ以テ通例トス然レトモ訴訟カ上級裁判所ニ繫屬シテ其中ノ一部分ノニ確定セル場合ニ於テハ訴訟記録ノ上級裁判所ニ存在スルヲ以テ同裁判所ノ書記局ニ之カ請求ヲ爲ササルヘカラス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ書面ニ限ラス口頭ヲ以テモ之ヲ爲スヲ得ヘシ此場合ニ於テハ書記ハ本法第三百三十五條ニ從ヒ調書ヲ作り之ニ相當印紙ヲ貼用セシムヘキナリ當事者ヨリ執行文ヲ求ムルトキハ書記ハ當事者ヨリ判決正本ヲ呈出セシメ若シ正本ヲ呈出スル能ハサルトキハ判決正本ヲ作り其末尾ニ左ノ如ク付記ス可キナリ  
前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス  
右ノ如ク附記シ尙ホ之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ若シ執行文ニシテ以上ノ規定ニ違反スルトキハ債務者ハ之カ執行ヲ拒ムコトヲ得ヘシ即チ判決正本ノ末尾ニ執行文ノ附記アラサルカ或ハ書記ノ署名捺印若クハ裁判所ノ押印等之ノアラサルニ於テハ此判決書ハ強制シテ執行セシムヘキ効力ヲ生セサルヲ以テ債務者ハ違法ヲ理由トシテ抵抗スルコトヲ得ヘシ  
然レトモ第五百十七條ノ執行文ノ書式ハ其一例ヲ示シタルニ過キササルヲ以テ場合ニ依リ

○強制執行



○強制執行

其文句ニ増減ヲ生スル固ヨリ不可ナルコトナシ  
以上ハ確定シタル判決及ヒ假執行ノ宣言ヲ爲シタル判決又ハ執行判決ニ依リ本邦ニ於テ  
強制執行ヲ爲シ得ヘキ外國裁判所ノ判決ノミナラス第五百六十條ノ規定ニ依リ第五百五  
十九條ノ債務名義ニ付テモ亦之ヲ準用ス可キヲ以テ最モ注意研究セサル可カラス故ニ第  
五百五十九條第五號ノ公證人ノ作りタル公正證書モ若シ其債務ヲ盡サ、ルトキハ強制執  
行ノ基本タルヘキ債務名義トナルト雖トモ第五百六十二條ニ依リ執行文ヲ付セサル限リ  
ハ直ニ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス其他ノ場合モ皆此總則ノ準用ニ依リ然ラサルヲ得サル  
ナリ然レトモ本法ノ明文ニ依リ左ノ三箇ノモノハ承繼ナキ限リハ變例トシテ執行文ヲ付  
セシテ強制執行ヲ爲シ得ヘキナリ

一 執行命令(本法第三百九十三條第五百五十九條第二號第五百六十一條)

二 假差押(本法第七百四十九條)

三 假處分(本法第七百五十六條第七百四十九條)

〔參照〕 獨 第六百六十二條 權利執行ハ執行文ヲ備ヘタル判決ノ公製書(公製執行書)ニ  
依リ之ヲナスモノトス

其公製執行書ハ始審裁判所ノ裁判所書記之ヲ交付シ訴訟上級裁判所ニ於テ裁判關係トナ  
スルトキハ其裁判所ノ裁判所書記之ヲ交付スルモノトス

獨 第六百六十三條 執行文ハ左ノ文面ヲ記載シテ判決ノ公製證ノ末尾ニ附加シ裁判所

書記ノ署名及裁判所ノ印ヲ備フヘキモノトス

此公製書ハ某ニ(原被告)一方ノ記名(權利執行)ノ爲メ交付スルモノトス

第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣  
言アリタルトキニ限り之ヲ付與ス

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繋ル場合ノ外他ノ條件  
ニ繋ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ  
證スルトキニ限り執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

〔解義〕 〔理由〕 〔的例〕 本條ハ執行力アル正本ハ如何ナル場合ニ於テ付與セラルヘキモ  
ノナルヤヲ示定セリ

執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限り之ヲ付與  
ス第五百五十九條第一號第三號第四號ハ別段時期ヲ俟ツヲ要セサルカ故ニ直ニ執行力ア  
ル正本ヲ付與スヘク同條第五號ノ公正證書ニ付テハ契約上債務ヲ履行ス可キ時期ヲ經過  
セハ法律上強制執行ヲ爲シ得ヘキ時期到來セルヲ以テ執行力アル正本ヲ付與スヘキモノ  
トス而シテ執行力アル正本ヲ付與スルニハ先ツ訴訟記録ニ照シ果シテ判決ノ確定セルト  
キカ或ハ假執行ノ宣言アリタルトキ或ハ和解等ノアリタルトキ之ヲ付與スヘク若シ記録  
ニ依リ之ヲ知ル能ハサルトキハ執行文ヲ求ムル者ハ第四百九十九條第三項ノ證明書ヲ提

○強制執行

○強制執行

出シテ之ヲ知ラシメサル可ク  
判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ヲ除キ其他ノ條件ニ繫ル場合ニ  
於テハ例ヘハ原告ニ於テ此ノ如キ行為ヲ施シテ被告ヨリ何品ヲ受取ルヘシトカ或ハ原告  
ニ於テ物品ヲ引渡シタルハ金何圓ヲ支拂フ可シト云フ反對給付ヲ以テ履行スヘキ判決ノ  
如キハ債權者ヨリ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證明スルトキニ限り執行力アル  
正本ヲ付與ス可キナリ何トナレハ其證明ヲ湮タサレハ裁判所ハ其條件ノ成否ヲ知ル能ハ  
サレハナリ然レトモ判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ直ニ執行  
力アル正本ヲ付與ス何トナレハ此場合ニ於テハ債務ヲ履行スヘキ時期至ラサルニアラス  
唯其保證ハ執行ニ付テノ危險ヲ保護スルノ目的ニ出ツルモノナルニ第五百二十九條ニ至  
リ之ヲ證明スルニアラサレハ執行ニ着手スルコトヲ得サラシムレハナリ

〔參照〕 獨 第六百六十四條 主旨ニ依ルニ債主ニ於テ其義務タル保證ヨリ他ノ事實ノ生  
シタルコトヲ證明スルニアラサレハ執行スルコトヲ得ヘカラサル判決ニ付テハ公製證書  
ヲ以テ證據ヲ舉ルトキニ限り執行公製書ヲ交付スルコトヲ許スモノトス

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲  
メニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之  
ヲ付與スルコトヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書  
ヲ以テ之ヲ證明スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

〔解義〕 〔理由〕 本條ハ執行力アル正本ハ當事者双方間ノミナラス其承繼人ノ爲メニモ之  
ヲ付與ス可キコトヲ示定セリ

執行力アル正本ハ當事者双方ノ承繼人ニモ之ヲ付與スルコトヲ得抑承繼人ニハ買主讓受  
人ノ如ク特定ノ承繼人ト普通ノ相續人ノ如ク一般ノ承繼人トノ別アリ而シテ債權者ノ承  
繼人ノ爲メニ付與スルトキハ一般ト特別トヲ問ハズ總テノ承繼人ヲ包含シ債務者ノ承繼  
人ニ對シ之ヲ付與スルトキハ一般ノ承繼人ニ限レリ如此區別スル所以ノモノハ債務ノ承  
繼ハ概テ一般承繼人ニシテ特定承繼人トナルカ如キハ甚シキ變例ナレハナリ

如此承繼人ノ爲メニ又承繼人ニ對シテ之ヲ付與スルハ其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルト  
キ又ハ證明書ヲ以テ證明サレタルトキニ限ルモノトス

〔參照〕 獨 第六百六十五條 執行公製書ハ判決ニ載セタル債主ノ權利相續人ヲ利スル爲  
メ并ニ債權主ノ普通權利相續人ヲ不利スル爲メ交付シ及負債者ノ權利相續人ニシテ訴訟  
トナリタル物件ヲ其裁判關係中又ハ訴訟終結後買受ケタル者ヲ不利スル爲メ第二百三十  
六條第二百三十八條ヲ斟酌シテ交付スルコトヲ得但其權利相續裁判所ニ判然スルトキ又  
ハ公製ノ證書ヲ以テ其權利相續ヲ證明スルトキニ限ル  
其權利相續裁判所ニ判然スルトキハ之ヲ執行文ニ記載スヘキモノトス

第五百二十條 第五百十八條第二項及第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行

○強制執行

カアル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得  
裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得  
右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

〔解義〕〔理由〕本條ハ前二條ノ場合ニ於テハ裁判長ノ命令アルトキニ限り執行力アル正  
本ヲ付與ス可キコトヲ示定セリ

第五百十八條第二項ノ判決カ或條件ニ繫ル場合ニ於ケル執行正本及ヒ第五百十九條ノ承  
繼人ニ及フ執行正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與ス尙ホ第五百二十三條ニ至  
レハ執行正本ノ撤回ヲ付與スルカ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決  
ノ執行正本ヲ付與スルトキモ同シク裁判長ノ命令ヲ待ツコト、セリ蓋シ此等ノ執行正本  
ハ其關係ノ及フ所大ニシテ深ク慎重ヲ加フルニアラサレハ測ル可カラサルノ弊害ヲ生ス  
ルニ至ルヲ以テ特ニ裁判長ノ責任ヲ以テ之ヲ付與スルコト、爲セシモノナラン

裁判長ハ本條第一項ノ命令ヲ爲サントスルニ必要ナル場合ニ於テハ或ハ書面ヲ以テ或ハ  
口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得ヘシ即チ之カ審訊ニ依リ債務者ニ反證アルヤ又ハ  
異議アルヤ否ヲ慥メ以テ適當ナル命令ヲ爲ス可キナリ

裁判長ノ命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス即チ裁判長ノ命令ニ依リ之ヲ付與スト記載スヘキナ  
リ若シ此命令ニシテ附記セラレサルトキハ債務者ハ之ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得  
〔參照〕 獨 第六百六十六條 第六百六十四條第六百六十五條ノ場合ニ於テ執行公製書ハ

裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ交付スルコトヲ許スモノトス

其判決前債権者ヲ尋問スルコトヲ得

其命令ハ執行文ニ之ヲ記載スヘキモノトス

第五百二十一條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル  
證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債権者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第  
一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

〔解義〕本條ハ第五百十八條第二項及第五百十九條ニ依リ條件ノ到達シタルコト又ハ承繼

アリタルコトヲ證明スル能ハサルトキハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付第一審ノ受訴裁判  
所ニ起訴シ得ヘキコトヲ示定セシマテニシテ別ニ説明ヲ要セス

〔參照〕 獨 第六百六十七條 第六百六十四條第六百六十五條ニ從ヒ必要ナル證明ヲ公製

證書ヲ以テナスコト能ハサルトキ原告ハ判決ニ依リ始審ノ訴訟裁判所ニ執行文ノ交付ヲ  
求ムルノ訴訟ヲ提起スヘキモノトス

第五百二十二條 執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ

其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ  
之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメ強制執

行ヲ續行スヘキヲ命ズルコトヲ得

〔解義〕〔的例〕本條ハ執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立ツル場合ニ於ケル管轄裁判所及其場合ニ於ケル裁判長ノ職權ヲ示定セリ

執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツルトキ例エハ判決未タ確定セサルトカ或ハ第五百十八條第二項ノ條件到着セサルトカ或ハ第五百十九條ノ承繼アラサルトカ或ハ第五百二十三條ノ正本敷通ヲ與ヘタルハ不當ナリトカ之カ異議ヲ申立ツルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス故ニ上級裁判所ノ書記ニ於テ執行文ヲ付與シタルトキハ上級裁判所之ヲ管轄ス

裁判長ハ異議ノ申立或ハ理アリト認ムルトキハ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ執行ノ續行ヲ命スルカ如ク假ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘン

〔參照〕獨 第六百六十八條 執行文ノ交付ニ關スル負債者ノ不服ニ付テハ其執行文ヲ交付シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁決スルモノトス其裁決ハ豫メ口頭上ノ審問ナクシテ之ヲナスコトヲ得

裁判所ハ其裁決前臨時ノ命令ヲ發スルコトヲ得特ニ保證ヲ得又ハ保證ヲ得スシテ權利執行ヲ一時停止スヘキコト又ハ保證ヲ得ルトキニ限り繼續スヘキコトヲ命スルヲ得

第五百二十三條 債權者カ執行力アル正本ノ敷通ヲ求メ又ハ前ニ付與シ

タル正本ヲ返還セヌシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルヲ得相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ敷通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ敷通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

〔解義〕〔理由〕〔的例〕本條ハ敷通ノ執行力アル正本ヲ付與ス可キ場合ヲ示定セリ

債權者ハ債務者ノ財産各所ニ散在シテ一時ニ執行セサル可ラサルトキ又動産ニ對スル執行ト不動産ニ對スル執行ヲ同時ニ爲サント欲スルカ如キ場合ニ於テハ執行力アル正本敷通ヲ求メ又ハ前ノ正本ヲ返還セヌシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ書記ハ裁判長ノ命令ニ因リ之ヲ付與セサルヘカラス

裁判長ハ必要アルトキハ其命令ヲ與フル前書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審問シテ其意見ヲ聞クコトヲ得ヘシ

裁判長ニ於テ債務者ヲ審訊スルノ必要ナシト思惟シ直ニ正本敷通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ債務者ニ通知ス可キナリ蓋シ債務者ニ於テ其事ヲ知ラサルト

○強制執行

キハ不意ニ執行ヲ受ケ豫想ス可ラサル損害ヲ被ムルノ恐レアレハナリ  
正本數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其各正本ニ數通ヲ與ヘタルコト又更  
ニ正本ヲ與ヘタルコトヲ明記ス可キナリ

〔參照〕 獨 第六百六十九條 再度ノ執行公製書ハ最初ニ交付シタル公製書ヲ還付セサル  
トキニ限り裁判長ノ命令アルニアラサレハ同一ノ原被告一方ニ之ヲ交付スルコトヲ許サ  
ス

其裁決前債債者ヲ尋問スルコトヲ得

裁判所書記ハ再度ノ公製書ノ交付ヲ命スル裁決ノ言渡ナキトキ對手ニ其交付ヲ通知スヘ  
キモノトス

再度ノ公製書ニハ裁決ヲ記載シテ其旨ヲ明記スヘキモノトス

第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若

クハ被告ノ爲メ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

〔解義〕 本條ハ執行力アル正本ヲ付與スルトキハ其以前ニ判決ノ原本ニ原告若クハ被告ノ  
爲メニ執行力アル正本ヲ付與スル旨及ヒ之ヲ付與スル日時ヲ記入ス可キコトヲ示定セリ  
如此語入ヲ爲ス所以ノモノハ已ニ執行力アル正本ヲ付與シタルコトアリヤ否ヤヲ知ルノ  
便ニ供スルモノナリ

第二審ノ裁判ヲ經テ其訴訟記録ノ第一審ニ戻リタルトキハ執行力アル正本ハ第一審裁判

所ニ於テ付與スヘキコトハ前已ニ説明シタル所ナリ然ルニ第二審ニ於テ第一審ノ裁判ヲ  
廢棄シ更ニ裁判ヲ爲シタルトキハ判決原本ハ第二審裁判所ニ存在スルヲ以テ本條ニ云エ  
ル原本記入ノコトハ第一審裁判所ニ於テハ到底爲ス可ラサルカ如シ然レトモ此場合ニ於  
テハ第二審ヨリ訴訟記録ト共ニ返付シ來リタル認證原本ニ此記入ヲ爲ス可キナリ  
〔參照〕 獨 第六百七十條 執行公製書ヲ交付スル前ニ原被告孰レノ一方ノ爲メ及ヒ何レ  
ノ時ニ於テ其公製書ヲ交付シタルヤヲ判決ノ原本ニ記載スヘキモノトス

第五百二十五條 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄

内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲ス  
モ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數  
箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

〔解義〕 〔的例〕 第五百二十五條ハ執行力アル正本ノ效力ヲ示定シ第五百二十六條ハ強制  
執行ハ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ爲シ得ヘキコトヲ示定セリ

第五百二十五條 第五百二十六條 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管  
轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フ故ニ東京裁判所ニ於テ付與シタル執行力ア  
ル正本ハ大坂ニ往クモ又仙臺ニ往クモ至ル所ニ於テ強制執行ヲ爲シ得ヘキナリ

○強制執行

○強制執行

又債權者ハ債務者ガ各所ニ財産ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ執行セザルトキハ其目的ヲ達スル能ハスト思惟スルトキハ敷通ノ執行力アル正本ヲ求メテ各地ニ於テ同時ニ執行スルコトヲ得ヘシ又債務者ガ動産及ヒ不動産或ハ債權ヲ有セシニ先ニ動産ノ執行ヲ爲シ後ニ不動産又ハ債權ニ及フトキハ債務者ハ其間ニ不動産又ハ債權ヲ他ニ移轉シ遂ニ其目的ヲ達スル能ハスト思惟スルトキハ同シク敷通ノ執行力アル正本ヲ求メテ同時ニ動産不動産及ヒ債權ニ對スル強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

〔解義〕〔理由〕 本條ハ執行裁判所ノ所在地ニ假住所ヲ選定ス可キコトヲ示定セシマテニシテ本法第四百三十三條ト同シク執行上ノ送達通知ヲ受クルニ便ナラシムルノ趣旨ニ出ツ第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明スヘキ事實ノ到來ニ緊ルトキ又ハ判決ノ執行力判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行スヘキ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

〔解義〕〔附例〕 本條ハ強制執行ニ着手スル前盡サ、ル可ラサル手續ヲ示定セリ

執達吏又ハ裁判所カ強制執行ヲ實施スルニハ其眞執行ナルト假執行ナルトヲ問ハス執行ヲ求ムル所ノ債權者及執行セラル、所ノ債務者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決書ヲ既ニ送達シアルカ又全時ニ送達スルニ非サレハ之ヲ始ムルコトヲ得ス而シテ債權者債務者ノ氏名ハ通例判決書ニ表示セラル、ト雖トモ本法第五百十九條ノ如ク承繼人ノ爲メ又承繼人ニ對シテ執行力正本ヲ付與スル場合ニ於テハ其氏名ハ執行文ニ表示セラル可キナリ又強制執行ハ通例裁判確定ノ後實施セラル、モノニシテ之ヲ確定セシメシニハ第五百三十八條ニ依リ判決ノ正本ヲ送達セサル可ラサルヲ以テ執行ヲ爲ストキ之ト同時ニ判決ヲ送達スル場合絶テ生セサルモノ、如キモ決シテ然ラス上告審ノ判決ハ言渡ヲ以テ確定スルモノナレハ別ニ判決ヲ送達セサルコトモアルヘク又假執行ノ宣言ヲ爲シタル判決ノ如キモ執行ノ際未タ送達セラレサルコトアラソスルトキハ執行着手ト

○強制執行

○強制執行

同時ニ之ヲ送達ヲ爲サル可ラサルナリ  
判決ノ執行力債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ即チ第五百十八條第二項ノ場合  
ナルカ又ハ判決ノ執行力承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ承繼人ニ對シテ爲ストキ即チ第五百十九  
條ノ場合ナルトキハ特リ判決ノ送達ヲ以テ足レリトセス尙ホ執行ヲ始ムル前判決ニ執行  
文ヲ附記シタル正本ヲ送達セサル可ラス又第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ規定  
ニ從ヒ證明書ニ依リ執行力正本ヲ付與シタルトキハ其證書ノ謄本ヲモ其前又ハ之ト同時  
ニ送達セサル可ラス

本條ノ規定ニ背テ執行セントスルトキハ債務者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ヘク執達更又ハ裁判  
所モ其執行委任ヲ拒絕スルコトヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第六百七十一條 權利執行ハ之ニ依テ利ヲ蒙ルヘキ人及不利ヲ蒙ルヘキ人ヲ  
判決又ハ之ニ附加シタル執行文ニ指名シ及判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキ  
ニ限リ之ヲ始ムルコトヲ許スモノトス  
判決ノ執行主旨ニ依ルニ債主ニ於テ事實ノ生シタルコトヲ證明スルニアラサレハ之ヲナ  
スコトヲ得ヘカラサルトキ又ハ判決ノ執行之ニ載セタル債主ノ權利相續人ヲ利シ又ハ之  
ニ載セタル負債者ノ權利相續人ヲ不利スルモノナルトキハ執行スヘキ判決ノ外亦之ニ附  
加シタル執行文及公製證書ニ依リ執行文ヲ交付シタルトキニ限リ亦其證書ノ謄本ヲ權利  
執行ヲ始ル前ニ送達シ又ハ之ヲ始ムルト同時ニ送達スヘキモノトス

第五百二十九條 請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿  
了後ニ限リ強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行力債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ  
立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又  
ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ其執行ヲ始ムルコトヲ得

〔解義〕 〔理由〕 〔的例〕 本條ノ請求ノ主張カ或日時ノ到來ニ繫ル場合及ヒ執行ニ付キ保  
證ヲ立ツルコトヲ要スル場合ニ於ケル執行方法ヲ示定セリ

請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限リ強制執行ヲ始ムルコト  
ヲ得例ヘハ毎年十二月十五日ニ金貳百圓ツ、五ヶ年賦ニ辨濟ス可シトノ判決ヲ受ケタル  
トキハ之ニ對シテ執行文ヲ付與スルモ十二月十五日ヲ過クルニ非ラサレハ強制執行ヲ始  
ムルヲ得サルカ如キ是ナリ

又執行力債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テ  
ノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ執行着手ト同時ニ債務者ニ送達シタ  
ルトキニ限リ其執行ヲ始ムルコトヲ得ヘシ  
以上ハ權利關係ニ付テノ條件ニ非ラサルヲ以テ唯執行着手ニ付テノ之カ制限ヲ爲セリ

〔比較〕 本條下第五百十八條第二項トハ五ニ類似スル所アツト雖トモ其間大ナル差違アリ

○強制執行

○強制執行

六百四十六

即ち第五百十八條第二項ノ權利關係上ニ條件ヲ付スルモノヲ以テ其條件ノ到着スルニ非サレハ權利ノ關係未タ正確ナラス故ニ其權利ノ確立ヲ認ムルニ非サレハ執行文ヲ付與スル能ハスト雖トモ本條ハ其權利關係明確ナルヲ以テ執行文付與ニ付テハ一般ノ場合ト異ナルコトナシ唯執行着手ニ付テ之ヲ制限ヲ爲スノミ

〔參照〕 獨 第六百七十二條 曆日ノ來ルニアラサレハ請求ヲ爲スコトヲ得ヘカヲサルトキ權利執行ハ其曆日ノ經過シタルトキニ限り之ヲ始ルコトヲ許スモノトス  
債主ノ義務タル保證ヲナスコアラサレハ權利執行ヲナスコトヲ得ヘカヲサルトキハ公製證書ヲ以テ其保證ヲシタルコトヲ證明シ及其證書ノ謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルトキニ限り其執行ヲ始ルコトヲ許スモノトス

第五百二十條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り之ヲ始ムルコトヲ得  
此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與スヘシ

〔解義〕 本條ハ常備現役ノ軍人ニ對シテ執行ヲ始ムルトキノ手續ヲ示定セリ

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人即ち常備、現役ノ軍人ニ對シテ強制執行ヲ爲サントスルトキハ豫メ上班司令官廳即ち何師團何旅團何鎮守府ト云フカ如ク其上班司令官廳ヘ之ガ通知ヲ爲サ、ル可カラヌ若シ通知ヲ爲サ、ルトキハ債務者ハ執行ヲ拒ムコトヲ得ヘシ如シ此通知ヲ以テノ要件トナセル上ハ債權者ハ其通知ヲ爲シタルコトニ付證明ヲ得ルノ方法

ヲ定メサル可ラス故ニ本條ハ債權者ノ求メアル官廳ニ其證明ヲ付與スヘキコトヲ命セ

〔參照〕 獨 第六百七十三條 常備ノ陸海軍人軍屬ニ對シテハ其所屬軍事官廳ニ通知ヲナシタル後ニアラサレハ權利執行ヲ始ルコトヲ許サス

求メニ依リ軍事官署ハ其通知ヲ受取リタルコトノ證書ヲ債主ニ交付スヘキモノトス

第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り執達吏之ヲ實施ス

債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

〔解義〕 〔的例〕 本條ハ執行行為ハ何人ニ因テ實施サルヘキヤヲ示定セリ

強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り執達吏之ヲ實施ス此法律ニ於テ別段ニ規定セル場合ハ數多アリ執行上ノ裁判及ヒ執達吏自ラ爲シ得サル事ノ共力ニ付テハ本法第五百三十六條第二項第五百四十四條第五百五十五條第五百五十六條第五百五十七條第五百六十五條第二項第五百八十三條第五百八十五條第五百八十八條等ニ之ヲ規定シ又執行裁判所ニ於テ執行スルモノ少カラヌ本編第二章第一節第三款ノ債權及ヒ他ノ財産權

○強制執行

六百四十一



○強制執行

ニ對スル強制執行同第四款ノ配當手續同第二節ノ不動産ニ對スル強制執行同第三節ノ船舶ニ對スル強制執行第三章ノ金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行等はナリ以上ハ執達吏ニ於テ執行スルノ權ヲ有セス本法ニ於テ執達吏ノ職權ニ委スルモノハ僅ニ有体動産ニ對スル強制執行ノミ故ニ執行ハ強テ執達吏ニ於テ之ヲ實施スルヲ本則ト爲ス可ラサルナリ

又債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得ヘシ甲裁判所管内ニ在ル債權者カ乙裁判所管内ニ於テ強制執行ヲ爲サントスルトキ就中地方裁判所ノ管内ヲ異ニスルトキハ他管内ノ執達吏ニ委任セサルヘカラサルノ不便アルヲ以テ其管内區裁判所書記ニ補助ヲ求メ書記ノ媒介ニ因リテ他ノ區裁判所ノ執達吏ニ委任スルハ最も便利ナリトス

裁判所書記カ當事者ノ求メニ因リ執達吏ニ委任ノ媒介ヲ爲シタルトキハ債權者ヨリ直接ニ其執達吏ニ委任シタルト同一ノ效力アリ

〔參照〕 獨 第六百七十四條 權制執行ハ裁判所ニ任セサルトキニ限り債主ノ委託ヲ受ケテナスヘキ裁判所使吏之ヲナシモノトス

債主ハ權制執行ヲ委託スルニ付キ裁判所書記ノ共力ヲ請求スルコトヲ得裁判所書記ノ委託シタル裁判所使吏ハ債主ノ委託ヲ受ケタルモノトス

第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ

義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルト

キハ第一ニ其責ニ任ス

〔解義〕 〔附例〕 本條ハ執達吏ノ責任ニ關スル規定ナリ

執達吏ハ手數料ヲ取リテ其職務ヲ行フカ故ニ隨テ其責任モ亦重大ナラサル可ラス執達吏カ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲ニ違背シタルトキ即チ債權者ノ委任以外ノ事ヲ爲シ若クハ委任シタル行爲ヲ爲サ、ルカ爲メ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキ又ハ職務上ノ義務ニ違背シタルトキ即チ法律ニ於テ命シタル行爲ヲ怠リ若クハ禁シタル行爲ヲ爲シタルカ爲メ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキ第一ニ其責ニ任セサル可ラス職務上ノ義務ニ違背スルトハ執行力アル正本ヲ所持セスシテ執行ヲ爲スカ如キ執行力アル正本ニ表示ナキ者ニ對シ執行ヲ爲スカ如キ未タ判決ノ送達ナキニ執行ヲ爲スカ如キ未タ執行ヲ爲ス可キ時ニ違セサルニ之ニ着手シタルカ如キ裁判所ノ許可ナクシテ夜間又ハ日曜日ニ執行ヲ爲スカ如キヲ云フ

第一ニ其責ニ任スルトハ債權者若クハ債務者ト共ニ其責ニ任セサル可ラサルカ如キ場合ニ於テモ執達吏ハ第一ニ其責ニ任シテ損害ヲ賠償セサル可ラサルヲ云フナリ

第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタ

ルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖トモ支拂其他ノ給付

○強制執行

○強制執行

六百四十四

ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

〔解義〕 本條ハ執達吏ノ權限即執達吏ハ如何ナル行爲ヲ爲シ得ヘキヤヲ示定セリ

執達吏ハ債權者ヨリ執行力アル正本ヲ交付シテ執行ヲ委任サレタルトキハ特別ニ書面上ノ委任ヲ受ケサルトモ執行ノ終了ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ債權者ニ代テ債務者ヨリ支拂又ハ物件ノ給付ヲ受取リ債務者ニ之カ受領證書ヲ仕渡シ又債務者カ完全ニ義務ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ハ恰モ返濟ヲ受ケタル以後ノ借用證書ト同シク反古ニ歸シタルモノナルヲ以テ之ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第六百七十五條 執行公製書ノ交付ヲ併セタル權制執行ノ書面上又ハ口頭上委託ニハ裁判所使吏ヲシテ支拂又ハ其他ノ供給ヲ受領セシメ其受領シタルモノニ付キ有效ニ受取證ヲ作ラシメ及負債者其義務ヲ履行シタルトキ之ニ執行公製書ヲ引渡サシムルノ委託ヲ含ムモノトス

第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

第五百三十五條 執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルトキト無シ

〔解義〕 第五百三十四條ハ執達吏カ債務者ニ對シ行ヒ得ヘキ權利及ヒ債權者下債務者トノ關係ヲ示定シ第五百三十五條ハ執行ヲ終了シタルトキノ職務上ノ行爲ヲ示定セリ

第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルトキハ債務者及ヒ第三者ニ對シ執行及ヒ前條ノ行爲ヲ爲スノ權利アリ故ニ債務者ハ故ナク執達吏ノ行爲ニ抵抗スルコトヲ得サルナリ又債權者ハ執達吏ニ執行力アル正本ヲ交付シタルトキハ執達吏ニ委任シタルコトナシトカ或ハ支拂其他ノ給付ヲ受取ルノ權限ヲ授ケザリシナト後日ニ至リ之カ異議ヲ唱フルコトヲ得サルナリ

此ニ注意ス可キハ第三者ノ語辭是レナリ裁判ノ効力ハ第三者ニ及ハサルハ一般ノ原則ナルニ第三者ニ對シ云々トアルハ恰モ此原則ニ抵觸スルカ如キモ決シテ然ラス此ニ所謂第

○強制執行

六百四十五

○強制執行

三者トハ本法第六十二條末項ノ訴訟ヨリ脱退セシモノニ對シ強制執行ヲ爲スカ如キ最モ變例ノ場合ヲ指稱セルモノナリ

債務者其他關係人ハ執行ヲ受クルノ際先ツ執達吏ニ執行力アル正本ヲ示サシムルコトヲ求ムルコトヲ得ヘシ故ニ執達吏ハ執行ニ臨ムトキ必ズ正本ヲ携帶シ求メアルトキハ之ヲ示シテ債權者ヨリ委任サレタルコトヲ證スヘキナリ

第五百三十五條 債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ハ反古ニ歸シタルモノナルヲ以テ最早債權者ニ於テ所持スルノ必要ナキノミナラス或ハ之ヲ所持スルトキハ再度ノ執行ヲ試ミントスルノ危險アルヲ以テ執達吏ハ正本ヲ債務者ニ交付シ且支拂其他ノ給付ニ代ヘ請取證ヲ交付スヘキナリ又債務者カ義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執達吏ハ其旨ヲ正本ニ附記シテ再ヒ全部ノ執行ヲ爲スカ如キ危險ヲ杜絶シ且一分ノ受取證ヲ債務者ニ交付ス可キナリ

債務者ハ執達吏ノ受取證ニ安ソセサルトキハ尙ホ債權者ノ受取證ヲモ求ムルコトヲ得ヘシ  
義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執達吏ハ前ノ如ク其旨ヲ正本ニ附記シテ之ヲ債權者ニ返付シ債權者ハ債務者カ資産ヲ得タルトキ幾度ニテモ此正本ニ因リ執行ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第六百七十六條 裁判所使吏ハ執行公製書ヲ現有スルニ依リ負債者及他人ニ

對シ強制執行及第六百七十五條ニ記載シタル行爲ヲナスノ權アルモノトス債主ハ委託ノ欠乏又ハ制限サ此等ノ人ニ對シテ申立ルコトヲ得ス

獨 第六百七十七條 裁判所使吏ハ供給物ヲ受取リタル後負債者ニ執行公製書及受領證ヲ引渡シ其一部ノ供給ニアリテハ之ヲ執行公製書ニ記載シ負債者ニ其受領證ヲ交付スヘキモノトス

負債者後日債主ノ受領證ヲ自ラ要求スルノ權ハ此規定ノ爲メ變更ヲ受クルコトナシ

第五百二十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用非且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

第五百二十七條 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

○強制執行

○強制執行

〔解義〕〔分析〕〔理由〕第五百三十六條ハ、執行上立會證人ヲ要ス可キ場合ヲ示定セリ、十七條ハ、執行上立會證人ヲ要ス可キ場合ヲ示定セリ

第五百三十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要已ヲ得サル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シテ財産ノ有無ヲ確ムルコトヲ得ヘク又住居、倉庫及ヒ筐匣ニシテ閉鎖シアルトキハ他人ヲシテ之ヲ開カシムルコトヲ得ヘシ

執行ノ爲メ必要ナル場合トアリ故ニ不必要ノ場合ニ於テハ此等ノ權利ヲ有セス而シテ必要ナル場合ト否トハ事實上ノ問題ナルヲ以テ之ヲ豫定ス可ラサルナリ

又強制執行ハ文字ノ示ス如ク公力ヲ以テモ之ヲ執行スルノ趣旨ナルヲ以テ債務者ニシテ抵抗スルトキハ執達吏ハ威力ヲ以テ其妨害ヲ排除シ且巳ノ力ニテ足ラサルトキハ警察上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得ヘシ又債務者カ數多ノ徒黨ヲ組ミテ執行ヲ妨ケ警察ノ力ニテモ之ヲ排除スル能ハサルトキハ執行裁判所ニ申立テ執行裁判所ヨリ軍衛ニ照會シテ兵力ヲ借リ之カ妨害ヲ除去スルコトヲ得ヘシ

本條末項ノ場合ニ於テハ執達吏ハ殊ニ注意セサル可ラス即チ本項ノ權力ヲ用ユルニハ第一法律上正當ナル強制執行ヲ爲ストキナルコト第二強制執行ニ對シ抵抗ヲ受ケタルトキ第三抵抗ヲ除ク爲メノ威力ナルコトノ三條件ヲ具備セサル可ラス

第五百三十七條 執達吏ハ公吏ニシテ一般信任セラ、ル所ナルモ抵抗ヲ受クルニ因リ前條ノ如キ權力ヲ用ユルトキハ又債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若シハ雇人ト出會ハサルトキハ特ニ其行爲ノ嚴正ヲ保スル爲メ成丁者二人又ハ市町村若シハ警察吏員一人ヲ證人トシテ其場ニ立會ハシメサル可ラス若シ本條ノ手續ヲ履マサルトキハ執達吏ノ行爲ハ不法ナルヲ以テ債務者ハ或ハ異議ヲ申立テ或ハ時々損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ

〔參照〕 獨 第六百七十八條 裁判所使吏ハ執行ノ爲メ必要ナリトスルトキニ限り負債者ノ住居及容圍ヲ搜索スルノ權アルモノトス

裁判所使吏ハ閉鎖シタル戸扉扉及容圍ヲ開カシムルノ權アルモノトス  
裁判所使吏ハ抵抗ヲ受ルトキ權力ヲ使用スルノ權ヲ有シ及之カ爲メ警察上執行吏ノ助力ヲ依頼スルコトヲ得軍事上ノ助力ヲ要スルトキハ執行裁判所ニ依頼スヘキモノトス

獨 第六百七十九條 權制執行處分ノ際抵抗チナストキ又ハ負債者ノ住居ニ於テスル權制執行處分ノ際負債者及其家族ニ屬スル者又ハ其家族ニ於テ雇使スル成丁者ノ不在ナルトキ裁判所使吏ハ成丁者二名又ハ市町村官吏又ハ警察官吏一名ヲ證人トシテ立會ハシムヘキモノトス

第五百二十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閱覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

〔解義〕 本條ハ強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ執達吏ノ書類ヲ閱覽セシメ若クハ

○強制執行

○強制執行

贖本ヲ付與スヘキコトヲ示定セシマテニシテ本法第二百二十四條ト同一精神ニ出ツルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第六百八十條 權制執行手續ノ際之ニ關與シタル各人ニハ其求メニヨリ裁判所使吏ノ公書ノ展覽ヲ許シ及各公書ノ贖本ヲ交付スヘキモノトス

第五百二十九條 夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行為ヲ爲スコトヲ得

右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示ス可シ

〔解義〕 本條ハ強制執行ヲ爲スヘキ日時ノ制限ヲ示定セシマテニシテ本法第百五十條ト同一精神ニ出ツルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第六百八十一條 夜間并ニ日曜日及一般ノ祭日ニハ權制執行處分ヲナスヘキ地ヲ管轄スル區裁判官ノ許可アルニアラサレハ其處分ヲナスコトヲ許サス

其許可ヲ與フル命令ハ權制執行ノ際之ヲ呈示スヘキモノトス  
夜間トハ四月一日ヨリ九月三十日ニ至ルマテハ午後九時ヨリ午前四時マテノ時間十月一日ヨリ三月三十一日ニ至ルマテハ午後九時ヨリ午前六時マテノ時間ナリトス

第五百四十條 執達吏ハ各執行行為ニ付キ調書ヲ作ル可シ  
此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 調書ヲ作りタル場所、年月日

第二 執行行為ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記

第三 執行ニ與リタル各人ノ表示

第四 右各人ノ署名捺印

第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閱覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示

第六 執達吏ノ署名捺印

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

〔解義〕 本條ハ執達吏ノ各執行行為ニ付調書ヲ作ル可キコト及ヒ其調書ニ記載セサル可ラサルノ要件ヲ示定セリ

執達吏ハ各執行行為ニ付本條列記スル所ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ作ラサル可ラヌ各執行行為トアルヲ以テ假令一執行中ト雖トモ各箇ノ執行行為ニ付キ必ス之カ調書ヲ作ラサル可ラヌ例ニハ差押ヲ爲シタルトキハ差押ヘ調書ヲ作り競賣ヲ爲シタルトキハ競賣調書ヲ作ルカ如キ是レナリ

○強制執行

○強制執行

本條第一號乃至第六號ハ一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス  
〔參照〕 獨 第六百八十二條 裁判所使吏ハ各權制執行處分ニ付キ筆記ヲ作ルヘキモノト  
ス

其筆記ニハ左ノ件々ヲ記載スヘキモノトス

第一 筆記ヲ作ル場所及時

第二 執行處分ノ事件及重要ナル事故ノ概略

第三 處分ヲ受ケタル者ノ氏名

第四 其者ノ署名及豫メ讀聞セヨナシ又ハ展覽ノ爲メ呈示シタル後及豫メ承諾アリタル  
後其署名ヲナシタルコト

第五 裁判所執行吏ノ署名

第四ニ掲ケタル要件ノ一ヲ充スコトヲ得サルトキハ其理由ヲ記載スヘキモノトス

第五百四十一條 執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ  
之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第三百二十九條、第  
百四十條及ヒ第四百四十五條乃至第四百四十九條ノ規定ヲ準用シテ其調書  
ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證書ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタ

ルコトヲ記載ス可シ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能  
ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送  
達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ載ス可シ

第五百四十二條 執行行爲ノ際債務者ニ爲スヘキ送達及ヒ通知ハ債務者  
ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

〔解説〕 本兩條ハ執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ヲ爲ス手續ヲ示定セリ

第五百四十一條 執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且催告  
又ハ通知ヲ爲シタルコトヲ調書ニ記載スルヲ以テ本則トナス

執行行爲ニ屬スル催告トハ本法第六百六十三條ニ於ケルカ如ク或ル事項ヲ知ラシメ或行  
爲ヲ爲スコトヲ促スヲ云ヒ通知トハ本法第五百六十六條第五百九十一條ニ於ケルカ如ク  
管ニ之ヲ知ラシムルニ過キサルモノヲ云フ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキ例ヘハ本人カ軍人若シハ囚人ナルカ或  
ハ住所ニ於テ本人ニ出會ハサルトキハ其調書ノ謄本ヲ作リ本法第三百三十九條第四百十條  
及ヒ第四百四十五條乃至第四百四十九條ノ規定ヲ準用シテ變例送達ヲ爲ス可キナリ而シテ調  
書ヲ送達スルニハ本法第五百五十一條ニ因リ送達證書ヲ作ルヘシト雖トモ執達吏ニ於テ別

○強制執行

○強制執行

六百五十四

ニ送達證書ヲ作ルヲ要セストナシテ之ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載シテ送達證書ニ代用ス可キナリ  
又強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ前手續ニ因リ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ調書ノ原本ヲ郵便ニ付シテ送達シ且其郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載スヘキナリ  
第五百四十二條 債務者ノ所在明カラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ債務者ニ爲スコトヲ要ス  
送達及ヒ通知ハ之ヲ必要トセス故ニ本法第五百五十六條ノ公示送達モ之ヲ爲スコトヲ要セサルナリ

〔參照〕 獨 第六百八十三條 執行處分ニ屬スル督促及其他ノ通知ハ裁判所使吏口頭ヲ以テ之ヲナシ及完全ニ筆記スヘキモノトス

其口達ヲナスコト能ハサルトキハ第五百五十八條第六十六條ヨリ第七十條マテノ規定ヲ適用シテ筆記ノ原本ヲ送達シ又ハ其督促又ハ通知ヲ受クヘキ人ニ強制執行ノ場所ニ於テ送達スルコト能ハサルトキハ郵便ヲ以テ遞送スヘキモノトス此規定ヲ遵守シタルトキハ之ヲ筆記ニ記載スヘシ公告ヲ以テスル送達ハ之ヲナスコトヲ得ス

第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任セタル執行行為ノ處分又ハ其行為ノ共力ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス  
法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ

爲スコトナシ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕 本條ハ執行行為ニ於ケル管轄裁判所ノコト及ヒ執行裁判ノ方法ヲ示定セリ

此法律ニ於テ裁判所ニ任セタル執行行為ノ處分即チ本法第六百二十六條以下ノ配當手續ノ如キ第六百四十條以下ノ不動産ニ對スル強制執行ノ如キ又執行行為ノ共力ニ付キ裁判所ニ任セタル即チ本法第五百三十六條第三項ノ末段ニ依リ執行上兵力ヲ要スルトキ執行裁判所ニ申立ツル如キ第五百五十六條ニ依リ兵營軍艦等ニ於テ強制執行ヲ爲ス如キ第五百五十七條ニ依リ外國ニテ強制執行ヲ爲スコトハ協合ニ於ケル共力ノ如キハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス而シテ土地ノ管轄ニ付テハ法律ニ於テ別段指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ將ニ執行手續ヲ爲サントスルノ地又ハ強制執行ニ着手シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所トナス尙ホ此管轄ハ本法第五百六十三條ニ因ルトキハ專屬トス法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セル場合ハ本法第五百九十五條第六百四十一條第七百十八條第七百二十六條第七百三十九條第七百五十七條ノ規定ノ如キ是ナリ  
又執行裁判所ノ裁判ハ概テ簡易ニシテ且急速ヲ要スルヲ以テ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得而シテ後條第五百五十八條ニ因ルトキハ其口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

○強制執行

六百五十五

○強制執行

〔参照〕 獨 第六百八十四條 執行所ニ任シタル權制執行處分ノ命令及其處分ノ際ニ於ケル共力ハ執行裁判所タル區裁判所ノ權限ニ屬スルモノトス  
執行裁判所ト看做スヘキモノハ法律ニ他ノ區裁判所ヲ掲ケサルトキニ限り執行手續ヲナスヘキ地又ハ其手續ヲナシタル地ヲ管轄スル區裁判所ナリトス  
執行裁判所ノ裁判ハ豫メ口頭上ノ審問ナクシテ之ヲナスコトヲ得

第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命令ヲ發スル權ヲ有ス

執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

〔解義〕〔的例〕 本條ハ強制執行上ノ手續ニ付テハ申立又ハ異議ヲ裁決スルコトヲ示定セ

強制執行ノ方法ニ關スル申立及ヒ異議又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守スヘキ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス  
強制執行ノ方法ニ付テハ申立トハ例ヘハ第五百八十五條ノ執達吏ニ依ラヌシテ競賣ヲ爲

ツシコトノ申立ノ如キヲ云ヒ執行方法ニ付テハ異議トハ第五百八十一條ニ依リ執達吏カ有價證券ヲ差押ヘ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ賣却シタルニ當リ其賣却方法ニ付異議ヲ主張スルカ如キヲ云ヒ執達吏ノ遵守スヘキ手續ニ關スル申立トハ第五百七十六條ニ依リ競賣ハ差押ヘテ爲シタル市町村ニ於テ爲スヘキ手續ニ關スル申立ツルカ如キヲ云ヒ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル異議トハ執行力アル正本ヲ所持セスシテ強制執行ヲ爲シ又ハ差押ヲ可カラサルモノヲ差押ヘタルトキ之ニ對シ異議ヲ主張スルカ如キヲ云フ

以上申立又ハ異議アルトキハ執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命令ヲ發スルノ權アリ即チ保證ヲ立テシノ若シハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命スルコトヲ得

又執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ即チ委任權外ノ事ヲ爲スカ若クハ委任權内ノ事ヲ行ハサルカ如キ又執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アルトキハ亦執行裁判所之ヲ裁判スルモノトス

〔參照〕 獨 第六百八十五條 權制執行ノ方法又ハ其執行ノ際裁判所使吏ノ遵守スヘキ手續ニ關スル申立、異存又ハ注告ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁決ス其裁判所ハ第六百六十八條ニ掲ゲタル命令ヲ發スルノ權アルモノトス  
執行裁判所ハ裁判所使吏執行ノ委託ヲ引受ルコトヲ拒ミ又ハ委託ニ從ヒ執行處分ヲナス

○強制執行



○強制執行

コトヲ拒ムトキ又ハ執行吏ノ定メタル費用ニ關シ注告ヲナストキモ亦裁決ヲナスノ權アルモノトス

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遅クモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限り之ヲ許ス

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ爭フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケララルコト無シ

第五百四十七條 強制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提

起ニ因リテ妨ケララルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ説明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス

第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條

○強制執行

ニ掲ケタル命令ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命令ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得

判決中前項ニ掲ケル事項ニ限り職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ  
右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用ス

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者ニ對シテ之ヲ主張スヘシ

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス  
右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス  
強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

〔解説〕〔分析〕〔理由〕〔的例〕 第五百四十五條及ヒ第五百四十六條ハ判決ヲ以テ確定シタル請求ニ關シ異議アル場合ヲ第五百四十七條ハ前二條ニ依リ確定判決ニ對シ異議ノ訴ヲ提起セラレタル場合ニ於ケル其結果ヲ第五百四十八條ハ受訴裁判所ニ於テ異議ノヲ判定スルニ臨ミ強制執行ノ命令ニ關シ爲シ得ヘキ職權ヲ第五百四十九條ハ第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ異議ヲ主張スル場合ヲ示定セリ

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ對シ債務者ヨリ異議ヲ申立テントスルトキハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張セサル可ラス前條ノ如キハ執行方法及ヒ其手續ニ付キ形式上ノ異議タルニ過キサルヲ以テ單ニ申立書ヲ提出シテ足レリト雖トモ本條ハ權利ノ實體上ニ關スル異議ナルヲ以テ普通ノ訴訟ト同シク訴狀ヲ提出シテ之カ主張ヲ爲サ、ル可カラス抑確定判決ニ對シ債務者ノ異議ヲ許ストキハ確定判決ノ效力ヲ動カシ再ヒ裁判ヲ爲スノ嫌ヒアルモノ、如キモ決シテ然ラス本條ハ確定判決ヲ動スノ趣旨ニアラス唯確定判決ニ因レル執行ヲ爲サシメサルニアルノミ然レトモ際限ナク之ヲ許可スルトキハ却テ狡猾ナル債務者ヲ保護スルニ至ルヲ以テ本條第三項ハ之カ制限ヲ付セリ即チ本條ノ異議ハ法律ノ規定ニ從ヒ通クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辨論ノ終結後ニ異議ノ原因ヲ生スルカ又欠席判決ヲ受ケタル場合ニ於テハ故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限リ法律ノ規定ニ從ヒ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辨論ノ終結後ハ第二百九條ノ攻撃防禦ノ方法ヲ提出スヘキ判決ニ接續スル口頭辨論及ヒ第二

○強制執行

百十一條ニ依リ訴ノ擴張又ハ反訴ニ依リ權利關係ヲ確定セシムコトヲ申立ツルコトヲ得ヘキトキ亦判決ニ接合シタル口頭辨論ノ終結シタルトキヲ云フ故ニ口頭辨論終結後ニシテ判決以前ニ原因ノ生シタルトキハ本條ニ依リ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘシ  
判決ニ依リテ確定シタル請求ニ關スル異議トハ例ヘハ強制執行ヲ受クル前已ニ其債務ヲ辨濟シタルトキノ如キ養料ヲ支拂フヘキ判決ヲ受ケタルニ養料ヲ受クヘキ人カ死去シタルトキノ如キ判決カ未必條件ノ到來ニ依リ債務ヲ盡スヘキモノナルニ其條件ノ到來セサルコト明確トナリタルトキノ如キ反對給付ニ依リ債務ヲ盡スヘキニ其給付スヘキ物件カ消滅シタルトキノ如キ是ナリ

債務者ニ數箇ノ異議アルトキハ同時ニ之ヲ主張セサル可ラス  
第五百四十六條 前條ハ判決ニ依リテ確定シタル請求ト雖トモ異議ノ原因口頭辨論終結後ニ起リタルトキハ之ニ對シテ一般ニ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定シ本條ハ或ル特別ノ事情アル場合ニ於テモ前條ヲ準用シテ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定セリ即チ第五百四十八條第二項ニ依リ條件付ノ判決ノ場合ニ於テ債權者カ其條件ノ到來シタルコトヲ證明シ裁判長モ亦之ヲ認メテ執行交付與ノ命令ヲ爲シ此ニ依リ執行ヲ爲スニ至リタルニ當リ債務者カ其條件ノ到來セサルコトヲ主張シテ異議ヲ爲ストキ又ハ第五百四十九條ニ依リ承繼アリタルモノト認メテ裁判長カ其承繼人ニ對シ執行交付與ノ命令ヲ爲シ此ニ依リ執行ヲ爲スニ至リタルニ當リ債務者カ其承繼ナキコトヲ主張シテ異議ヲ爲ストキモ

亦前條ノ規定ヲ準用シ新ナル訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ而シテ本條下第五百二十二條ノ規定トハ一ハ實體上ノ異議ナルト一ハ形式上ノ異議ナルトノ差アリ彼此異議ノ原因ヲ異ニスルヲ以テ本條ノ場合ニ於テ第五百二十二條ノ執行交付與ニ對シ異議ヲ申立ツルノ權ヲ妨ケラル、コトナシ故ニ一方ハ本條ノ異議ヲ提起シ一方ニ於テハ第五百三十二條ノ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ  
第五百四十七條 強制執行ハ第五百五十條ノ場合ニ非ラサレハ之ヲ停止シ又ハ制限スル

コトヲ得サルヲ以テ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ爲メニ之ヲ妨ケサルコトハ別ニ明文ヲ要セサルモノ、如キモ本條第二項ニ於テ變例トシテ之ヲ妨ケルコトヲ許セルヲ以テ故ラ此原則ヲ揭ケタルモノナリ

前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ヲ起シタルトキ左ノ條件具備スルトキハ保證ヲ立テシメ若シハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得ヘシ

- 第一 主張シタル異議カ法律上理由アリト見ユルトキ
- 第二 事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキ
- 第三 申立アリタルトキ

右裁判口頭辨論ヲ經ヌメ之ヲ爲シ急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得又受

○強制執行

○強制執行

訴裁判所ニ此申立ヲ爲ヌ可キモ急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得ヘシ然レトモ執行裁判所ニ於テ此權利ヲ行使スルハ一時ノ効力ヲ保維スルニ過キサルヲ以テ正當管轄ナル受訴裁判所ノ正式ナル命令ヲ受ケ之ヲ提出セシムル爲メニ相當ナル期間ヲ定ム此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス故ニ受訴裁判所ノ命令ヲ受クシテハ其効力持續シ若シ期間内ニ命令ヲ受ケサルトキハ其効力消滅ス可キナリ

第五百四十八條 受訴裁判所ニ於テ異議ノ訴ヲ受ケ之ヲ正當ト認ムルニ當リ未タ前條第二項ノ命令ヲ發シアラサルトキハ其判決ニ於テ執行ヲ停止シ若クハ處分ノ取消ヲ命スルコトヲ得ヘシ又既ニ命令ヲ發シアルトキハ其命令ヲ取消シ變更シ若クハ認可スルコトヲ得ヘシ是レ前條ニ於テ假ニ命令セシメ判決ニ於テ確定スルニ過キサルナリ

右停止若クハ制限ノ命令又ハ命令ヲ取消シ若クハ變更スル裁判ニ對シテハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス

又此假執行ノ宣言ニ對シ不服ヲ申立テタルトキハ第五百一十一條ヲ準用シテ本案ノ辨論ニ先テ假執行ニ付テノ辨論及ヒ裁判ヲ爲スヘキナリ

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物例ヘハ金錢ノ請求權ヲ執行スル爲メ差押ヘタル動産物若クハ不動産物ニ付キ所有權ヲ有スルカ爲メ異議ヲ申立テント欲スルトキ又ハ債權者若クハ留置權ノ如キ其目的物ノ讓渡又ハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ新ナ

ル訴ヲ以テ債權者ニ對シ異議訴訟ヲ提起スヘク債務者モ亦第三者ノ權利ニ對シ争ヲ爲スルコトヲ得ヘシ然レトモ執行裁判所ノ管轄ニ屬スル物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ屬ス

此異議ノ訴ニ付テモ其情況ニ因リ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ヲ準用シテ執行ノ停止ヲ命シ又已ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ命スルコトヲ得又本條ニ於テハ第五百四十七條第二項ト異ナリ保證ヲ立テシメヌシテ執行處分ノ取消ヲ命スルコトヲ得ヘシ是レ第

三者ハ故ラニ債權者ノ利益ヲ害シ財産ヲ隱匿スルノ事ナシ且本訴訟ニ關係ナキ者ナルヲ以テ多少寛裕ナル處置ヲ爲スニアリ

注意スヘキハ第三者カ此異議訴訟ヲ起スハ第三者カ其物ヲ所持セサルトキニ係ル若シ之ヲ所持スルトキハ翻テ債權者ハ債務者ノ第三者ニ對スル請求權ヲ主張シ第三者ニ對シ訴訟ヲ起ササル可クサレハナリ

【參照】 第六百八十六條 判決ヲ以テ確定シタル請求ニ關スル異存ハ負債者訴訟ヲ以テ始審ハ訴訟裁判所ニ之ヲ申立ツヘシモハ

○強制執行

○強制執行

其異存ハ此法ノ規定ニ從ヒ遲クトモ之ヲ申立テサルヘカヲサリシ口頭上審問ノ終結後始メテ其憑據トナル理由生シ異議ヲ以テ申立ルコトヲ得サルキニ限り之ヲ許スモノトス  
債債者ハ訴訟提起ノ際申立ルコトヲ得シ總テノ異存ヲ其提起スヘキ訴訟ニ於テ申立ツヘキモノトス

獨 第六百八十七條 第六百八十六條第一項第三項ノ規定ハ第六百六十四條第六百六十五條ノ場合ニ於テ債債者執行文交付ノ際證明シタリト認メラレタルモノニシテ之ニ依テ判決執行ノ定マレ事實ノ生スルコトヲ爭ヒ又ハ相續シタリト認メラレタル權利相續ヲ爭フトキ亦之ヲ適用スルモノトス但此場合ニ於テ第六百六十八條ニ從ヒ執行文ノ交付ニ對シ異存ヲ申立ル債債者ノ權利ハ之カ爲メ變更ヲ受ルコトナシ

獨 第六百八十八條 訴訟裁判所ハ申立ニ依リ第六百六十八條第六百八十六條ニ掲ケタル異存ニ付テノ判決ノ言渡ヲナスニ至ルマテ保證ヲ得又ハ保證ヲ得スシテ強制執行ヲ停止シ又ハ保證ヲ得タルキニ限り繼續スヘキコトヲ命シ及保證ヲ得テ其ナシタル執行處分ヲ廢棄スヘキコトヲ命スルヲ得其申立ノ理由トナル事實主張ハ之ヲ證明スヘキモノトス  
切迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所ハ訴訟裁判所ノ判決ヲ呈出スヘキ期限ヲ定メテ其命令ヲ發スルコトヲ得此期限空シテ經過シタル後ハ強制執行ヲ繼續スルモノトス  
此申立ニ付テノ判決ハ豫メ口頭上審問ナクシテ之ヲナスコトヲ得

獨 第六百八十九條 訴訟裁判所ハ異存ニ付キ判決スル判決ヲ以テ前條ニ掲ケタル命令ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命令ヲ廢棄シ又ハ變更シ又ハ認可スルコトヲ得此判決ニ對スル不服ニ付テハ第六百五十六條ノ規定ヲ亦適用スルモノトス  
獨 第六百九十條 他人權利執行ノ物件ニ付キ賣讓ヲ妨ル權アルコトヲ主張スルトキ其執行ニ對スル抗辨ハ其執行ヲナス地ヲ管轄スル裁判所ニ訴訟ヲ以テ之ヲ申立ツヘキモノトス

債主及債債者ニ對シ訴訟ヲナストキハ之ヲ訴訟仲間ト看做スヘキモノトス  
權利執行ノ停止及既ニナシタル執行處分ノ廢棄ニ付テハ第六百八十八條第六百八十九條ノ規定ヲ適用スルモノトス其執行處分ノ廢棄ハ保證ヲ得サルトキニモ亦之ヲナスコトヲ許ス

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

- 第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本
- 第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本

○強制執行

○強制執行

第三 執行ヲ免カルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

第五百五十一條 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可シ第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ従前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限り既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

〔解義〕 第五百五十條ハ強制執行ニ着手シタル後或ハ之カ停止ヲ爲シ或ハ其執行上ニ制限ヲ加フ可キ場合ヲ示定シ第五百五十一條ハ前條ノ規定ニ從ヒ強制執行ノ停止又ハ制限ノ効果ニ付キ其限度ヲ示定セリ

第五百五十條 第五百五十一條 抑強制執行ハ執行力アル正本ニ基キ之ヲ爲スヲ以テ如何ナル事情アリトモ之ヲ斷行スルヲ以テ原則トナス然レトモ本條第一號乃至第四號ノ事項アルトキハ法律上強制執行ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可キナリ而シテ此ニ停止トアルハ

全ク強制執行ヲ止ムルモノニシテ且已ニ爲シタル執行處分ヲモ取消スナク又ハ制限ストハ全ク強制執行ヲ止ムルモノニ非ラス爾後ノ執行處分ヲ爲シ得サラシムルヲ云フ

第一 執行スヘキ判決若シハ其假執行ヲ取消ス旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキ又強制執行ヲ許サ、ル旨ヲ宣言シ若シハ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキ

執行スヘキ判決ヲ取消ス旨ノ裁判トハ再審ニ依リ其執行スヘキ確定判決ヲ取消スノ裁判ヲ爲シタルトキ又ハ第四百二十七條第二項第四百九十二條第二項ノ場合ノ如キヲ云ヒ假執行ノ宣言ヲ取消ス旨ノ裁判トハ第五百十條ノ場合ノ如キヲ云ヒ強制執行ヲ許サストスル裁判トハ第五百二十九條ノ請求ノ主張カ日時ノ到來ニ繫ルトキ其日時ノ滿了前ニ執行ヲ始メタルニ依リ債務者カ第五百四十四條第一項ニ依リ異議ヲ主張シタルヲ以テ執行裁判所カ其日時ノ到來迄ハ執行ヲ許サストノ裁判ヲ爲シタルトキノ如キヲ云ヒ強制執行ノ停止ヲ命シタル裁判トハ第五百二十二條第二項及ヒ第五百四十七條第二項等ニ依リテ爲シタル強制執行ヲ停止スル命令ノ如キヲ云フ

第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命スル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキ

第五百條ニ依リ強制執行ノ一時停止ヲ命シタル如キヲ云フ玆ニ強制執行ノ一時ノ停止トハ強制執行全部ヲ一時停止スルヲ云ヒ執行處分ノ停止トハ差押又ハ競賣等ノ執行上或ル

○強制執行

○強制執行

處分ヲ一時停止スルヲ云フ

第三 保證ヲ立テ執行ヲ免ル可キ場合ニ於テ其保證ヲ立テ若クハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書ヲ提出シタルトキ

第五百五條第二項第五百十三條ノ場合ニ於テ供託吏員ノ受領證又ハ第五百十三條第二項ノ證明書ヲ提出スル如キヲ云フ

第四 執行ス可キ裁判ノ後ニ於テ債權者カ辨濟ヲ受ケ若クハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル公正證書若クハ債權者ノ作リタル私署證書ヲ提出シタルトキ

右第一及ヒ第三ハ強制執行ヲ全ク爲シ能ハサルヲシムル爲メ停止ヲ爲スモノナルカ故ニ爾後ノ處分ノミナラス已ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四ノ場合ハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク又第二ノ場合ハ一時ノ停止ヲ爲シタル裁判ト共ニ已ニ爲シタル執行處分ヲモ取消スヘキコトヲ命シタルトキニ限り之カ取消ヲ爲シ然ラサルトキハ之ヲ保持ス可キナリ

〔參照〕 獨 第六百九十一條 權制執行ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ停止シ又ハ制限スヘキモノトス

第一 執行スヘキ判決ヲ廢棄シ又ハ其假執行ヲ廢棄スルコト又ハ權制執行ヲ許スヘカラスアルモノトシテ言渡シ又ハ其停止ヲ命シタルコトノ判然スル執行裁判ノ公製書ヲ呈出スルトキ

第二 執行又ハ執行處分ノ假停止ヲ命シタルコトノ判然スル裁判上裁決ノ公製書ヲ呈出スルトキ

第三 執行ヲ免レシムル爲メ許シタル保證又ハ藏書ヲナシタルコトノ判然スル公製證書ヲ呈出スルトキ

第四 執行スヘキ判決ノ言渡後債主辨償ヲ得又ハ延期ヲ承諾シタルコトノ判然スル公製證書又ハ債主ノ交付シタル私製證書ヲ呈出スルトキ

第五 判決ノ言渡後債主ニ辨償スルニ必要ナル額ヲ之ニ支拂フ爲メ郵便所ニ拂込ミタルコトノ判然スル郵便受領ヲ呈出スルトキ

獨 第六百九十二條 第六百九十一條第一第三ノ場合ニ於テハ同時ニ既ニナシタル執行處分ヲ廢棄スヘキモノトス第四第五ノ場合ニアリテハ其處分ハ一時之ヲ存續ス第二ノ場合ニ於テ其裁決ヲ以テ是マテナシタル執行處分ノ廢棄ヲモ命セザリシトニ限り亦同シ

第五百五十二條 強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ續行ス可シ

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行為ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラバ更ルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

○強制執行

**第五百五十三條 強制執行ノ開始後ニ戸主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生ゼシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス**

〔解義〕 本條ハ強制執行ノ開始後債務者ニ一般ノ承繼アリタルトキハ執行方法ヲ示定セリ

第五百五十二條 強制執行ノ開始後ニ債務者死亡シタルトキハ其遺産ニ對シ強制執行ヲ續行ス元來強制執行ハ執行力アル正本ニ表示セラレタル者ニ對シテノミ爲ス可キヲ以テ債務者ノ死亡スルトキハ更ニ第五百十九條ニ依リ其承繼人ニ對シテ執行文付與ヲ求ムルヲ至當トス然レトモ手續ニ依ルトキハ其煩ヒ多ク且其間ニ財産ヲ脱漏スルノ恐レアルヲ以テ法律ハ前執行文ノ儘ニテ直ニ其遺産ニ對シ強制執行ヲ續行スルコトヲ得ヘキモノトセリ

本條ハ強制執行ノ開始後云々トアリ故ニ強制執行ノ開始前ニシテ例ニハ執行力アル正本ヲ付與ヲ受ケ未タ執行ニ着手セサル以前ニ於テ債務者死亡スルトキハ第五百十九條ニ依リ更ニ承繼人ニ對シテ執行文付與ヲ求メサル可ラス

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行為ヲ實施スル場合例ニハ第五百六十六條第五百九十八條等ノ場合ニ於テ其相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ債務者ハ執行裁判所ニ向ヒ特別代理人ヲ任命セラフコトヲ申立サルコトヲ得ヘシ此時執行裁判所

ハ遺産ノ爲メ又ハ相續人ノ爲メ債務者ノ親族又ハ辯護士等適當ノ者ヲ選テ特別代理人ニ任命ス可キナリ

第五百五十三條 強制執行ノ開始後ニ債務者ガ戸主タリシ地位ヲ辭シテ隱居セシカ又ハ戸主タリシ地位ヲ失ヒタルトキハ猶ホ前條ノ規定ヲ準用シテ此變更ノ生ゼシ當時債務者ノ所持セシ財産ニ付キ強制執行ヲ續行シ得ヘシ

〔參照〕 獨 第六百九十三條 負債者死去ノ際既ニ之ニ對シテ開キタル強制執行ハ其遺産ニ對シテラ繼續スルモノトス

強制執行ノ際負債者ノ立會ヲ要スル場合ニ於テ未タ遺産ニ相續人ナキトキ又ハ相續人又ハ其滞在地ノ分明ナラサルトキ執行裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ其遺産又ハ相續人ニ一時特別代人ヲ任スヘキモノトス

獨 第六百九十四條 負債者強制執行ノ始マル前死去シタル場合ニ於テ未タ遺産ニ相續人ナキトキ又ハ相續人又ハ其滞在地ノ分明ナラサルトキ各邦法律ニ依リ權限ヲ有スル遺産裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ其遺産又ハ相續人ニ管財人ヲ任スヘキモノトス

**第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限り債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受タル請求ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ**

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ



○強制執行

債務者ニ辨濟スヘシ

〔解義〕本條ハ強制執行ニ關スル費用ノ負擔者及其費用支辨ノ方法ヲ示定セリ

強制執行ノ費用ハ債務者カ任意ニ債務ヲ履行セサルカ爲メ生スルモノナルヲ以テ之ヲ債務者ノ負擔ニ歸ス可キモノトセリ而シテ其負擔ニ歸スヘキ費用ハ之ヲ必要ナル部分ニ制限セリ必要ナル部分トハ強制執行ヲ爲スニ避ク可ラサル費用ニシテ執達吏手数料規則ニ依リ支拂フヘキモノ民事訴訟費用法ノ準用ニ依リ支拂フヘキモノ、如キヲ云フナリ

強制執行ノ費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可キナリ故ニ訴訟費用ノ如ク費用額ノ確定ヲ申請スルヲ要セス第五百六十四條第二項ノ如ク動産ニ對スル強制執行ハ其債權者ノ辨濟ス可キ債權額及訴訟費用ノ外ニ強制執行ニ必要ナル費用ヲモ見込テ差押ヘテ爲スコトヲ得ルカ故ニ之ヲ賣却シテ同時ニ取立ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ第七百三十條以下ニ定ムル金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行ニ付キ物件ノ引渡ヲ爲サシムルトキノ如キハ其費用ノ爲メニ同時ニ他ノ財産ヲ差押テ以テ之ヲ取立ツルコトヲ得ヘキナリ

再審ニ依リ強制執行ノ基本タル判決ヲ取消シ又ハ第五百十條ニ依リ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ特リ第五百五十條第一號ニ依リ其執行ヲ停止シ制限スルノモナラス已ニ取立タル執行費用ヲモ債權者ヨリ債務者ニ拂戻ス可キモノトス

〔參照〕獨 第六百九十七條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシトキニ限リ(第八十七條)負債

者ノ負擔ニ歸スルモノトシ其費用ハ強制執行ヲ受ル請求ト同時ニ之ヲ徵收スヘキモノトス

強制執行ノ費用ハ其執行ノ憑據トナリシ判決ヲ廢棄スルトキハ之ヲ負債者ニ辨償スヘキモノトス

第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

第五百五十六條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍服用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

○強制執行

○強制執行

外國駐在之本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

〔解義〕〔理由〕第五百五十五條乃至第五百五十七條ハ執行ノ爲メニ他ノ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキ之ヲ請求スル方法ヲ示定セリ

第五百五十五條 第五百三十六條第二項ニ因リ兵力ヲ要スルカ如ク執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ執行裁判所ヨリ之ヲ求メ爲ス可キナリ

第五百五十六條 常備、現役ノ軍人軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲スノ必要アルトキ例ニハ執行ヲ受ク可キ軍人軍屬カ兵營又ハ軍艦ニ物品ヲ差置ケル等ノ場合ニ於テハ債權者ヨリ其趣ヲ執行裁判所ニ申立テ裁判所ヨリ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之カ差押ヲ爲スモノトス是レ軍營又ハ軍艦ノ如キハ別天地ヲ爲スモノニシテ執達吏等ノ之ヲ蹂躪スルコトアルトキハ軍紀ヲ紊ルノ恐レアルヲ以テナリ

囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ交付シ執達吏ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ競賣シ又ハ配當スルモノトス

第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ第五百十五條ニ依リ國際條約ヲ以テ相互ニ其外國ノ裁判ハ内國ニ於テ執行シ得ヘキコトヲ締結シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ヨリ外國官廳ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス外國駐在ノ

本邦領事ニ依リ執行ヲ爲シ得ヘキトキモ亦受訴裁判所ヨリ其領事ニ囑託ス可キナリ

〔參照〕 獨 第六百九十八條 執行ノ爲メ官署ノ立入ヲ要スルトキ裁判所ハ官署ニ其立入ヲ依頼スヘキモノトス

獨 第六百九十九條 權利執行ヲ常備ノ陸海軍人ニ對シ兵營及其他軍用建造物内又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲スヘキトキ執行裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ管轄軍事官署ニ其權利執行ヲ依頼スヘキモノトス

質取シタル物件ハ債主ノ委任スヘキ裁判所使吏ニ之ヲ引渡スヘキモノトス

獨 第七百條 法律上補助ニ依リ拘逸裁判所ノ判決ヲ執行スル官署ノ屬スル外國ニ於テ權利執行ヲナスヘキトキハ始審ノ訴訟裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ權限ヲ有スル外國官署ニ其權利執行ヲ依頼スヘキモノトス

獨 獨逸領事其執行ヲナスコトヲ得ルトキハ之ニ其依頼ヲナスヘキモノトス

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔解義〕 本條ハ強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定シタルニ過キス

〔參照〕 獨 第七百一條 權利執行手續ニ於テ豫メ口頭上審問ナクシテナスコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ申立ルコトヲ得

○強制執行

○強制執行

第五百五十九條 強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二 執行命令

第三 訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解

第四 第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ法式ニ依リ作りタル證書但一定

ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作りタル證書ニシテ直ニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

〔解説〕〔分折〕本條ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ノ外ニ數多

ノ強制執行ヲ爲シ得ヘキ場合アルコトヲ示定セリ

強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得ヘシ  
第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判  
抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判トハ其裁判ニ對シ控訴上告等ノ途ヲ與フ

ルコトナク只抗告ヲ以テノミ異議ヲ爲シ得ル所ノ裁判ヲ云フ  
第三 執行命令

執行命令トハ第三百九十三條ニ依リ督促手續ノ支拂命令ニ假執行ノ宣言ヲ付シタルモノニシテ  
第三 訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル

和解  
第二百二十一條ニ依リテ和解ノ調ヒタルモノニシテ第三百三十條第一號ニ依リ調書ニ明確

ニシタルモノヲ云フ  
第四 第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作りタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ

他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作りタル證

書ニシテ直ニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル  
公證人ノ作りタル公正證書ニシテ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノニハ三個ノ條件ヲ具備スル

ヲ要ス第一公證人ノ職權内ニシテ且成規ノ方式ニ從ヒテ作りタル證書ナルコト第二一定

ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求

ニ付キ作りタル證書ナルコト第三裁判上ノ手續ニ依ラズシテ直ニ強制執行ヲ受クヘキ旨

○強制執行

○強制執行

〔参照〕 獨 第七百二條 其他強制執行ハ左ニ掲ケルモノニ依リ之ヲナスコトヲ得

第一 訴訟提起ノ後訴訟落着ノ爲メ其訴訟ノ全部又ハ訴訟事件ノ一部ニ付キ獨逸裁判所ニ於テ取結ヒタル和解契約

第二 第四百七十一條ノ場合ニ於テ區裁判所ニテ取結ヒタル和解契約

第三 故障ノ上訴ヲナスコトヲ得ル裁判

第四 執行命令

第五 獨逸裁判所又ハ獨逸公證人其職權内ニ於テ規定上ノ式ニ從ヒ作リタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ其他換用物又ハ有價證券ノ一定ノ數量ノ供給ニ關スル請求ニ付キ證書ヲ作リ及負債者其證書ニ依リ即時強制執行ヲ受ケタルトキニ限ル

第五百六十條 前條ニ掲ケタル債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五百十

六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條第五百六十

二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

〔解義〕 本條ハ前條ニ掲ケル數個ノ債務名義ニ因レル強制執行ニモ一般ノ判決ニ因レル強制執行ノ爲メ定メタル第五百十六條乃至第五百五十八條ノ手續ヲ準用シ以下二條ニ定メタルモノニ依リテ差異ノ生スルトキハ以下二條ニ因ル可キコトヲ示定メシマテニテ別リ說明ヲ要セス

〔参照〕 獨 第七百三條 前條ニ掲ケタル負債者名稱ニ依リテナス強制執行ニハ亦第六百

六百二條ヨリ第七百一條ヲ以テ規定ヲ適用スルモノトス但七百四條第七百五條ニ於テ此處ノ規定ヲ揭ケタルトキハ此限ニアラス

第五百六十一條 執行命令ニ付キ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ

於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限リ之ヲ許ス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタルト認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

〔解義〕 本條ハ第五百五十九條第三號ノ執行命令ニ付キ一般ノ規定ト異ナル場合ヲ示定セ

リ 執行命令ハ一般ノ場合ト異ナリ執行文ノ附記ヲ要セスシテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ但債權者又ハ債務者於テ承繼アルトキニ限リ執行文ノ附記ヲ要ス

請求ニ關シ異議アル場合ニ於テハ支拂命令ヲ爲シタル後ニ於テ異議申立ノ手續ヲ行ハサ

○強制執行

○強制執行

法律上ニ於テ已ニ執行命令ヲ發スルニ至リタルトキハ請求ニ付テハ異議之レアラザルモ  
ノ下見做シ得ヘキモノナリ然ルニ已ニ執行命令ヲ付與シタル後ニ於テ異議ヲ爲ストスレ  
ハ恰モ是レ本案ノ裁判ニ於テハ異議ナク確定ニ歸シ執行ニ至リテ異議ヲ唱フルト同一ナ  
ルガ故ニ若シ請求其物ニ付キ異議ヲ主張セントスルニハ其異議ノ原因執行命令ノ送達ア  
リタル後ニ發生シタル時ニ限ルコト、爲セリ

執行文付與ニ付テハ即第五百二十一條ニ依リ執行文ノ付與ヲ求ムルカ爲メニ必要ナル  
證明ヲ爲ス能ハサルヲ以テ執行文付與ノ訴ヲ起シ又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴即チ  
第五百四十五條ニ依リ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ起シ又ハ第五百四十六條ニ依リ執行文付  
與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス然  
レトモ其請求カ區裁判所ニ屬セザルトキハ管轄地方裁判所ニ訴ヲ起ス可キナリ

【參照】 獨 第七百四條 執行命令ハ之ヲ發シタル後債主又ハ負債者ニ於テ權利相續アリ  
タルトキニアラザレハ執行文ヲ要セザルモノトス  
請求ニ關スル異存ハ其憑據トナル理由執行命令ヲ送達シタル後生ゼントキニ限り之ヲ許  
スモノトス

執行文ノ交付ヲ求ムル訴訟并ニ請求ニ關スル異存ヲ申立ル訴訟又ハ執行文交付ノ際其相  
續多ク下認メラレタル權利相續ヲ爭フ訴訟ニ付テハ執行命令ヲ發シタル區裁判所權限  
ヲ有スルモノトス其請求區裁判所ニ屬セザルトキハ訴訟ノ權限ヲ有スル地方裁判所ニ提  
起スヘキモノトス

起スヘキモノトス

第五百六十二條 公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保  
存スル公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テハ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テハ裁  
判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲  
ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル  
制限ニ從ハス

執行文付與ニ付テハ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付  
與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行  
ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル  
地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ  
對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

【解義】 本條ハ第五百五十九條第五號ノ公正證書ニ付キ一般ノ規定ト異ナル場合ヲ示定セ

○強制執行

○強制執行

六百八十四

公證人ニ於テ公證事務ヲ執ルトキハ證書ノ原本ヲ備ヘ置キ契約者ニ對シテハ證書正本或ハ謄本ヲ付與スルモノナルカ故ニ公證人役場ニ於テハ常ニ其證書ノ保存アル可キ筈ナリ是ヲ以テ公證書ノ執行力アル正本ヲ得シテ欲スルトキハ其證書ヲ作リタル公證人ニ至リ之カ付與ヲ求ム可ク又公證人ハ其役場ニ保存スル原本ニ照シテ其執行力アル正本ヲ作リ之ヲ付與ス可キモノトス

第五百二十二條ニ於ケル如ク執行文ヲ付與シタルコトニ付キ異議アルトキ又ハ己ニ執行文ヲ得タル後再ヒ其付與ヲ請求スルトキハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

公正證書ニ付テハ口頭辨論アラサルヲ以テ請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ定ムル制限ニ從フコトヲ要セサルナリ

執行文付與ニ付テノ訴(第五百二十二條)又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴(第五百四十五條)又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因テ證券ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴(第五百四十六條)ハ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ債務者カ内國ニ住所ヲ有セザルトキハ財産又ハ請求スル物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ屬ス可キナリ

〔參照〕 獨 第七百五條 公證人ニ於テ作リタル證書ノ執行公製書ハ其證書ヲ保管スル公證人之ヲ交付スルモノトス其證書官署ノ保管中ニアルトキハ其官署執行公製書ヲ交付ス

ヘシ

執行文ヲ交付ニ關スル異存ニ付テハ裁決并ニ再度執行文ヲ交付スルニ付テハ裁決ハ裁判所ノ證書ニアリテハ第二項ニ記載シタル裁判所之ヲナシ公證人ノ證書ニアリテハ第二項ニ記載シタル公證人ノ役場又ハ官署ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲナスモノトス異議ニ關スル異存ノ申立ニハ第六百八十六條第二項ノ制限ヲ適用セサルモノトス

執行文ノ交付ヲ求ムル訴訟并ニ請求ニ關スル異存ヲ申立ル訴訟又ハ執行文交付ノ際證明シタリト認メラレタルモノニシテ證書ニ依テナス權利執行ノ定ムル事實ノ生シタルコト又ハ其相續シタリト認メラレタル權利相續ヲ爭フ訴訟ニ付テハ債權者獨逸國ニ於テ普通裁判管轄ヲ有スル裁判所其權限ヲ有シ其裁判所ナキトキハ第二十四條ニ從ヒ債權者ニ對シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル裁判所其權限ヲ有スルモノトス

第五百六十二條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

〔解義〕 本條ハ本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬裁判籍ナルコトヲ示定セリ

本編ニ定メタル裁判籍トハ第五百十四條第五百二十二條第五百四十三條第五百四十四條第五百四十五條第五百四十九條第五百六十二條第五百九十五條第六百三十五條第六百四十一條第七百十八條第七百三十九條第七百五十七條第七百五十七條等ニ於ケル裁判管轄ヲ云フ

〔參照〕 獨 第七百七條 此篇ニ定メタル裁判管轄之ヲ特別ノモノナリトス

○強制執行

六百八十五

○動産ニ對スル強制執行

六百八十六

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

〔解説〕 本章ハ金錢上ノ債權ヲ以テ債務者ニ對スル強制執行ノ手續ヲ規定シ第一節ニハ先ツ動産ニ對スル強制執行ノ手續ヲ規定シ第一款ハ其動産ニ對スル強制執行ノ通則即チ一般ノ規定ヲ爲セリ

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス  
差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

〔解説〕 本條ハ動産ニ對スル強制執行ハ如何ニシテ之ヲ爲ス可キヤ及ヒ如何ナル目的ヲ以テ如何ナル範圍ニ於テ之ヲ爲スモノナルヤヲ指示セリ  
動産ニ對スル強制執行ハ先ツ動産物ヲ差押ヨルヲ以テ之ヲ開始スルモノトス差押トハ物件ノ所有者ヲシテ其物件ニ對スル凡テノ權利ヲ行使セシメス法律上ノ力ヲ以テ之ヲ移轉

スル能ハサルノ地位ニ置クヲ謂フ而シテ有体動産ナルモ無体動産ナルトニ因リ差押ノ方法ヲ異ニスルコトニ後條ニ至リ知悉スルコトヲ得ヘシ

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求即チ確定シタル終局判決ニ掲ケタル金額及ヒ訴訟費用額確定ノ決定ニ掲ケタル金額并ニ此金額ノ爲メ強制執行ヲ爲スニ必要ナル費用ニ備フニキ見積リ高ク限度トナス故ニ執達吏ハ差押フ可キ物件ノ見積額該金額ニ超過スルトモ之ヲ該金額ノ見積額ニ止メ其超過スル部分ニ付テハ決シテ差押フ可カラサルモノトス

又差押フ可キ物ヲ競賣シ又ハ一人ニ賣却スルモ執行費用ヲ償フニ足ラサルカ又ハ僅ニ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルノモニシテ其剩餘即過金ヲ得ルノ見込ナキトキハ毫モ其利益ヲ得ラサルヲ以テ強制執行ヲ爲スヘカラサルモノトス

〔參照〕 獨 第七百八條 動産ニ關スル強制執行ハ質取ヲ以テ之ヲナスモノトス其執行ハ債主ニ辨償シ及其執行費用ニ引當ル爲メ必要ナルモノ、外ニ及スコトヲ許サス  
其質取スヘキ物件ヲ賣却シ強制執行ノ費用ヲ償フテ尙ホ剩餘アルコトヲ期スヘカラサルトキハ之ヲ止ムヘキモノトス

第五百六十五條 第三者ガ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴テ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此力爲ニ妨ケラルル

○動産ニ對スル強制執行

六百八十七

之ヲ無効ニ爲シ金ニ付テ之ヲ執行シ得ルモノハ其ノ旨ニ依リテ之ヲ執行スルコトモ決シテ其差  
 此場合ニ於テ請求ト爲テ主張スル事情ハ法律上理由アリ見エ且事  
 實上ノ點ニ付テハ證明セザルモノト爲テ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ  
 但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス  
 【解釋】（理由）本條ハ第三者ノ債務者ノ動産ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルトキト雖トモ  
 尙ホ之ヲ差押フルヲ得ヘキコトヲ示定セリ

第三者ノ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ留置權其他ノ擔保權ヲ有スルトキト雖トモ決シテ其差  
 押者効ケルコトヲ得サルナリ何トナレハ動産物ノ之ヲ占有スルモノヲ以テ一般所有者ト  
 看做ス可キモノナルニ若シ第三者ノ異議アル爲メ其差拒ク免レムコトキハ一片ノ私證  
 書ヲ以テ常ニ之ヲ妨クルノ弊害アレハナリ然レトモ第三者ハ第五百四十九條ニ從ヒ其物  
 件ニ付所有權ヲ主張スル者少シ讓渡引渡ヲ主張セシムコトヲ得ヘシ果シテ其物件ニ付キ主張  
 スル如キ權利ヲ有スルトキハ其物件ニ付キ法律上ノ優先權ヲ有スルコト勿論ナルヲ以テ  
 其物件ノ差押及ヒ競賣ハ之ヲ妨グ可カラサルモ其賣得金ニ付テハ當然先取ノ權利アルモ  
 其時ニ於テ之ヲ主張スルモノハ其時ニ於テ之ヲ主張スルモノハ其時ニ於テ之ヲ主張スルモノハ  
 其場合ニ於テ第三者ノ請求ヲ法律上至當ノ理由ヲ具ヘタルカ如ク見ヘ且ツ事實上ノ點ニ  
 付テハ證明アリ或ハ之ヲ裁判所ハ事件ノ確定スルマテ其賣得金ノ供託ヲ命スルコトヲ

得テク又第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ヲ準用シ時アリテハ執行ノ停止若クハ取消  
 其旨及ビ執行ノ續行ヲ命スルコトヲ得ヘシ

【參照】 獨 第七百十條 物件ヲ現有セサル他人ハ質主權又ハ先取權ニ依リ物件ノ質取ニ  
 對シ抗辨スナコトヲ得ズ但其他人ハ要求ノ期ニ至リタルト否トヲ問ハス訴訟ヲ以テ賣  
 得金ヲ最初ニ辨償ヲ受クルノ請求ヲナスコトヲ得  
 其訴訟ハ之ヲ執行裁判所ニ提起シ訴訟事件區裁判所ノ權限ニ屬セサルトキハ執行裁判所  
 ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ提起スヘキモノトス  
 其訴訟ハ債主及債權者ニ對シテナスルハ此者等ハ之ヲ訴訟仲間ト看做スヘキモノトス  
 其請求ヲ證明スルトキ裁判所ハ賣得金ノ藏密ヲ命スヘキモノトス第六百八十八條及第六  
 百八十九條ノ規定ハ此場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

第五百六十六條 債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ  
 占有シテ之ヲ爲ス  
 其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難ア  
 ルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ヌ可ク此場合ニ於テハ封印其他ノ方法  
 ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ生ス



執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ヲ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

〔解義〕〔的例〕本兩條ハ債務者又ハ債權者又ハ第三者ノ占有スル動産物ヲ差押フル方法ヲ示定セリ

第五百六十六條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲スコトハ第五百六十四條第一項ニ規定セリ第五百六十六條ハ如何ニシテ其差押ヲ爲スベキカヲ規定セシモノニシテ即チ債務者ノ占有中ニ在ル存休動産ヲ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲スモノトス執達吏其物ヲ占有スルトハ債務者ノ占有スル動産ハ債務者ノ手ヲ離シテ執達吏之ヲ握持スルヲ謂ヒテ而シテ執達吏ハ執達吏職務細則第一條ノ規定ニ因リ土藏又ハ堅牢ナル建物ヲ有スル等ナルヲ以テ之ヲ占有シタル物件ハ之ニ時藏ス可キナリ

債務者ノ占有中ニ在ル云々トアリ故ニ債務者ノ占有セル物件ハ仮令ヒ債務者ノ所有タルモノト判然セカ下雖トモ必ズ之ハ差押ヲ爲ス可キナリ若シ其物件ニシテ第三者ノ所有ナラズトモハ第三者ハ第五百四十九條ニ因リ訴テ以テ之ヲ主張スルコトヲ得ベキナリ右物件ハ執達吏之ヲ占有スルヲ原則トサズトモ其運搬ヲ爲スニ重大ナル困難アルトモ例ニ其物件木石等シテ之ヲ運搬スルトキハ數多ノ人夫ヲ要スルカ如キ場合ナルヲ又ハ債務者ノ家宅ニ其儘差置ク可キ債權者ニ於テ承諾スルトキハ變例トシテ之ヲ債

務者ノ保管ニ任ヌ可キナリ然レトモ此場合ニ於テハ封印交付スルカ若クハ建具ノ如ク封印ヲ爲シ難キ物件ニハ貼紙ヲ付スル等適當ノ方法ヲ以テ其差押ヲ明白ニセサル可ラス若シ之等ノ方法ヲ怠リ差押以テ分明ナラサルトキハ其差押ハ無効トナリ執達吏ハ其損害ニ任セサル可ラサルコトナル可シ

執達吏ハ其差押ヲ爲シタルコトキ之ヲ債務者ニ通知セサル可ラス然レトモ差押ノ際債務者其場ニ立會フトキハ別ニ之ヲ通知スルノ必要ナシ唯債務者ノ不在ナルトキハ又ハ次條ノ場合ニ之ヲ通知シテ可ナリ故ニ通知トアルハ輕ク知ラスルト解ス可キナリ

第五百六十七條 債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル債務者ノ物ヲ差押フルトキモ前條ノ規定ヲ準用スルモノトス

債權者ハ債務者ノ物權ヲ占有スルハ決シテ稀ナリトモ例ニハ質貸借受託物又ハ動産質等ノ場合ニ於テ債權者債務者ノ物件ヲ占有スルコトアリ此場合ニ於テハ之ヲ差押フルノ必要アラサルカ如キモ決シテ然ラス若シ債權者ノ手ニ依然スルトキハ債務者ヨリ之ヲ返還ヲ求メラル、モ債權者ハ之ヲ拒ム可ラサルヲ以テ遂ニ之ヲ他ニ移轉シテ其所在ヲ失セシムルノ虞ナシトス可ラス又債務者カ其物件ヲ他ニ賣渡シタルトキ若シ物件ニシテ差押ニアラサルトキハ所有者ヨリ之ヲ交付ヲ求メラルモ債權者ハ之ニ抵抗スルヲ得サル可シ故ニ債權者ノ占有スルトキト雖トモ之ヲ差押ヲ爲スノ必要ナシト云フ可ラス又債務者ノ所有物件ニシテ第三者ノ占有ニ屬スルトキモ前條ノ規定ニ從ヒ之ヲ差押フル

コトヲ得ヘシ然レトモ第三者ニ於テ自己ノ權利ヲ主張スルトキハ執達吏ハ最早如何トモ  
スル能ハス唯債權者ヨリ相當ノ訴ヲ起シテ之ヲ争フノ外ナカル可シ要スルニ債務者ノ占  
有中ニ在ル物ハ債務者ノ所有ニアラストモ之カ差押ヲ爲スコク又第三者ノ占有中ニ在ル  
物ハ其ノ債權者ノ所有ナルコト顯然スルモ其提出ヲ拒ムトキハ之ヲ差押ヲ可ラサルモ  
シトス

〔參照〕 獨 第七百十二條 債權者ノ保管中ニアル物件ノ質取ハ裁判所使吏其物ヲ現有シ  
テ之ヲナスモノトス

其物件ハ債主ノ承諾アルトキ又ハ他ノ處分ヲ爲スニ付キ著大ノ困難アルトキニ限り之ヲ  
負債者ノ保管ニ任カスヘキモノトス此場合ニ於テハ印ヲ捺シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ質取  
ヲ知了シ易カラシムルニアラサレバ質取ノ効力ヲ有セサルモノトス

裁判所使吏ハ質取ヲナシタルコトヲ負債者ニ通知スヘキモノトス  
獨 第七百十三條 前諸條ノ規定ハ債主又ハ呈出スルノ靈アル他人ノ保管中ニ存物件ノ  
ヌル質取ニモ亦之ヲ適用スルモノトス

第五百六十八條 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコ  
トヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サレハ之ヲ  
爲スコトヲ得ス

蠶ハ其多分カ繭ヲ成造スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差

押フルコトヲ得ス

第五百六十九條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然  
及フモノトス

〔解義〕 〔理由〕 〔的例〕 本兩條ハ土地ニ附着セル果實及ヒ蠶ニ對スル差押方法及ヒ其差  
押ノ効力ニ付キ示定セリ

第五百六十八條 第五百六十九條 果實即チ收穫物ハ土地ヨリ離レサル前ハ不動産ナリ  
ト雖トモ或ル時期ニ至レハ必ス土地ヲ離ルヘキモノニシテ性質上動産ト變スルノミナラ  
ス動産トナリテ初メテ價值ヲ有スルモノナルヲ以テ他ノ動産ト均シク之カ差押ヲ爲スコ  
トヲ許セリ然レトモ成熟時期ニ至ル前一个月内ニ非サレハ之カ差押ヲ爲スコトナ  
レハ成熟時期ニ至ラサル前之カ差押ヲ許ストキハ自然ト培養ヲ怠リ留ニ其果實ハ成熟ヲ  
得ル能ハサルノ恐レアルノミナラス如何ナル變化ニ依リ其果實ニ障害ヲ生スルモ圖リ知  
ル可ラサレハナリ

此ニ果實トアルハ民法上ノ果實ヲ包含セサルモノト知ル可シ  
右ト同シク蠶ノ差押ニ付テモ之カ制限ヲ設ケリ即チ其多分カ繭ヲ成造スル爲メ揚リ蠶ト  
爲リタル後ニ非サレハ之カ差押フルコトヲ得ス何トナレハ已ニ揚リ蠶ト爲リタル時ハ  
人カヲ以テ養フノ要ナキニ至ルカ故ニ之ヲ差押フルモ危險ノコト之ノアラサレトモ未タ  
揚リ蠶ト爲ラサル前之ヲ差押フルトキハ之ヲ養フ者モ之ノナキニ至リ勢ヒ多少ノ減失ヲ

見ルニ至ルヲ以テ經濟上悲シキモノナラス債權者債務者ノ爲メニモ甚ダ不利益ナレハ

ナリ  
揚リ爾トハ四限ヲ經テ已ニ桑葉ヲ欲セサルニ至リタルトキヲ謂フナリ

多分ノ辭辭最モ注意ス可シ此文字ハ殆ト其區域ヲ知ル能ハスト雖トモ過半若クハ六七分ト云フノ意ニアラス件中ノ八九兩ヲ成造スルトキト解セサル可ラス何トナレハ前述フル如ク最モ不經濟ヲ醸スコトアレハナリ

又差押ノ効力ハ特リ差押物件ノミナラス其物件ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス例ニハ家禽ノ如キハ之レヨリ生スル卵若クハ雛ノ類マテ畜類ナレハ其產子ニマテ効力ヲ及スモノナリ要スルニ主タル物件ヲ差押フルトキハ其ヨリ生スル附從物ハ別途ノ差押ヲ爲サストモ之レト同一ノ効力アルコトヲ示シタルニ過キス

〔參照〕 獨 第七百十四條 收穫物ハ未タ土地ヨリ分離セサル前ト雖トモ之ヲ買取スルコトヲ得其買取ハ通例ノ成熟期限前一月ヨリ早ク之ヲナスコトヲ許サス

第五百七十條 左ニ掲グル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 第一 衣服、寢具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル
- 第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一ヶ月間ノ食料及ヒ薪炭

第三 技術、者職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物

第四 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八 勳章及ヒ名譽ノ證標

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

○勸産ニ對スル強制執行

第十 神體、佛像其他禮拜ノ用品供スル物

第十一 系譜

第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除外之ヲ差押フルコトヲ得

〔解義〕〔字解〕〔理由〕〔的例〕〔比較〕 本條ハ債務者ノ財産中差押フルヲ得サル物ヲ示定セリ

債務者ノ財産ハ凡テ債權者ノ抵償ナリト雖トモ法律ハ債務者ヲ保護スル爲メ且安寧ヲ保持スル爲メ左ニ掲ケタル者ハ不抵償品トシテ之カ差押ヲ許サス

第一 衣服、寢具、家具及厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ欲ク可カラサルトキニ限衣服、寢具ニシテ欲ク可ラサルモノトハ差押當時ノ時候ニ相應スルモノヲ云ヒ家具トハ泛博ナラ意味ニシテ日用欠ク可カラサル什具ノミナラス商人ニ於ケル商業簿冊モ亦此中ニ包含ス厨具トハ炊具ノ謂ナリ此等ノ物ハ債務者及ヒ其家族ノ爲メ必要欲ク可ラサルモノ、ミヲ遺シテ可ナリ

第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料及ヒ薪炭

第三 技術者、職工、勞役者及穩婆ニ在テハ其營業上欲ク可ラサル物

此等ノ者ノ營業上欲ク可ラサル物マテ差押フルトキハ徒ニ債務者ニ痛苦ヲ與フルノミナラス爲メニ債務者ヲシテ生産ノ道ヲ失ハシメ援イテ債權者ノ權利ヲ伸ハス可キ餘地ヲモ阻絶スルニ至ル可キヲ以テ斯クハ定メタルモノナリ

第四 農業者ニ在テハ其農業上欲ク可ラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ収獲マテ農業ヲ續行スル爲メ欲ク可ラサル農産物

農産物トハ種子ヲ云フナリ又注意ス可キハ農業者ノ中ニハ養蠶家ヲ包含スルコト是レナリ故ニ養蠶家ニ欲ク可ラサル道具又ハ次期ノ材料トスル蠶卵紙モ此中ニ含蓄スルモノト知ル可シ

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辨護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ欲ク可ラサル物並ニ身分相當ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ収入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應ジテ之ヲ計算ス

第六百十八條ト參觀スヘキモノニシテ第六百十八條ハ未タ債務者ノ手ニ受取ラサル俸給

○動産ニ對スル強制執行

○動産ニ對スル強制執行

六百九十八

又ハ恩給ヲ差押フルコトニ付テノ規定ニシテ本號ハ既ニ債務者ノ手ニ受取リタル俸給又ハ恩給ヲ差押フルニ付テノ規定ナリ即チ第六百十八條ニ定ムル如ク一个年間ニ金三百圓ヲ超過セサル俸給又ハ恩給ハ之ヲ差押フルコトヲ得ヌ又三百圓ヲ超過スルモ其超過額ノ半額ハ之ヲ差押フルコトヲ得サルナリ而シテ三百圓ヲ超過スルトキハ日割ヲ以テ之ヲ計算セサル可ラス例ニハ年俸六百圓ヲ受クルモノアリテ之ヲ二月五日五月五日八月五日十一月五日ノ四度ニ受取ルモノトセンカ一月十日ニ差押ヲ受ケ當時俸給ノ殘額金八十圓ヲ所持セリ此場合ニ於テ金三百圓チ一ケ年三百六十五日ニ割リ一日金八十二錢九厘ニ年俸六百圓ノ中三百圓ヲ除去シタル殘金三百圓ノ半額即チ百五十圓ヲ三百六十五日ニ割リタル一日分金四拾壹錢四厘ヲ加ヘ一日ニ壹圓貳拾四錢參厘ツ、チ殘サ、ル可ラス因テ次期ノ俸給日即二月五日マテ二十五日間一日ニ付金壹圓貳拾四錢參厘ノ合金參拾壹圓七錢五厘トナルヲ以テ之ヲ右所持金八拾圓ヨリ扣除シ殘金四拾八圓九拾貳錢五厘ヲ差押フルモノトス

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ欲ク可カラサル器具及ヒ藥品  
内務省ノ免許ヲ受ケタル藥舖ノ謂ヒコシテ藥種屋ヲ包含ス

第八 勳章及ヒ名譽ノ證標

勳章及名譽ノ證標ハ其人ニノ屬スルモノニシテ又其人ト共ニ貴キモノナリ故ニ此等ノ物ハ賣買讓與ヲ爲シ得ヘキモノニ非ラス已ニ賣買讓與ノ目的物トナラサル上ハ之カ差押

ヲ爲スモ毫モ其効アラサルヲ以テ之ヲ差押ヲ可ラサルモノ、一トノ數ヘタルモノナリ

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

職業ニ必要ナル印判中ニハ商人ニ於ケル店判官吏ニ於ケル小印ヲ包含ス

第十 神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

其他禮拜ノ用ニ供スル物トアル中ニハ神棚佛壇社堂墓所石碑等ノ類ヲ包含ス

第十一 系譜

第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未

タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

生徒ノ學校用ノ書籍ノ意義ナリ

然レトモ債務者ニ於テ自ラ節シテ義務ヲ果サントスルニ勇ナルトキハ第一第二第九乃至

第十三ノ制限ヲ撤去シテ差押ヲ受クルコトヲ得ヘシ唯第三乃至第八ハ公益保護ノ精神ニ

出ツルヲ以テ債務者ノ隨意ニ任カササルモノトス

〔參照〕 獨 第七百十五條 左ノ物件ハ之ヲ質取セサルモノトス

第一 衣服、寢具、家具、厨具殊ニ煖爐及竈爐但其物件負債者其家族及傭人ノ爲メニ必要ナルトキニ限ル

第二 負債者其家族及傭人ノ爲メニ週間必要ナル飲食物及火料

○動産ニ對スル強制執行

六百九十九

○動産ニ對スル強制執行

第三 乳牛一頭又ハ負債者ノ撰ニ依リ乳牛ノ代ニ山羊二頭又ハ綿羊二頭及其飼養又ハ廠敷ノ爲メニ週間必要ナル飼料及藪但其動物負債者其家族及傭人ノ榮養ノ爲メニ必要ナル下キニ限ル

第四 美術家、手職人、手細工人及製造所勞役者並ニ穩婆ニアリテハ本人其職業ヲ執行スル爲メ必要ナル物件

第五 農業ヲナス者ニアリテハ農業ノ爲メ必要ナル器具、家畜及田野ノ儲藏及肥料並ニ次ノ收穫マテ農業ヲ繼續スル爲メ必要ナル農産物

第六 將校、海軍下士官、官吏、僧侶、公立教育場ノ教師、代言人、公證人及醫師ニアリテハ其職務ヲ管理シ又ハ其職業ヲ執行スル爲メ必要ナル物件並ニ自分相當ノ著衣類

第七 將校、軍醫、海軍下士官、官吏、僧侶及公立教育場ノ教師ニアリテハ質取ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ時間ニ於テ職務上収入又ハ恩給ノ質取ヲ受ケサル部分ニ相當スル金額

第八 調藥ヲナス爲メ必要ナル器具容器及ヒ商品

第九 勳章及賞牌

第十 寺院又ハ學校ニ於テ負債者及其家族ノ使用ニ供スル書籍

第五百七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲メニ費用ヲ要スルトキ

ハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

〔解義〕〔的例〕 本條ハ差押物ヲ保全スルニ付キ別段ニ所置ヲ爲サ、ルヲ得サルトキハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘキコトヲ示定セリ

差押ヲ爲ス物件ノ中ニハ種々ノ種類之レアル可ク從テ之カ保存方法モ同一ナラス器具穀類ノ如キハ執達吏之カ所持ニ注意スレハ足レリト雖トモ家禽獸畜ノ如キハ之ニ食餌ヲ供セサル可ラヌ又氷ノ如キモ氷室ニ於テ之ヲ保存セサル可ラサルヲ以テ執達吏ハ其物ニ應ジ適當ノ方法ヲ盡サ、ル可ラス而シテ之カ爲メニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名ニ關係スルトキハ請求額ノ割合ニ應シテ之ヲ豫納セシムルコトヲ得ヘシ

第五百七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セズシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

〔解義〕〔理由〕 本條以下ハ差押ヘタル動産ヲ公賣ニ付スル手續ヲ規定セリ就中本條ハ債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セズシテ以下數條ノ規定ニ從ヒ公賣ヲ爲ス可キコトヲ示定セシニ過キテ強制執行ハ差押ニ因テ開始セラル、モノニシテ爾後公賣ノ手續ヲ爲ス等

○動産ニ對スル強制執行

○動産ニ對スル強制執行

悉ク其差押ノ結果タルニ外ナラス故ニ最初ニ執行力アル正本ヲ交付シテ執行ノ委任ヲ受  
メタルトキハ各箇ノ行爲ニ付キ特別ノ委任ヲ受クルヲ要セサルモノトス

第五百七十三條 競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノアルトキハ執達吏ハ適  
當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシムベシ

第五百七十四條 差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看  
做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カレル、コトヲ債務者ニ  
許シタルトキハ此限ニ在ラス

〔解義〕〔理由〕第五百七十三條ハ競賣ス可キ物件中高價ノ物アルトキハ特別ノ注意ヲ要  
ス可キコトヲ第五百七十四條ハ金錢ニ關スル差押ノコトヲ示定セリ

第五百七十三條 債務者ノ物件ヲ差押ヘタル中高價ノモノアルトキハ執達吏ハ先ツ適當  
ナル鑑定人ヲシテ之カ評價ヲ爲サシメ然ル後々其評價額ヲ標準トシテ競賣ス可キナリ何  
トナレハ初メヨリ之ヲ競賣ニ付スルトキハ勢ヒ他ノ雜品ト混交シ其價ノ低廉ナルヲ免レ  
ザレハナリ故ニ豫メ鑑定人チノ之カ評價ヲ爲サシムルトキハ執達吏モ此評價額ニ下ラサ  
ル價ヲ以テ競賣セシコトヲ務ムルニ至リ決極債務者債權者ヲ利スルニ至ルヘケンハナリ  
若シ執達吏ニ於テ此等ノ手續ヲ怠リ所謂玉石ヲ混交シテ公賣スルカ如キコトアルトキハ

到底其賠償ヲ免レサル可シ然レトモ本條ノ評價ヲ爲サシムルハ畢竟執達吏ノ標準トスル  
ニ過キサルヲ以テ若シ相當代價ニテ賣レサルトキハ一應債務者債權者ノ意見ヲ聞キ之ヲ  
決定スルニ若カサルナリ

此ニ注意スヘキハ本條ニアル鑑定人ニハ第三百二十二條以下ノ規定ヲ適用セサルコト是  
レナリ第三百二十二條以下ノ鑑定人ハ民法證據篇ニ基キタル證據ノ一ニシテ即チ係爭事  
實ヲ裁判スルノ心證ト爲スヘキモノナレトモ物品評價ノ如キハ係爭事實ヲ證スルモノニ  
アラス况ンヤ裁判所ノ行爲ニアラスシテ執達吏ノ行爲ニ係ルニ於テチヤ

第五百七十四條 金錢ヲ差押ヘタルトキハ直ニ之ヲ債權者ニ引渡サ、ル可ラス而シテ執  
達吏ハ債權者ノ代理人ナルヲ以テ其金錢ヲ取立テタルトキハ恰モ債務者ト債權者ト直接  
ニ授受シタルニ均シキヲ以テ債務者ヨリ之カ支拂ヲ爲シタルモノト看做サル可キナリ故  
ニ金錢ヲ取立テタル後未ダ債權者ニ引渡サ、ル前盜難若シハ紛失等ニ罹ル事アルモ債務  
者ハ其危險ヲ擔任スルコトナカルヘシ

然レトモ第五百條第五百三條第五百五條及ヒ第五百四十七條等ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツ  
ルカ又ハ金錢ヲ供託シテ執行ヲ免カル、コトヲ債務者ニ許シタルトキハ右取立テタル金  
錢ハ債權者ニ引渡サスシテ之ヲ供託ス可キナリ

〔參照〕 獨 第七百十六條 質取シタル物件ハ裁判所使吏之ヲ公賣ニ付スヘキモノトス高  
價物ハ公賣前鑑定人ヲ以テ評價セシムヘシ

○動産ニ對スル強制執行

○動産ニ對スル強制執行

買取タシル金錢ハ債主ニ之ヲ引渡スヘキモノトス裁判所使吏ノナス金錢買取ハ負債者ヨ  
リ支拂ヒタルモノト看做フ但保證又ハ藏寄ヲ得テ執行ヲ免ル、コトヲ負債者ニ許シタル  
トキハ此限ニアラス

第五百七十五條 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間  
ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求  
スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ  
又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著  
シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ  
此限ニ在ラス

第五百七十六條 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債  
權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限  
ニ在ラス

競賣ノ日時及場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可  
シ

〔解説〕〔理由〕〔的例〕 第五百七十五條ハ差押ノ日ト競賣期日トノ間ニ若干ノ時間ヲ存

セサル可ラサルコト及ヒ其變例ヲ示定メ第五百七十六條ハ競賣スヘキ場所及ヒ公告ヲ爲  
ス可キコトヲ示定セリ

第五百七十五條 物件差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存セサル  
可ラス何トナレハ次條ニ定ムル如ク競賣ノ日時及ヒ場所並ニ競賣ス可キ物品等ヲ公告シ  
之ヲ衆人ニ知ラシムルノ必要アレハナリ然レトモ差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配  
當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキハ收テ公告日  
ニ數ヲ寛大ニセサル可ラサルノ必要アラサルヲ以テ此期間ヲ短縮スルコトヲ得ヘシ又此者  
等ノ合意アラサルモ差押物ヲ永ク貯藏スルトキハ不相應ナル費用ヲ要スルトキ例エハ動  
物ニシテ日多クノ餌食ヲ要スルカ如キ事情アルトキ若クハ永ク之ヲ貯藏スルトキハ其  
價格ノ著シク減少スルトキ例エハ氷塊若クハ腐敗シ易キ果實等ヲ差押ヘタルカ如キトキ  
ハ執達吏ノ意見ヲ以テ相當ニ短縮スルコトヲ得ヘシ蓋シ此等ノ事情アルトキハ執達吏ハ  
必ス適當ノ時間ニ競賣セサル可ラサルノ義務アル可シ

第五百七十六條 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ爲ヌヲ正則トナス何トナレハ差押  
ヲ爲シタル市町村ハ大抵債務者ノ所在地ナルヲ以テ之ヲ競賣スルニ大ナル便利アレハナ  
リ然レトモ債權者債務者ニ於テ他ノ地ニ於テ爲ヌヲ便宜トスルトキハ之ヲ斥クルノ理由  
アリタルヲ以テ其意見ニ從ハサル可ラス

又競賣スルニハ物件ノ性質等因リ或ハ市町村外掲示場ニ公告スル可シ或ハ新聞紙ニ廣告ス

○動産ニ對スル強制執行



○動産ニ對スル強制執行

死後遺留物ヲ公告ヲ爲サシテ可クテ此廣告ニハ競賣ス可キ物件ノ略記及ヒ競賣ノ日  
時場所ヲ掲載ス可キナリ  
〔參照〕 獨 第七百十七條 質取シタル物件ノ公賣ハ質取ノ日ヨリ一週ヲ經過スル前ニ之  
ヲナスコトヲ許サス但債主及負債者此期限前ノ公賣ニ付キ同意スルトキ又ハ公賣スヘキ  
物件ノ價額ヲ著ク減少スルノ危險ヲ防カシメ又ハ長ク儲藏スルニ依テ生スル不相當ノ  
費用ヲ避クルカ爲メ其期日前ノ公賣ヲ要スルトキハ此限ニアラス  
公賣ハ質取ヲナシタル町村内ニ於テ之ヲナスモノトス但債主及負債者其他ノ地ニ於テナ  
スコトニ付キ同意スルトキハ此限ニアラス  
公賣ノ時及場所ハ公賣スヘキ物件ヲ概記シテ公告スヘキモノトス

第五百七十七條 最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後  
之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス  
最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期  
日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物  
ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ  
得ス且再度ノ競落代價ハ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス

可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

〔辭義〕〔理由〕〔的例〕 本條ハ競賣ヲ初メタル後其競賣ニ關スルコトヲ示定セリ

競賣期日ニハ執達吏ハ先ツ賣却條件ヲ告知シ次テ競賣ヲ申出ツ可キ旨ヲ催告シ之ニ因テ  
各競買人ヨリ價格ヲ申出ツルトキハ執達吏ハ其價額ヲ呼上ケ尙ハ漸次ニ高キ價ヲ申出ツ  
ルモノアリテ遂ニ最高價額ノ定マリタルトキハ其最高價額ヲ三回呼上ケタル後之カ競落  
ヲ決定スルモノトス例ニハ甲者ハ三拾圓ニテ買受ケント申出テ乙者ハ四拾圓ニテ買受ケ  
ンコトヲ申出テ丙者ハ五拾圓ニテ買受ケント申出テ遂ニ五拾圓ヲ最高價額トスルトキハ  
五拾圓五拾圓五拾圓ト同價ヲ三回呼上ケタル後之カ競落ヲ爲サ、ル可ラス如此定メタル  
所以ノモノハ成ル可ク高價ニ賣却シテ債務者債權者等ノ利益ヲ計ランカ爲メナラン故ニ  
三回呼上ケル中尙キ之ヨリ高キ價額ヲ申出ツルトキ例ニハ戊者ヨリ六拾圓ニテ買受ケン  
ト申出ツルトキハ之ヲ六拾圓ト云ユル度ニ移シ此價額ヲ三度呼ハリタル後前ノ如ク競落  
ヲ定ムルモノトス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ニ之ヲ爲スヲ原則トス若シ當事者ノ合意ニ因リ特別ニ賣却條  
件ヲ定メ支拂期日ヲ定メタルトキ例ニハ代金ト引換ニ爲サ、ンニハ十分高價ニ賣レスト見  
込ニ三日目或ハ五日目ニ支拂期日ヲ定メタルトキハ此期日マテニ價額ヲ携帶シテ物件ノ引  
渡ヲ求ムルコトヲ得ヘシ然ルニ此支拂期日ニ至ルモ之カ引渡ヲ求メヌ又支拂期日ノ定メ  
アラサルトキ競落期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲サ、ルトキハ執達吏ハ再ヒ之ヲ競賣ニ

○動産ニ對スル強制執行

○動産ニ對スル強制執行

付セサル可カス此場合ニ於テ再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキ例ヘハ初メハ六拾圓ニシテ後ハ五拾圓ニ競落ヲ爲ストキハ前競落人ハ其拾圓ノ差額ヲ擔任セサル可ラス何トナレハ此差額ヲ生シタルハ實ニ前競落人ノ違約ニ原因スレハナリ而シテ再度ノ代價前代價ヨリ高キトキト雖トモ前競落人ハ決シテ其剩餘ヲ請求スルコトヲ得サルナリ又此再競賣ヲ爲ストキハ前競買人ハ其競買ニ加ハルコトヲ得ス何トナレハ第一ノ賣買ニ違約セル者ヲシテ第二回ノ賣買ニ加ハラシムルモ前同一ノ結果ヲ生スルニ至リ管ニ手數ヲ生スルノミナラス少カラサル損害ヲ贖フニ至レハナリ

〔參照〕 獨 第七百十八條 最高競買人ニ當ルヘキ競落ハ三回號呼シタル後之ヲナスモノトス

競落シタル物件ノ引渡ハ現金支拂ト引換ニアラサレハ之ヲナスコトヲ許サス  
最高競買人公賣規約ニ定メタル期日又ハ其定メナキトキハ公賣期日ノ終ル前代金支拂ニ引換ヘ引渡ヲ求メサルトキハ其物件ヲ更ニ公賣ニ付スルモノトス其最高競買人ハ再ヒ競買ニ加ハルコトヲ許サス其賣得金ノ不足額ニ付キ責任ヲ負擔スルモ増額ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十八條 競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直ニ之ヲ止ム可シ

第五百七十九條 執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲

シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條 金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

〔解義〕 第五百七十八條ハ競賣ノ賣得金カ債權者ノ債權及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルトキハ直ニ其競賣ヲ止ム可キコトヲ第五百七十九條ハ執達吏カ賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ直接ニ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルト同一ノ効力アルコト及ヒ債務者ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルコトヲ許シタルトキハ此限ニアラサルコト即チ第五百七十四條第二項末段ト均シシ之ヲ供託ス可キコトヲ第五百八十條ハ差押タル金銀物ハ何時ニテモ價値アルヲ以テ之ヲ實價ヨリ以下ニ競落ス可ラサルコト及ヒ實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ公賣手續ニ因ラスシテ適宜ニ之ヲ賣却スルヲ得ヘキコトヲ示定セリ以上各條ハ一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第七百十九條 公賣ハ賣得金ヲ以テ債主ニ辨濟シ及權利執行費用ニ引當ル爲メ充分ナルトキハ直ニ之ヲ停止スルモノトス  
獨 第七百二十條 裁判所使吏ノ賣得金領收ハ之ヲ負債者ヨリ支拂ヒタルモノト看做ス

○動産ニ對スル強制執行

但保證又ハ藏書ヲ得テ執行ヲ免レシムルコトヲ負債者ニ許シタルトキハ此限ニアラズ  
獨 第七百二十一條 金銀ノ物件ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ墮落スルコトヲ許サズ其墮  
落ヲ許シタル墮買ヲナサ、ルトキ裁判所使吏ハ其金銀ノ實價ニ達スル代價ヲ以テ自由ニ  
賣却ヲナスコトヲ得

第五百八十一條 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣  
却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從  
ヒテ之ヲ競賣ス可シ

第五百八十二條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ  
書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執  
達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流  
通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ  
此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコト  
ヲ得

第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟

ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシム  
ル權利アリ

差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス  
〔解釋〕〔理由〕 第五百八十一條乃至第五百八十三條ハ有價證券ヲ差押ヘタルトキノ手續  
ヲ示定シ第五百八十四條ハ果實及ヒ繭ヲ競賣スルニ付テノ手續ヲ示定セリ

第五百八十一條 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ前條ト同シク直ニ之ヲ競賣ニ付ス  
ルコトヲ許サズ有價證券即チ公債證券諸株券ノ如キハ通例取引所ニ於テ相場ノ定マルモ  
ノナルヲ以テ執達吏ハ取引所ニ就キ其日ノ相場ヲ聞キ或ハ新聞紙ノ相場書或ハ其筋ノ官  
吏或ハ仲買人等ニ因テ當日ノ確實ナル相場ヲ探聞シ其日ノ相場ヲ以テ適宜ニ賣却セザル  
可ラズ若シ差押ヘタル有價證券ニシテ一定ノ相場アラサルトキハ他ノ動産ト均シク之ヲ  
競賣ニ付スヘキナリ

第五百八十二條 記名ノ證券ハ其記名者ノ外之ヲ處分スルヲ得サルヲ以テ其氏名ヲ書換  
ユルノ方法ヲ設ケメンハ之ヲ買得スル者之アラサルニ至ル可キナリ是ヲ以テ法律ハ執行  
裁判所ヲシテ其書換ヲ爲シ且其書換ニ付キ必要ナル陳述例ニハ競賣ニ因テ之ヲ買得シタ  
ル等ノ陳述ヲ爲スコトヲ債務者ニ代テ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ許セリ  
第五百八十三條 無記名ノ證券ナルヲ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依テ其流通ヲ止メタル  
モノナルトキハ猶ホ之ヲ買得スルモノナキヤノ恐レアルヲ以テ前條ト同シク執行裁判所

ヲシテ流通回復ヲ爲サシム且之カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代テ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ許セリ故ニ前條及ヒ本條ノ場合ニ於テハ執達吏ヨリ執行裁判所ニ申請シ其許可ヲ得テ之ヲ爲スモノト知ルベシ

第五百八十四條 第五百六十八條ニ依リ差押ヘタル果實ハ收穫時期ノ到來シタル後始メテ競賣ヲ爲スコトヲ得ヘシ執達吏ハ競賣ノ爲メ之ヲ收穫セシムルノ權アリ而シテ之カ爲メニ生シタル費用ハ當然強制執行ノ費用ニ屬スルヲ以テ債務者ノ負擔ニ歸ス可キナリ又差押ヘタル蠶モ全ク繭ト爲リタル後始メテ競賣ニ付スルコトヲ得ヘシ  
執達吏ハ能ク果實ノ收穫時期又蠶ノ繭トナリタル時ニ注意セサル可ラス何トナレハ成熟ノ時期ヲ看過スルトキハ收穫ノ道ヲ失ヒ價額ニ影響ヲ及ホスニ至ル可ク又繭ニ至テモ其時期ヲ後ル、トキハ忽チ化蝶シテ其價ヲ失スルニ至ル可ケレバナリ

〔參照〕 獨 第七百二十二條 裁判所使吏ハ質取シタル有價證券相場會所又ハ市場ノ相場ヲ有スルモノナルトキハ其日ノ相場ヲ以テ自由ニ賣却シ其相場ヲ有セザルトキハ一般ノ規定ニ從ヒ公賣スヘキモノトス

獨 第七百二十三條 記名ノ有價證券ナルトキ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲナサシメ及之カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リナスノ權利ヲ裁判所使吏ニ與フルコトヲ得  
獨 第七百二十四條 無記名證券氏名ノ登記又ハ其他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メラレタル有價證券ハ其流通回復ヲ得サシメ及之カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リナスノ權利ヲ

裁判所使吏ニ與フルコトヲ得

獨 第七百二十五條 質取シタル未タ土地ヨリ分離セサル收穫ノ公賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲナスコトヲ許スモノトス其公賣ハ其收穫ノ分離前又ハ後ニ之ヲナスコトヲ得其分離後ノ場合ニ於テハ裁判所使吏ハ其收穫ヲナサシムヘシ

第五百八十五條 差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

〔解釋〕 本條ハ前數條ニ於ケル變例ヲ示定セリ

差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ニ於テ前數條ノ規定ニ依ラス例ニハ競賣方法ニ因ラサルコト第五百七十六條ニ定ムル場所以外ニ於テ賣却スルコト又ハ執達吏ニ依ラス他ノ熟練者ヲシテ競賣ヲ爲サシメント欲スルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得ヘシ執行裁判所ニ於テモ適當ト認ムルトキハ其申請ヲ許可スヘキナリ

〔參照〕 獨 第七百二十六條 債主又ハ負債者ノ申立ニ依リ執行裁判所ハ質取シタル物件ノ賣却ヲ前諸條ニ定メタルヨリ他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テナスヘキコト又ハ公賣ヲ裁

判所使吏ヨリ他ノ者ニサシムヘキコトヲ命ズルヲ得

第五百八十六條 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閲覧ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付スコキコトヲ求ム可シ若シ差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セズ

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ

又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

〔解説〕第五百八十六條ハ已ニ差押ヲ爲シタル後ニ於テ債權者ニ係リ更ニ差押ヲ求ムル者アルトキノ手續ヲ示定シ第五百八十七條ハ前條ニ從ヒ照査手續ヲ行フタルトキノ効果ヲ

示定セリ

第五百八十六條 執達吏ニ於テ一度差押ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ヨリ更ニ差押ヲ求ムル者アリトモ二重ノ差押ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ一度差押ヲ爲ストキハ最早債務者ノ手中ニ物件ノ存在スル間ハレナキヲ以テ再ヒ差押ヲ爲スノ必要アラザレハナリ

第二ニ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ第一ニ債權者ノ爲メニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ其差押調書ノ閲覧ヲ求メ一應物件ノ照査ヲ爲シ若シ差押ニ係ラサル物アルトキハ即チ差押ニ漏レニナリタルカ或ハ差押後ニ獲得シタル物件アルトキハ之カ差押ヲ爲シ其調書ヲ第一ニ債權者ノ委任ヲ受ケタル執達吏ニ交付シテ既ニ差押ヘタル物ト一齊ニ競賣ニ付スコキコトヲ求ム可シ若シ差押ヲ可キモノアラサルトキハ其旨ヲ記シタル照査調書ヲ作り之ヲ交付シテ配當要求者ト爲ル可キナリ

右照査手續ヲ爲シタルトキハ別段第二以下ノ債權者ヨリ委任ヲ爲サ、ルモ第一ニ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ニ當然委任ノ移轉スルモノトス本條ニ規定シテサルモ第一ニ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ニ執行力アル正本ヲ交付シテ直ニ配當加入ヲ申立ツル者アルトキハ執達吏其旨ヲ調書ニ記入スルニ因リ當然加入ノ効ヲ生スルナル可シ

假差押ニ係ル物ニ付キ強制執行ヲ爲サントスルトキハ其假差押ニ係ルコトヲ顧ミズ更ニ差押ヲ爲シ之ヲ競賣ニ付ズルノ手續ヲ進行ス可キナリ然レトモ之カ爲メニ假差押ノ効力ヲ消滅ニ歸セシムルコトナシ第六百三十條第三項ニ從ヒ假差押債權者ノ債權確定ス

○動産ニ對スル強制執行

ルマテ其配當額ヲ供託スルモノトス六百二十七條  
第五百八十七條 前條第二項ニ依リ照査手續ヲ爲シタルトキハ執行力アル正本ニ因レル配當加入ノ債權者トナル而シテ第一ノ債權者其差押ヲ取消ストキハ第二ノ債權者差押ヲ爲シタルト同一ノ効力ヲ生シ第一債權者ノ位地ニ代ルモノトス

〔參照〕 獨 第七百二十七條 既ニ質取シタル物件ノ質取ハ裁判所使吏其囑託者ノ爲メニ其物件ヲ質取スルコトヲ陳述シテ之ヲナスモノトス其陳述ハ之ヲ筆記スヘシ  
他ノ裁判所使吏最初ノ質取ヲナシタルトキハ之ニ其筆記ノ謄本ヲ送達スヘキモノトス  
負債者ニハ再度ノ質取ヲ知了セシムヘキモノトス

獨 第七百二十八條 執行裁判所關係セル債主一名ノ申立又ハ負債者ノ申立ニ依リ最初質取ヲナシタル裁判所使吏ノ事務ヲ他ノ裁判所使吏ニ於テ引受クヘキコトヲ命セサルトキニ限リ第二債主ノ囑託ハ最初ノ裁判所使吏ニ法律上移轉スルモノトス其公賣ハ關係ヲ有スル總テノ債主ノ爲メニ之ヲナス

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アラソコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

〔解義〕 〔理由〕 本條ハ執達吏ノ懈怠シタル場合ニ關スル規定ナリ

法律ニ於テハ差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニ少ナクトモ一週間ヲ存セサル可ラストシテ何日マテニ之ヲ競賣スヘシトノ規定ナシ左レハ其以上ニ至テハ三十日ヲ過クルモ或ハ五十日ヲ過クルモ敢テ不可ヤキカ如キモ決シテ然ラス法律ハ適當ノ公告ヲ爲シ已ニ準備ノ整フタルトキハ速ニ之ヲ斷行セシムルノ趣旨ナルハ明カナリ故ニ本條ハ執達吏ニ於テ其競賣ヲ怠ルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求者ニ之ヲ催告スルコトヲ得セシメ尙ホ其催告ニ應セサルトキ即チ定期内ニ競賣セサルトキハ相當ノ命令アラソコトヲ執行裁判所ニ申請セシムルコトノ權ヲ與エリ執行裁判所ニ於テ此申請ヲ受ケタルトキハ執達吏ニ對シ速ニ競賣ス可キ旨ノ命令ヲ發ス可ク若シ之ニ從ハサルトキハ職務上ノ責罰ヲ科セラル、ヲ免カレサル可シ

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルモノハ假住所ヲ撰定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

〔解義〕 本條條、民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ニ關スル規定ナリ

○動産ニ對スル強制執行

○動産ニ對スル強制執行

七百十八

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債務者トハ民法債權擔保篇第一條及ヒ同法財産編第四百五條ノ規定ヲ云フ即チ債務者ノ財産ハ債權者一同ノ擔保物ナリ而シテ或ル債權者カ債務者ノ財産ノ多分ヲ差押フルトキハ未タ期限ノ到ラサル他ノ債權者モ亦執行力アル正本ニ因ラスシテ其差押物ノ賣得金ニ付キ配當ヲ要求スルノ權利ヲ生スルモノトス

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其債權ノ原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ナモ事務所ヲモ有セサルトキハ假住所ヲ撰定シテ執達吏ニ之ヲ爲スモノトス

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

〔解説〕〔理由〕 本條ハ配當加入ノ要求ヲ受ケタル場合ニ於テ執達吏カ盡サハル可ラサル手續ヲ示定セリ

第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ニ因リ配當加入ヲ要求スル者アルトキハ執達吏ハ其配當要求ノアリタルコトヲ債務者及ヒ配當ニ與カル各債權者ニ通知セサル可ラス其理由ハ配當要求アリタルトキハ他ノ配當ニ與カル債權者ハ勿論債務者ニモ大ナル影響ヲ及ホスヲ以テナリ

執行力アル正本ニ因ル配當要求ハ固ヨリ確定ノモノタルヲ以テ單ニ之ヲ通知スルニ止ムルト雖トモ執行力アル正本ニ因ラサル配當要求ハ未タ權利ノ確定セサルモノナルヲ以テ當ニ通知ヲ爲スノミナラス債務者ニ向テハ三日内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ申立ツ可キ旨ヲ記載シテ通知スルモノトス而シテ此期間内ニ債務者ヨリ何等ノ通知ナキトキハ其請求ヲ認諾シタルモノト看做スヲ以テ配當要求ハ此ニ確定スルモノトス

債務者ヨリ認諾セサルコトヲ申立ツルトキハ執達吏ハ速ニ之ヲ債權者ニ通知シ債權者ハ此通知ニ接シタルヨリ三日内ニ債務者ニ對シテ訴ヲ起シ其權利ヲ確定ス可キナリ而シテ債權者カ此期間内ニ訴ヲ起シタルトキハ之ヲ配當ニ與カル債權中ニ加ヘ置キ第五百九十三條ノ規定ニ從ヒ執達吏ヨリ之ヲ執行裁判所ニ届出テ執行裁判所ハ第六百三十條第三項ニ從ヒ其權利ノ確定ニ至ルマテ配當額ヲ供託シ置ク可キナリ若シ此三日内ニ訴ヲ起サザルトキハ配當要求ハ抛棄シタルモノト看做シ此配當ニ加ヘサルモノトス然レトモ單ニ配

○動産ニ對スル強制執行

七百十九

○動産ニ對スル強制執行

七百二十六

當要求ノ効失スルノ事ニシテ權利ノ本体ニ至ラハ固ヨリ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ  
故ニ他日訴ヲ起シテ其權利ヲ確定セシムルニ妨ガナカルヘキナリ  
第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ヲ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ  
得

〔解義〕〔理由〕本條ハ配當ヲ要求シ得ヘキ期間ヲ示定セシモノニシテ配當要求ハ競賣期  
日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ許セリ若シ此期日ヲ過キタルトキハ實際ノ賣得金ニ付  
キ配當ヲ主張スルコトヲ得ス如此定メタル所以ハ第五百七十四條第五百七十九條ニ依リ  
定ムル如ク執達吏カ金錢ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ了終シタルモノト看做ス  
可キニ競賣期日ノ終ニハ通例執達吏ニ於テ賣得金ヲ領收スレハナリ

第五百九十二條 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ  
足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ  
供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ  
満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ  
右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ  
執行手續ニ關スル書類ヲ添付ス可シ

〔解義〕本條ハ差押金錢若クハ競賣ニ依リ賣得シタル代金ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムル  
ニ足ラサル場合ニ於ケル處分方法ヲ示定セリ

差押債權者一人ニシテ他ニ配當要求者アラサルトキハ勿論配當要求者アルトキト雖トモ  
賣得金ヲ以テ各債權額ニ充當スルニ足ルトキハ別段困難ヲ生スルコトナシ假令ヒ債權者  
ヲ満足セシムルニ足ラサルモ配當ニ付キ協議ノ調フタルトキハ其協議ニ任ス可キヲ以テ  
亦困難ノコト勿ルヘシ唯賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル  
場合ニ於テ各債權者間ノ協議調ハサルトキハ執達吏ニ供託規則ニ從ヒ其賣得金ヲ供託シ  
一面執行裁判所ニ其事情ヲ届出ツ可キナリ

又一人ノ債權者ノ爲メ金錢ヲ差押ヘタルトキハ第五百七十四條ニ因リ債務者ヨリ支拂ア  
リタルモノト看做ス可キヲ以テ毫モ困難ナシト雖トモ數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ  
差押ヘタルトキハ何レノ金錢ハ何レノ債權者ニ屬スヘキヤノ疑ヒアルヲ以テ此場合ニ於  
テハ亦其賣得金ヲ供託スルモノトス

此ニ注意スヘキハ第五百九十一條第三項ノ手續中ナルトキ又假差押債權者アルトキハ協  
議ノ調ハサルモノナルヲ以テ此場合ニ於テモ執達吏ハ金錢又ハ賣得金ヲ供託セサル可ク  
ス

右等ノ場合ニ於テハ執達吏ハ執行裁判所ニ其事情即チ第五百八十六條第五百八十九條ニ  
於ケル配當要求アリシコト第五百九十一條ニ於ケル手續中ナルコト又假差押債權者アル

○動産ニ對スル強制執行

七百二十一



○動産ニ對スル強制執行

七百二十二

コト差押金錢又ハ賣得金ハ何程ニシテ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルコト各債權者  
ノ協議調ハサルコト等ヲ届出テ其届書ニハ執行手續ニ關スル書類即チ配當要求ノ申請書  
執行ニ關スル一切ノ調書等ヲ添付ス可キナリ

〔參照〕 第七百二十八條 賣得金要求ニ引當ルニ足ラサル場合ニ於テ第二又ハ其後買  
取サシタル債主其他ノ關係セル債主ノ承諾ヲ得スシテ質取ノ順序ニ戻リ分配ヲ請求ス  
ルトキ裁判所使吏ハ賣得金ヲ藏密シテ其事狀ヲ執行裁判所ニ届出ツヘキモノトス其届出  
ニハ處分ニ關スル書類ヲ添フヘシ  
質取チ數名ノ債主ノ爲メ同時ニナシタルトキ亦同一ノ方法ヲ以テ處分スヘキモノトス

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第二債務者)ニ對スル債權者ノ債權ニシテ金錢  
ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスル  
モノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ  
區裁判所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ  
對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

〔解釋〕 第五百九十四條ハ債務者ニ屬ガル無形ノ權利ニ對シ強制執行ヲ爲スノ方法ヲ示定

第五百九十五條ハ何レノ裁判所ヲ以テ執行裁判所トナス可キヤヲ示定セリ

第五百九十四條 本款ニ所謂債權トハ金錢ハ勿論其他ノ有體物及ヒ有價證券等ヲ第三者  
ニ對シ請求シ得ヘキ債務者ノ權利ヲ云フ他ノ財産權ニ對スル強制執行トハ第六百二十五  
條ノ規定ヲ云フナリ

債務者カ第三者ニ對シ金錢ノ支拂ヲ受クルノ權利ヲ有シ又ハ他ノ有體物(即チ動産不動  
産)若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ受クルノ權利ヲ有セシニ權利ハ即チ財産ナルヲ  
以テ他ノ有體物ト同シシ強制執行ノ目的物トナラサル可ラス然レトモ權利上ニ關スル行  
爲ハ適當ノ手續ヲ經由セサル可ラサルヲ以テ此場合ニ於ケル強制執行ハ執達吏ノ專行ニ  
任スルコトナク(第六百三條及ヒ第六百十五條ハ例外ナリ)執行裁判所ノ發シタル差押命  
令ヲ以テ之ヲ爲スコト、セリ

本條ニ所謂第三者トハ債務者ニ對スル復債務者ヲ云フモノナリ第一ノ債務者ト混同ス可  
ラス

第五百九十五條 本條ハ一讀明瞭ニシテ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 第七百二十九條 要求及其他ノ財産權ニ關スル權制執行ニ付テノ裁判上處分  
ハ執行裁判所之ヲナスモノトス其執行裁判所タルノ權限ヲ有スルモノハ負債者獨逸國內  
ニ其普通裁判管轄ヲ有スル區裁判所ナリトシ其裁判所ナキトキハ第二十四條ニ從ヒ負債  
者ニ對シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル區裁判所ナリトス

○動産ニ對スル強制執行

七百二十三

第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押ヲ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示スヘシ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條 差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

〔解義〕 第五百九十六條ハ債權ノ差押ヲ申請スル手續ヲ示定シ第五百九十七條ハ差押命令ヲ發スルニ付テノ權能ヲ示定セルモノニシテ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第七百三十五條 質取ヲナスノ前債權者ハ其質取申立ニ付キ尋問セラレサルモノトス

第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ  
差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

〔解義〕 本條ハ金錢ノ支拂ニ係ル第三債務者ニ對スル債權者ノ債權ニ對シ差押命令ヲ發スル方法ヲ示定セリ

本條第一項ハ金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ第三債務者ニ對シテハ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シテハ債權ノ處分殊ニ取立ヲ爲スコラサルコトヲ命令ス可キコトヲ規定シ第二項ハ差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及債務者ニ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可キコトヲ規定シ第三項ハ差押ハ第三債務者ニ命令ヲ送達シタルコトヲ以テ開始スルコトヲ規定セリ

第三債務者カ命令ノ送達後債務者ニ支拂ヲ爲シタルトキハ債權者ニ對シ毫モ辨濟ノ効力アラサルヲ以テ二重ニ債權者ニ支拂ヲ爲サル可ラサルノ結果ヲ生スヘシ

〔參照〕 獨 第七百三十條 金錢要求ヲ質取スヘキトキ裁判所ハ他ノ負債者ニ對シ負債者ニ支拂ノコトヲ禁スヘキモノトス同時ニ裁判所ハ負債者ニ對シ要求ニ付テノ各處分特ニ其取立ヲナスヘカラサルノ命令ヲ發スヘシ

債主ハ決議書ヲ他ノ負債者ニ送達セシムヘキモノトス裁判所使吏ハ公告紙ヲ以テ送達スルコトヲ要セサルトキニ限リ其決議書ハ送達證書ノ謄本トシテ負債者ニ即時送達スヘシ他ノ負債者ニナス送達ヲ裁判所書記ノ直接ノ依頼ニ依リ郵便所ニ於テナシタルトキ裁判所書記ハ負債者ニナス送達ニ付テモ亦同一方法ヲ以テナスヘシ外國ニ於テ負債者ニナスヘキ送達ハ郵便所ニ託シテナク送達ヲ以テ之ニ換フ

質取ハ他ノ負債者ニナス決議書ノ送達ト共ニ之ヲナシタルモノト看做スヘキモノトス

第五百九十九條 抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ

承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ

併合スルコトヲ得

裁判所ハ義務ヲ負フタル不動産ノ所有者(第二債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲スコシ

〔解義〕〔理由〕 本條ハ金錢ノ債權ニシテ抵當アル債權ハ差押ニ關スル規定ナリ

抵當アル債權ノ差押ヲ爲サントスルトキハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ

差押ヲ登記簿ニ記入セシコトノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ物上擔保ノ利益ハ元來第一

債務者ノ爲メニ設ケラレタルモノナレハ此債務者ノ權利者ニ其利益ヲ享クルコトヲ得セ

シムルハ當然ニシテ又之カ爲メコ何人ヲモ害スルコトアラサレハナリ

此記入ノ申請ハ執行裁判所ニ之ヲ爲シ而シテ其申請ハ前條ニ於ケル差押命令ノ申請ト合

一シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ申請ノ目的同一ニシテ別箇ノ事由ヲ備フルモノコアラ

サルヲ以テ特別ニ申請ヲ爲サシムルノ必要アラサレハナリ

裁判所ハ第三債務者ニ差押命令ヲ送達シタル後始メテ記入ノ照會ヲ爲スヘキモノトス是

レ第三者ノ債務或ハ消滅ニ歸シ登記ノ取消ヲ以テ足レルカ如キ狀況ニ存スルヤモ知ル可  
ラサルヲ以テ之カ送達ヲ爲シ果シテ此抵當權ノ現存スルヤ否ヤヲ調査シ初メテ記入ヲ爲  
サシムルノ趣旨ニ出ツルモノトス

〔參照〕 第七百三十一條 要求ノ質取ヲ書入質帳ニ記入スルノ程度及其記入ヲナスヘ  
キ方法ハ各邦法律ヲ以テ之ヲ定ルモノトス

第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位

ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押

債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラシコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テ

ハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債

務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ金額ニ及フモノトス但執行裁

判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ

要求額ヲテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ

得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス  
右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

〔解義〕〔的例〕第六百條ハ前條マテノ手續ニ依リ差押エタル債權ヲ處分スル方法ヲ示定  
シ第六百一條及ヒ第六百二條ハ前條ノ規定ヨリ生スル自然ノ結果ヲ示定セリ

第六百條 前條マテノ手續ニ依リテ差押ヘタル金銭ノ債權ニ付テハ差押債權者ハ己ノ選  
擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ即チ民法財産篇第四百七十九條以下ノ規定ニ依ラスシ  
テ債務者ニ代リ第三債務者ヨリ取立ヲ爲スコトノ命令アラソトヲ申請スルコトヲ得ヘ  
ク又ハ債務者ノ支拂ニ換エ債務者ヨリ第三債務者ニ對スル券面額ニテ差押債權者ニ轉付  
スル爲メ命令アラソトヲ申請スルコトヲ得ヘシ

右二箇ノ方法ハ債權者ノ隨意選擇ニ任スト雖トモ差押債權者ノ數名アル場合ニ於テハ第  
二ノ方法ハ實際行ヒ難カル可シ又此二箇ノ方法ハ各々其効果ヲ異ニセリ第一ノ方法ニ於  
テハ差押債權者ハ債務ノ取立ヲ爲シ得ヘキヲ以テ之レヨリ取立テタル額ハ債權者ノ權利  
ヲ補償ス可キナリ然トモ若シ之ヲ取立ツル能ハサルカ或ハ全部ノ取立ヲ爲ス能ハサルト  
キハ債務者ノ債務ハ依然殘存ス可キナリ反之第二ノ方法ニ於テハ差押債權者ヲ以テ支拂ニ  
換エ券面額ニテ引受クルモノニシテ即チ債權ノ讓渡ニ外ナラサルヲ以テ其券面額ハ取リ  
モ直サズ債權者ノ權利ヲ填補ス可キナリ故ニ券面額ノ債權ニシテ之ヲ取立ツル能ハサル  
モ悉ク債權者ノ損失ニ歸スヘキナリ

右命令ノ送達ハ第五百九十八條ニ從ヒ第三債務者及ヒ債務者ニ送達シ尙ホ送達ノアリタ  
ルコトヲ債權者ニ通知ス可キナリ

第六百一條 前條ニ於ケル第二ノ方法ニ因ルトキ即チ券面額ニテ債權ヲ轉付スルノ命令  
アルトキハ前ニモ述フル如ク券面額ノ債權ハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ  
債務者ヨリ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス可キナリ  
債權ノ存スル限リトアルハ例ニハ債務者ヨリ第三債務者ニ對スル金百圓ノ債權ヲ轉付ノ  
命令アリタルトキハ其百圓ヲ指稱スルナリ

第六百二條 第六百條ニ於ケル第一ノ方法即チ取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フ  
ヲ以テ原則トナス其債權ノ全額トハ第一債務者カ第三債務者ニ對シテ有スル所ノ債權  
額ヲ云フナリ然レトモ執行裁判所ハ債務者ノ申立アルトキハ一應差押債權者ヲ審訊シタ  
ル上差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スナリ許ス  
コトヲ得例ニハ第一債務者カ第一債務者ニ係リ要求スル金額ハ五百圓ナルニ此債務者カ  
第三債務者ニ向テ有スル權利ハ千圓ニ上ルカ如キコト之ノアラソ此場合ニ於テ債權者ヲ  
シテ全部ノ取立ヲ爲サシム可キ必要ナシ又之ヲ爲サシムルチ好マサルコトナシト云フ可  
ラス故ニ債務者ノ希望ニ依リテハ之カ制限ヲ爲スヲ得セシムコト、定メタリ而シテ此方  
法ヲ以テ取立ヲ制限シ債務者ニ於テ其超過額ヲ取立ツルコト、ナリタルトキハ其部分ニ  
付テハ債務者ヨリ債權者ニ支拂ヲ終リタルト同一ノ効果ヲ生スルヲ以テ此部分ニ對シテ

○動産ニ對スル強制執行

ハ他ノ債權者ノ配當要求ヲ許サ、ルモノトス  
右制限ヲ命スルコトハ第六百條ノ規定ニ於ケル命令中ニ又ハ別ニ之ヲ命スルモ差支ナカ  
ル可シ而シテ別ニ此命令ヲ爲シタルトキハ之ヲ第三債務者及ヒ債務者ニ通知セサル可ラ  
ス

〔參照〕 獨 第七百三十六條 質取シタル金錢要求ハ債主ノ撰定ニ從ヒ現金取立ノ爲メ又  
ハ支拂ニ代ヘ券面額ニテ之ヲ移付スヘキモノトス此終リノ場合ニ於テ要求ハ債主ニ移轉  
シ債主ハ其要求ノ存スル部分ニ限り負債者ニ對スル要求ニ付キ辨償ヲ受ケタルモノト看  
做サルヘキノ効力アルモノトス

第七百三十條第二項ノ規定ハ亦之ヲ適用ス

獨 第七百三十七條 其移付ハ民法ノ規定ニ從ヒ要求ヲ取立ル權利ノ定マル負債者ノ法  
式上陳述ニ代ハルモノトス

第六百三條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因ル債權  
ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

〔解義〕 本條ハ手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因ル債權ニ係ル強制執行  
ノ方法ヲ示定セリ

爲替手形約束手形又ハ小切手ノ如キ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘキ證券ハ一ノ債權タルニ相違  
アラサルモ第五百八十二條以下ノ有價證券ト殆ソト同一ナルヲ以テ之カ差押方法ニ付テ

モ別ニ裁判所ノ命令ヲ待ツヲ要セス執達吏ノ占有ヲ以テ行ハル可キモノト定メタリ

〔參照〕 獨 第七百三十二條 爲替手形其他裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得ル證券ヨリ生スル  
要求ノ質取ハ裁判所使吏其證券ヲ現有シテ之ヲナスモノトス

第六百四條 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限ト  
シ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入  
ニモ亦及フモノトス

〔解義〕 第六百四條ハ官吏公吏神職僧侶及教師等ノ如キ者ノ俸給ヲ差押フルカ又ハ養料金  
及恩給金ノ如キ繼續收入ノ債權ヲ差押フルトキハ其債權額ニ充ツルマテ何年ニテモ其効  
力ノ及フ可キコトヲ示定シ第六百五條ハ職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸  
ニ因ル收入ニモ其効力ヲ及ホスコトヲ示定セシマテニシテ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第七百三十三條 俸給ノ要求又ハ之ニ類スル經常收入ノ要求ノ質取ニ依テ得  
ル質主權ハ質取後支拂期限ノ來ル金額ニモ亦及フモノトス

獨 第七百三十四條 職務上收入ノ質取ハ負債者轉職又ハ住職又ハ増給ニ依リ受取ルヘ  
キ收入額ニモ亦及フモノトス  
此規定ハ授職者ノ變更スル場合ニハ之ヲ適用セサルモノトス

○動産ニ對スル強制執行

第六百六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

〔解義〕〔理由〕本條ハ債權差押命令ノ結果トシテ債務者ノ義務及ヒ債權者ノ權利ヲ示定セリ

債權差押ノ命令ヲ受ケタルトキ債務者ニ於テ債權證書ヲ所持スルトキハ之ヲ差押債權者ニ引渡サ、ル可ラサルノ義務アリ何トナレハ債務者ニ於テハ其債權ヲ差押ヘラレタルトキハ最早證書ヲ所持スルノ必要ナシト雖トモ之ニ反シテ差押債權者ニ在テハ債權ヲ證スル爲メ之ヲ所持スルコト最モ必要ナレハナリ故ニ若シ債務者ニ於テ證書ヲ引渡サ、ルトキハ差押債權者ハ別ニ執行命令ヲ受ケストモ差押命令ニ基キ執達更ヲシテ之ヲ取上ケシムルノ權利アリ

〔參照〕 獨 第七百三十七條 負債者ハ要求ニ付テ存スル證書ヲ債主ニ呈出スルノ義務アルモノトス其呈出ハ債主權利執行ヲ以テ之ヲナサシムルコトヲ得

第六百七條 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カシメテ執行ヲ免カシムルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金銀ノ債權ニ付テハ轉付ノ命令ヲ爲サシメテ取立ノ命令ノ爲スコトヲ許シ尙ホ取立ノ命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムルノ効力ノミ生スルコトヲ示定セシマテニシテ別ニ解釋ヲ要セス

債務額ヲ供託セシムル効力ノミヲ有ス

〔解義〕 本條ハ第五百五條第二項ニ依リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カシムルコトヲ許ストキハ差押ヘタル金銀ノ債權ニ付テハ轉付ノ命令ヲ爲サシメテ取立ノ命令ノ爲スコトヲ許シ尙ホ取立ノ命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムルノ効力ノミ生スルコトヲ示定セシマテニシテ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第七百三十八條 第六百五十二條第二項ニ從ヒ保證又ハ藏寄ヲ得テ強制執行ヲ免レシムルコトヲ負債者ニ許シタルトキ其質取シタル金銀要求ノ移付ハ現金取立ノ爲メニシテ負債者其負債額ヲ藏寄スルノ効力ヲ以テノミ之ヲナスコトヲ得

第六百八條 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ

〔解義〕〔理由〕 本條ハ債權者第六百條上段ノ規定ニ基キ取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可キコトヲ示定セリ

本條ヲ設クルノ理由ハ取立以前ニ配當ヲ要求スル者アルトキハ配當ノ手續ヲ盡ササルヲ得ヌ其他債權者ノ債權額ニ滿サタルヤ否ヲ取調ヘ適當ノ所置ヲ爲ササル可ラサレハナリ

第六百九條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメントシテ裁判所ニ申立ツルコ

トヲ得

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生ズル損害ニ付キ其責ニ任ス

〔解説〕〔内例〕本條ハ債權者カ債權者ノ差押ヲ爲シタルトキ第三債務者ヲシテ或ル陳述ヲ爲サシムルヲ得ヘキコトヲ示定セリ

金錢ノ債權ノ差押命令ハ第三債務者及ヒ債務者ヲ審訊スルコトナク(第五百九十七條)之ヲ發スルモノナルカ故ニ果シテ第三債務者ニ於テ其債權ヲ認諾スルヤ否又ハ支拂ヲ爲スノ意思アリヤ否又ハ他ノ者ヨリ其債權ニ付キ請求アリタルヤ否又ハ他ノ者ヨリ其債權ヲ差押ヘラレタルヤ否分明ナラサルヲ以テ本條ハ特ニ債權者ノ爲メ爾後ノ手續ヲ簡易ナラシメシメ第五百九十八條第二項ノ規定ニ於ケル送達ヨリ七日ノ期間内ニ第三債務者ヲシテ右等ノ事項ニ付キ陳述ヲ爲サシメシメコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得ルモノ

トセリ即チ債權者ハ債權ヲ差押ヘタル後一應本條ニ掲グル事項ニ對シ第三債務者ヲシテ陳述セシメ第三債務者ニ於テ七日ノ期間内ニ答辨ヲ爲ササルトキハ進テ第六百條ノ手續ヲナスナルヘシ若シ第三債務者ニ於テ債權ヲ認メヌ或ハ他ノ優先權アル債權者ヨリ請求アリタルコトヲ陳述スルトキハ或ハ第六百條ノ手續ニ及ハサル可シ之ヲ要スルニ本條ハ差押債權者カ爾後ノ手續ヲ爲スコトヲ決スルニ最モ必要ナル規定ナリトス

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ第五百九十八條第二項ニ於ケル差押命令ノ送達證書ニ記載ス可シ而シテ第三債務者カ七日内ニ答辨ヲ爲ササルトキハ此ニ因リテ生ズル損害ハ第三債務者ノ負擔ニ歸ス可キモノトス例エハ第三債務者カ七日内ニ答辨ヲ爲サ、ルニ因リ債權者ハ第三債務者ニ於テ之ヲ認容シタルモノト見做シ爾後ノ手續ヲ斷行シタルニ至リ之ヲ認メヌト云フ如キ或ハ他ノ債權者ノ爲メニ差押ヘラレタルコトアリト云フカ如キコトアルトキハ之カ爲メニ債權者ノ蒙ル可キ損害ハ第三債務者ニ於テ之ヲ負擔ス可キモノトス即チ第三債務者コシテ七日内ニ明白ナル陳述ヲ爲セントキハ債權者ハ他ノ方法ヲ以テ義務ヲ償ハシムルコトヲ得タリシニ第三債務者ノ陳述ナカリシ爲メ此方法ヲ盡スコトヲ得サリシトセハ即チ第三債務者ノ爲メニ此損害ヲ生セシモノナルヲ以テ第三債務者ヲシテ之カ賠償ニ任セシムルハ蓋シ當然ノコトト云フヘシ

〔參照〕 獨 第七百三十九條 債主ノ求メニ依リ他ノ負債者ハ質取決議書ノ送達ヨリ起算シ二週内ニ債主ニ於テ左ノ陳述ヲナスヘキモノトス

第一 他ノ負債者其要求ヲ理由アリトスルノ承認及其支拂ヲサントスル意ノ有無及程度

第二 其要求ニ付キ他人ノナシ請求ノ有無及種類

第三 其要求既ニ他ノ債主ノ爲メニ質取セラレタルコトノ有無及其要求ヲ質取セシメタル請求ノ種類

此陳述ヲ爲サシムル爲メ督促ハ之ヲ送達證書ニ記載スヘキモノトス他ノ負債者ハ其義務ヲ盡ササルニ依リ生スル損害ニ付キ債主ニ對シ其責ヲ負擔ス

他ノ負債者ノ陳述ハ質取決議書ヲ送達スルノ際又ハ第一項ニ定メタル期限内ニ裁判所使吏ニ之ヲ爲スコトヲ得最初ノ場合ニ於テハ其陳述ヲ送達證書ニ記載シ他ノ負債者署名スヘキモノトス

第六百十條 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至

リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

〔解義〕 本條ハ債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シテ訴ヲ起サントスル場合ニ於ケル管轄裁判所ヲ示定セリ

債權者カ第六百條ノ規定ニ於ケル命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シテ辨濟ノ督促ヲ爲シタルニ彼レ甘シシテ義務ヲ履行セサルトキハ該命令ハ執行力ヲ有スルモノニ非ラサル

カ故ニ訴ヲ以テ之ヲ請求セサル可ラス此場合ニ於ケル訴モ一般普通ノ管轄裁判所ニ起ス可勝モトス

右訴ヲ起シタルトキハ債務者ニ其訴訟ヲ告知シテ之ニ参加スルノ自由ヲ得セシメサル可ラ然レトモ債務者カ外國ニ在ルカ若クハ内國ニ在ルモ其住所ノ分明ナラサルトキハ此告知ヲ爲スニ及ハサルモノトス

〔參照〕 獨 第七百四十條 要求ニ付出訴スル債主ハ負債者ニ裁判上訴訟ヲ通知スルノ義務アルモノトス但外國ニ於テスル送達又ハ公告ヲ以テスル送達ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第六百十一條 債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

〔解義〕 〔理由〕 〔的例〕 本條ハ債權者カ取立ヲ爲ス可キ權利ノ行用ヲ怠リタルトキハ其ノヨリ生スル損害ノ責ニ任セサル可ラサルコトヲ示定セリ

債權者カ第六百條前段ニ從ヒ取立ノ爲メノ命令ヲ受ケタルニ期限ヲ徒過シテ時効ニ罹ラシメタルカ如キ或ハ勝訴ス可キ材料ヲ提出セズシテ敗訴ニ至リタルカ如キ或ハ債務者カ參加セハ勝訴ヲ得ルカサシニ前條ノ告知ヲ怠リタルカ爲メ敗訴ヲ受ケタルカ如ク其權利ノ行用ヲ怠リタルトキハ之カ爲メニ債務者ニ生シタル損害ヲ賠償セサル可ラス是レ已ノ過失ヲ以テ他人ニ損害ヲ加フルトキハ之カ賠償ノ責アリトノ原則ニ基ケルモノニシテ固



當然ノ規定ナリ

此ニ注意スベキハ第六百條後段ノ支拂ニ換ヘ券面額ニテ轉付ノ命令アリタル場合ニ於テハ本條ノ規定ヲ適用セサルコト是レキリ何トナレハ券面額ニテ轉付ノ命令アリタルトキハ其命令ノ送達ト同時ニ債務者ヨリ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルモノト見做ス可キヲ以テ之ヲ取立タルモ又ハ之ヲ拋棄スルモ固ヨリ債權者ノ隨意ニシテ毫モ債務者ニ關係アラザレバナリ

〔參照〕 獨 第七百四十一條 現金ヲ取立ツル爲メ移付セラレタル要求ノ取立ヲ遲延スル債權者ハ債權者ニ對シ其遲延ニ依テ生スル損害ニ付其責ヲ負擔スルモノトス

第六百十二條 債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ  
此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

〔解説〕 本條ハ債權者ニ於テ取立命令ヲ得タル後隨意ニ其權利ヲ拋棄シ得ヘキコトヲ示定メ、債權者ハ第六百條ニ因リ取立ノ爲メノ命令ヲ得タルモ第三債務者其義務ヲ履行セス左リトシ之ヲ誹ナルモ得失相償ハサルカ如キ恐レアル場合ニ於テハ隨意ニ之ヲ拋棄スルコト

ヲ得ヘシ又之カ爲メニ自己ノ請求權ヲ害セラルルコト之レアラザルナリ

本條ノ規定ハ前條ト同シシ轉付ノ命令ヲ得タル場合ニ適用セス轉付ノ命令ハ即チ債權ノ讓渡ニ外ナラス故ニ一旦轉付ノ命令ヲ得タルトキハ債務者ノ關係ヲ離ルルヲ以テ之カ拋棄ヲ爲サントセハ其權利ノ本体ヲ拋棄セサル可ラサレバナリ  
又拋棄ヲ爲サンニハ拋棄スル旨ヲ明記シテ裁判所ニ届出テサル可ラス而シテ裁判所ハ届書ノ謄本ヲ第三債務者及ヒ債權者ニ送達スルモノトス何トナレハ債務者ハ此拋棄ニ付テハ已テ取立ヲ爲スナル可ク又第三債務者ハ支拂停止ヲ解カレタルヲ以テ債務者ニ支拂ヲ爲スノ用意ヲ爲ス可クレハナリ

〔參照〕 獨 第七百四十二條 債主ハ其請求ヲ毀損スルコトナクシテ質取ニ依リ及現金取立ノ爲メコソル移付ニ依リ得タル權利ヲ拋棄スルコト得其拋棄ハ負債者ニ送達スヘキ陳述書ヲ以テ之ヲナスモノトス其陳述書ハ他ノ負債者ニモ亦之ヲ送達スヘシ

第六百十二條 差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繋リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得  
債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

〔解義〕「理由」本條ハ、差押ヘタル債權カ條件付ナルカ若シハ他ノ事情ニ因リテ取立ニ困難ナル場合ニ於ケル便宜法ヲ示定セリ

差押ヘタル債權カ未必條件付ニシテ未タ條件ノ到着セサルモノナルカ若クハ有期限ニシテ未タ期限ニ至ラサルカ又ハ或ル物ヲ給付セサレハ之ヲ取立ツル能ハサルカ若クハ第三債務者カ破産ノ場合等ニテ其取立ニ困難ナルトキハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得ヘシ他ノ換價方法トハ執達吏ヲシテ競賣或ハ適宜ニ賣却セシムルノ類ヲ謂フナリ

此換價方法ヲ命スルニハ豫メ債務者ヲ審訊スルコトヲ要ス何トナレハ取立ニ換ヘ換價方法ヲ命スルコトハ債務者ニ影響ヲ及ホスコト擲少ナラサレハナリ然レトモ債務者カ外國ニ在ルカ若シハ内國ニ在テ住所ノ知レサルトキハ審訊スルコトヲ要セサルナリ

〔參照〕 獨 第七百四十三條 質取シタル要求設若又ハ有期ノモノナルトキ又ハ報償ヲナスニアラサレハ其要求ヲ取立ルコトヲ得サルカ爲メ又ハ其他ノ理由ニ依リ取立難キトキ裁判所ハ申立ニ依リ移付ニ代ヘ他種ノ賣却ヲ命スルコトヲ得  
其申立ヲ採用スル決議前對手ハ尋問セラルヘキモノトス但外國ニ於テスル送達又ハ公告ヲ以テスル送達ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第六百十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ

之ヲ爲ス

〔解義〕 本條ハ有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ第六百十五條乃至第六百十七條ノ規定ヲ斟酌シテ金錢ノ債權差押ヘニ於ケル第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ヲ適用ス可キコトヲ示定セシニ過キス

〔參照〕 獨 第七百四十五條 物件ノ呈出又ハ供給ニ付テノ請求ニ關スル強制執行ハ以下數條ヲ斟酌シテ第七百三十條ヨリ第七百四十四條マテノ規定ニ從ヒ之ヲナスモノトス

第六百十五條 有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

〔解義〕 本條ハ有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ金錢ノ債權ヲ差押フルト差異アルコトノ一事項ヲ示定セリ

債權者債務者ヨリ第三債務者ニ對スル有體動産ノ引渡又ハ給付ヲ請求スルノ權利ヲ差押フルコトノ申請ヲ爲シ裁判所ニ於テ差押命令ヲ發スルトキハ其命令書中ニ其有體動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命スルモノトス而シテ執達吏其引渡ヲ受ケタルトキハ第五百七十二條以下ノ規定ニ從ヒ競賣或ハ適宜ニ賣却スルノ手續ヲ爲ス可キモノトス

〔参照〕 獨 第七百四十六條 動物件ニ關スル請求ノ質取ニアリテハ其物件ヲ債主ノ委任スヘキ裁判所使吏ニ呈出スヘキコトヲ命スヘキモノトス  
其物件ノ賣却ニ付テハ質取シタル物件ノ賣却ニ付テノ規定ヲ適用スルモノトス

第六百十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動産ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

〔解義〕 本條ハ不動産ニ關スル請求ノ差押ニ付キ特別ニ適用ス可キ規定ナリ

債權者カ第三債務者ヨリ債務者ニ引渡若クハ給付ス可キ不動産ノ差押ヲ申請スルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命スルモノトス而シテ此保管人ハ實際債權者ヨリ指名シ之ニ因テ區裁判所ハ保管人トナルコトヲ命スルナルヘシ又債權差押ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄スルヲ以テ時アリテハ其不動産ノ他ノ區裁判管轄地内ニ在テ執行裁判所ト保管人ヲ命スル裁判所ノ互ニ異ナルコトアラシ此場合ニ於テハ債權者ハ豫メ不動産所在地ノ區裁判所ニ申請シテ相當ノ保管人ヲ定メ然ル後テ債權ノ執行裁判所

〔註〕 此差押ヲ申請ス可キ手續ナラシ第三債務者ヨリ不動産ヲ引渡シタルトキハ不動産ニ對スル強制執行ニ付キテノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可キモノトス

前條及ヒ本條ノ場合ニ於テ第三債務者其引渡ヲ拒ムトキハ債權者ハ訴ヲ以テ之カ請求ヲ爲ササル可ラス故ニ債權者ハ第六百九條ノ催告ヲ爲シ然ル後差押命令ヲ申請スルニ若カサルナリ

〔参照〕 獨 第七百四十七條 不動産ニ關スル請求ノ質取ニアリテハ其物件ヲ債主ノ申立ニ依リ其物件所在地ノ區裁判所ヨリ任スヘキ保管人ニ呈出ス可キコトヲ命ス可キモノトス

呈出シタル物件ニ關スル強制執行ハ不動産ニ關スル強制執行ニ付テノ現行規定ニ從ヒ之ヲナスモノトス

第六百十七條 有体物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲ス可トヲ得ス

〔解義〕 〔理由〕 本條ハ有体物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲ス可トナルコトヲ示定セリ

〔註〕 本條ヲ設クルノ理由ハ轉付ノ命令ヲ許ストキハ債務者ヨリ金錢ノ支拂ヲ受クルヲ目的トシテ強制執行ノ旨趣ニ背反スルノミナラス價格上ニ付債權者債務者ノ間異論ヲ生シ易キヲ以テ受リ給付ノ命令ヲ許スルコトヲ示定セリ

〔參照〕 獨 第七百四十八條 支拂ニ代ヘテナス第七百四十五條ニ記載シタル請求ノ移付

ハ之ヲ許ササルモノトス  
第六百十八條 左ニ掲グル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 法律上ノ養料

第二 債務者カ義捐建設所ニリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受タル繼續ノ  
収入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三 下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人、軍  
屬ノ職務上ノ收入

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收  
入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ  
一ヶ年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ  
得

〔解義〕 (理由) 本條ハ債務者カ有スル債權中差押フ可カラサルモノヲ示定セリ

本條ハ或ハ公益上ヨリ或ハ安寧上ヨリ之カ制限ヲ設ケタルモノニシテ第一號乃至第六號  
ノ事項タル一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セス

〔參照〕 獨 第七百四十九條 左ニ掲グルモノハ之ヲ質取セサルモノトス

第一 千八百六十九年六月廿一日ノ獨逸法律(千八百六十九年ノ獨逸法律誌第二百四十  
二葉及千八百七十一年ノ同法律誌第六十三葉)ノ規定ニ從フヘキ勞役賃及傭賃

第二 法律上ノ規定ニ依テ生スル給育料要求

第三 負債者義捐金ヨリ受取リ又ハ其他他人ノ救恤及施與ニ依リ受取ル經常收入但負債  
者自己其婦及未タ生計ノ資料ヲ受ケサル子女ニ缺クヘカラサル生計費ヲ支出スル爲メ其  
收入ヲ要スルトキニ限ル

第四 疾病貯金所、救助貯金所又ハ死亡貯金所特ニ鑛業職工貯金所及鑛業職工組合貯金  
所ヨリ受取ルヘキ收入

第五 下士官及兵卒ノ給料及ヒ老兵恩給

第六 出陣ノ軍隊又ハ戰役ニ服シタル軍艦乗組員ニ屬スル軍人軍屬ノ職務上收入

第七 寡婦及孤兒ノ恩給又寡婦貯金所及孤兒貯金所ヨリ受取ルヘキ收入教育金及學費助  
成金並ニ癡人トナリタル勞役者ノ恩給

第八 將校、軍醫及海軍下士官、官吏、僧侶、公立教育場教師ノ職務上收入、一時又ハ未久

休職トナリタル後此等ノ恩給並ニ此等ノ者ノ死後其遺族ニ與ヘラルヘキ死亡給又ハ特賜金

第七第八ノ場合ニ於テ職務上收入、恩給其他ノ收入一年間ニ千五百マルクノ額ヲ超スルトキハ其超過額ノ三分ノ一ハ質取セラル、モントス

第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

〔解義〕 本條ハ數名ノ債權者ノ爲メ、同時ニ債權ノ差押ヲ爲ス可キトキハ前數條ヲ準用ス可キコトヲ示定セシマテニシテ別ニ解釋ヲ要セス

第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラズシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十九條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送

達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ効力ヲ生ス

〔解義〕 本條ハ執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者カ配當加入ヲ要求シ得ヘキ時期及ヒ其方法ヲ示定セリ

本條第一項ニ於テハ執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ第六百八條ニ從ヒ取立ヲ爲シタルコトヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ第六百十五條第二項ノ手續ヲ爲シ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求シ得ヘク又民法ニ從ヒ配當ヲ要求スル債權者ハ第五百九十條ニ從ヒ其原因ヲ開示シ且裁判所所在地ニ假住所ヲ選定ス可シ又第五百九十一條第一項及ヒ第二項ノ手續ヲモ之ニ適用ス可キコトヲ規定シ第二項ハ第六百條後段ノ轉付ノ命令アリタルトキハ恰モ辨濟ヲ爲シタルト同一ナルヲ以テ轉付ノ後ハ配當ノ要求ヲ爲ス可ラサルコトヲ規定シ第三項ハ配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消トナリタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メニ差押ノ効力ヲ生スルコトヲ規定セリ

第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ス可シ

〔解義〕〔理由〕一本條ハ第三債務者ノ權利及ヒ義務アル場合ヲ示定セリ

差押債權者ノ爲メニ金錢ノ債權差押ノ命令アリタル後或債權者カ配當要求ヲ爲シ前條ノ規定ニ依リ送達アリタルトキハ第三債務者ハ債務額ヲ供託スルノ權利アリ第三債務者ハ一人ノミナラス他ノ債權者マテ配當加入ヲ爲タルトキハ辨濟ヲ爲スニモ之ニ惑フコトアリテ煩雜ヲ免レサルコトアルヲ以テ寧ロ債權額ヲ供託所ニ供託シテ後日ノ關係ヲ絶ツニ若カサルナリ

又債權者モ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムルヲ便益トナス何トナレハ若シ第三債務者カ其差押ヲ受ケタルニ拘ラス之ヲ債務者ニ拂出シタルトキハ第三債務者ニ對シ訴ヲ起ササル可ラサルノ煩ヒアリ又第三債務者カ中途ヨリ無資力トナルノ憂ヒナシトス可ラサレハナリ故ニ第三債務者モ配當ニ與カル或ル債權者ノ求メアルトキハ其債務額ヲ供託セサル可ラサルノ義務アリトセリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出テサル可ラズ

〔參照〕獨 第七百五十條 金錢要求ヲ數名ノ債主ノ爲メニ質取シタルトキ他ノ負債者ハ最初ニ送達ヲ受ケタル決議ヲナセシ區裁判所ニ事狀ヲ届出テ及送達ヲ受ケタル決議書ヲ

交付シテ負債額ヲ藏寄スルノ權利ヲ有シ及要求ヲ移付セラレタル債主ノ求メニ依テハ其藏寄ヲナスノ義務ヲ有スルモノトス

第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所

在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添へ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押へ債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

〔解義〕本條ハ前條ト同一精神ニシテハ金錢ノ債權ニ關スルトハ請求カ不動産ニ關スルトハ差アルノミ然レトモ本條ハ請求カ不動産ニ關スル場合ナルヲ以テ其小手續ニ至テハ又自ラ異ナル所アリ即チ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ如何ナル理由ニ因テ差押ニ至リタルコト又此差押ニ因テ如何ナル効果ヲ生スルト云フカ如キ凡テ差押ニ關スル事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添へテ其不動産ヲ引渡スノ權利アリ又差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡スノ義務アリトス

〔參照〕獨 第七百五十二條 請求不動産物件ニ關スルトキ他ノ負債者ハ其物件所在地ノ區裁判所ヨリ任セラレタル保管人又ハ他ノ負債者ノ申立ニ依リ任セラレヘキ保管人ニ事狀ヲ届出及送達ヲ受ケタル決議書ヲ交付シテ其物件ヲ呈出スルノ權利ヲ有シ及請求ヲ移付

○動産ニ對スル強制執行

七百五十

セラレシ債主ノ求メニ依テハ呈出ヲナスノ義務ヲ有スルモノトス

第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴テ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ

訴テ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アラシムコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出テ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ボス效力アリ

〔解義〕〔理由〕本條ハ第三債務者ニ於テ之カ履行ヲ爲ササルトキ差押債權者カ之レヲ請求スルノ權能及ヒ之レヨリ生ズ可キ法律上ノ効果ヲ示定セリ

第三債務者カ債權者ノ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ金錢ノ債權ニ係ルト有テ物ノ債權ニ係ルトハ差押債權者ハ訴テ以テ之ヲ履行セシムルノ權利アリ而シテ

此場合ニ於ケル管轄裁判所ハ第六百十條ノ規定ニ從テ可キモノトス  
本條第二項及第三項ハ訴訟ヲ合併シテ同時ニ權利義務ヲ確定セシムルノ利益ヲ計リタルモノナリ即チ差押債權者ノ請求ニシテ好結果ヲ得ルト否トハ特リ差押債權者ノ利害ニ關

スルノモノナラシ執行力アル正本ヲ以テ債權者主張スル凡テノ債權者ニモ亦直ニ之カ利害ヲ及ボス可キヲ以テ本條第二項ニ於テハ執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリト規定セリ又執行力アル正本ヲ有スル各債權者各自ニ訴テ起スノ權利ヲ有スルヲ以テ第三債務者ハ假令差押債權者トノ訴訟ニ於テ勝利ヲ得タルモ後チ又他ノ債權者ヨリ訴テ受ケルコトアルニ至リ管ニ煩雜ニ耐エサルノミナラス徒ニ時日ト費用ヲ生スルカ故ニ原告ニ加ハラサル債權者アルトキハ之ヲ訴訟ニ參加セシメ同時ニ權利義務ヲ確定セシムルニ利益アリ是レ本條第三項ノ因テ起リタル所以ナリ第四項ハ前二項ノ結果ヲ示定シタルニ過キス

〔參照〕 獨 第七百五十三條 請求ヲ移付セラレシ各債主ハ他ノ負債者ニ對シ第七百五十條ヨリ第七百五十二條マテノ規定ニ從ヒ其負債者ノ負擔セル義務ヲ盡シシムルノ訴訟ヲ提起スルノ權アルモノトス  
請求ヲ買取セシメタル各債主ハ訴訟中何時タリトモ訴訟仲間トナリテ原告ニ附隨スルコトヲ得

他ノ負債者ハ訴訟ヲ提起セズ及原告ニ附隨セザリシ債主ヲ口頭上審問ノ爲メニスル裁判期日ニ喚出スルキモノトス  
訴訟ヲ以テ申立テタル請求ニ付テノ訴訟中ニ言渡ス判決ハ債主總員ノ利トナリ及不利トナルノ効アルモノトス

○動産ニ對スル強制執行

七百五十一

○動産ニ對スル強制執行

七百五十二

日頭上審問ヲ爲メニスル裁判期日ニ他ノ負債者ヨリ喚出ヲ受クヘカリシモ之ヲ受ケザリ  
シ債主ニ對シテハ他ノ負債者自己ノ利トナル裁判ヲ引用スルコトヲ得ス

第六百二十四條

差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本

ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スコキコトヲ催  
告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲  
スコトヲ得

〔解義〕本條ハ差押債權者ニ於テ取立ヲ怠リタル時執行力アル正本ニ依リ配當ヲ要求スル  
各債權者カ之ニ對スル權利及ヒ其方法ヲ示定セリ

差押債權者カ第六百條前段ノ規定ニ依リ命令ヲ受ケテ取立ニ着手セヌ又訴ヲモ起サヌシ  
テ其取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求スル各債權者ハ一週内トカ  
或ハ一個月内トカ一定ノ期間ヲ定メテ其期間内ニ取立ヲ爲スヘキコトヲ催告シ此催  
告ヲ爲スモ尙ホ其効アラサルトキハ執行裁判所ニ申請シ其許可ヲ得テ差押債權者ニ代リ  
自ラ取立手續ヲ爲スコトヲ得ヘシ

右催告ハ執達吏規則第二條第一號ノ規定ニ依リ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシムルモノトス

第六百二十五條

不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權

ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ  
送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス  
右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ  
命スルコトヲ得

〔解義〕〔理由〕〔的例〕本條ハ不動産ヲ目的トセス又前條マテニ掲ケサル財産權ニ對ス  
ル強制執行ハ如何シテ之ヲ爲スコキヤヲ示定セリ

本條第一項ハ不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ  
付テハ本款ノ規定ヲ準用スコキコトヲ規定セリ

本項ヲ設ケルハ權利ノ種類數多アリテ到底之ヲ法律上ニ數ヘ盡スヲ得サルヲ以テ此ニ之  
ヲ網羅スルノ旨趣ニ出ツ不動産ヲ目的トセストシタルハ不動産ニ對スル強制執行ハ別ニ  
第二章ニ規定スル所アレハナリ又前數條ニ掲ケサル財産權トハ一分ノ相續權又ハ營業權  
又ハ收益權ノ類ヲ謂フナリ

第二項ハ第一項ノ規定ヨリ出ツルモノニシテ之ヲ書キ別ケタルニ過キヌ財産權ニシテ第  
三債務者ナキトキ例ヘハ專賣特許權又ハ版權ノ如キ權利ニ對スル強制執行ハ單ニ債務者  
ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達スルヲ以テ足レリトス即チ命令送達ノ日時ヲ以テ差押  
ヲ爲シタルモノトス

○動産ニ對スル強制執行

七百五十三



○動産ニ對スル強制執行

七百五十四

然レトモ第三債務者ナキ財産權ニ付テハ特別ノ方法ヲ設ケルニ非ラサレハ差押ノ效力ヲシテ之ヲシカラシムルノ恐レアルヲ以テ本條第三項ニ於テハ裁判所ヲシテ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得ト規定セリ

〔參照〕 獨 第七百五十四條 其他ノ財産權ニシテ不動産ニ關スル權制執行ノ物件ニアラザルモノニ對シテキス權制執行ニモ亦前條ノ規定ヲ適用スルモノトス  
他ノ負債者現在セザルトキ質取ハ財産權ニ付テノ各處分チナスヘカラサルコトノ命令ヲ負債者ニ送達シタル時夫以テ之ヲナシタルモノト看做スヘキモノトス  
裁判所ハ權制執行ニ付テノ賣讓スルコトヲ得ル權利ニ關スル權制執行ニアリテハ特別ノ命令ヲ發スルコトヲ得特ニ使用權ニ關スル權制執行ニアリテハ管理ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於ケル質取ハ決議書ヲ送達シテ豫メチササルトキニ限り使用スヘキ物件ヲ管理人ニ引渡シテ之ヲナスモノトス  
權利ノ賣讓ヲ許シタルトキハ此賣讓モ亦裁判所之ヲ命スルコトヲ得

第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

〔解義〕 〔分析〕 本條ハ配當手續ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ行フ可キモノナルヤヲ不定セ

リ  
配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ於テ執達吏カ賣得代金ヲ受取リタル日又ハ金錢ヲ差押ヘタル日ヨリ十四日間ヲ經過シテ各債權者間ノ協議調ハサルカ爲メ該金額ヲ供託シテ執行裁判所ニ届出タル場合ニ於テ之ヲ行フモノトス即チ第五百九十三條ノ規定ニ依リ各債權者間ノ協議調ハサルカ爲メ金額ヲ供託シタルトキ執行裁判所ハ配當手續ヲ爲スモノトス尙ホ明文アラサルモ第六百二十一條ノ規定ニ從ヒ第三債務者カ債務金額ヲ供託シテ執行裁判所ニ届出タル後各債權者間ノ協議調ハサル場合ニ於テモ亦當然之ヲ行フモノトス

右説述スルカ如ク配當手續ヲ行フニハ左ニ掲クル條件ヲ要ス

- 第一 動産ニ對シ強制執行ヲ爲シタルコト
  - 第二 競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ヲ過キタルコト
  - 第三 各債權者間ノ配當協議調ハサルコト
  - 第四 賣得金若クハ差押金額ヲ供託シタルコト
- 〔參照〕 獨 第七百五十八條 分配手續ハ動産ニ關スル權制執行ニ方リ關係スル債主ノ辨償ニ充ルニ不足スル金額ヲ藏寄スルトキ之ヲチヌモノトス

第六百二十七條 裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ヌ可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

○動産ニ對スル強制執行

七百五十五

第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ屆書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

〔解義〕第六百二十七條ハ配當手續ヲ開始ス可キ方法ヲ示定シ第六百二十八條ハ配當表ヲ作ル可キコトヲ示定セリ

第六百二十七條 第六百二十八條 裁判所ハ第五百九十三條第三項ノ事情屆書若クハ第六百二十一條第三項ノ届出ヲ受ケタルトキハ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キコトヲ各債權者ニ催告スルモノトス

右七日ノ期間滿了シタル後執行裁判所ハ各債權者ノ提出シタル計算書ニ基キ配當表ヲ作ラサル可ラヌ配當表トハ各債權者ノ氏名、債權ノ種類數額等ヲ列記シ債務者ヨリ差押ヘタル差押額ト相照シテ分配ヲ爲スヘキ數量ヲ定メタル表ヲ云フナリ

七日ノ期間内ニ計算書ヲ提出セザルトキハ執行記録ニ見ハル、所ニ依リテ計算ス而シテ計算書ヲ提出セザル債權者ハ後日ニ至リ債權額ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得ス

〔參照〕第七百五十九條 權限ヲ有スル區裁判所(第七百二十八條第七百五十條ヨリ第七百五十二條マテ)ハ事情ニ付テノ届出ヲ受ケタル後關係スル各債主ニ對シ二週内ニ

元金、利子及費用ニ付テノ要求及附帶要求ノ計算書ヲ呈出スヘキノ督促ヲ發スヘキモノトス

同 第七百六十條 此三週ノ期限經過ノ後裁判所ハ分配案ヲ調製スルモノトス

其分配手續ノ費用額ハ分配額ノ中ヨリ第一ニ之ヲ引去ルヘキモノトス  
分配案ヲ調製スルマテ其受ケタル督促ニ應ゼサル債主ノ要求ハ届出及其憑據書類ニ從テ之ヲ計算スルモノトス後日ニ至リ要求ノ補充ヲナスコトヲ得ス

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲ヌコトヲ要セス  
配當表ハ各債權者及債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル

債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ  
配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ

若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

〔解説〕 第六百二十九條ハ配當表ニ關スル陳述ヲ爲サシメ及ヒ配當ヲ實施スル爲メ期日ヲ指定シテ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可キコトヲ示定シ第六百三十條ハ配當ヲ實施スル

コトヲ示定シ第六百三十一條ハ異議ノ申立アル場合ニ於テノ配當方法ヲ示定セリ  
第六百二十九條 前條ノ規定ニ從ヒ配當表ヲ作りタルトキハ執行裁判所ハ其配當表ニ付

キ異議ナキヤ否ヲ陳述セシムル爲メ及ヒ配當ヲ實施スル爲メ期日ヲ指定シテ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ササル可ラス然レトモ債務者ノ所在明カナラサルカ又ハ外國ニ在ルトキハ債務者ニ限り之ヲ呼出スヲ要セサルナリ

豫メ配當表ニ誤アリヤ否ヲ調査シ呼出期日ニ至リテ相當ノ陳述ヲ爲サシメシメ裁判所ハ通クトモ呼出期日ノ三日前ニ配當表ヲ作り裁判所書記課ニ備置キ閱覽ノ自由ヲ得セシ

メサル可ラス

第六百三十條 前條ノ規定ニ從ヒ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出シ配當表ニ付テノ意見ヲ陳述セシメタルニ一異議ナキ旨ノ申立ヲ爲シタルトキハ配當表ハ此ニ確定シタルモノナルヲ以テ配當表ニ定ムル所ニ從ヒ實施ヲ爲ス可キナリ

然レトモ其債權中ニ停止條件附ノ債權アルトキハ其債權ニ相當セル配當額ハ之ヲ供託所ニ供託シ置キ條件ノ到着セシトキハ之ヲ支拂ヒ又到着セサルトキハ供託シタル金額ヲ更正シ指稱ス停止條件ノ何タルコトハ民法ニ於テ研究ス可キコトナリ

又第五百九十一條第三項ノ場合即チ民法上ノ債權者カ債務者ニ係リ訴ヲ起シ未タ確定セサル債權又ハ假差押ヲ求メタル債權其他第六百三十五條以下ノ場合ニ於ケルカ如ク異議アル債權ノ配當額モ亦之ヲ供託シ置キ債權ノ確定シタルトキハ之ヲ支拂ヒ消滅シタルトキハ以前ノ債權者ニ配當ス可キナリ

右配當實施ニ於テハ裁判所書記之カ調書ヲ作ルモノトス

第六百三十一條 配當期日ニ當リテ異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ其意見ヲ陳述ス可シ若シ關係人其異議ヲ正當ト認ムルトキハ又ハ他ノ方法ニ於テ例ニハ互ニ讓合ヲ爲シテ協議ノ調ヲトキハ執行裁判所其異議若クハ協議ノ旨趣ニ從テ配當表ヲ更正シ以テ配當ヲ實施ス可キナリ之ニ反シテ異議竟ニ完結セサルトキハ其異議ナキ部分ニ限り配當

○動産ニ對スル強制執行

七百六十一

ヲ實施シ異議アル部分ハ之ヲ供託シ置キ異議ヲ訴コ付テノ裁判如何ニ依リ或ハ之ヲ支拂  
セ域ハ更ニ配當ス可キナリ然リ而シテ如何ナル場合ト雖トモ配當ヲ實施スルニ付テハ配  
當調書ヲ作ルモノトス

〔參照〕 獨 第七百六十一條 裁判所ハ分配案ニ付キ陳述ヲナサシメ並ニ分配ヲ實行スル  
カ爲メ期日ヲ定ムヘキモノトス其分配案ハ關係者ニ展覽セシムルカ爲メ遅クトモ其期日  
ソ三日前ニ之ヲ裁判所書記局ニ備置シヘシ

其期日ノ爲メニスル負債者ノ喚出ハ外國ニ於テスル送達又ハ公告ヲ以テスル送達ニ依リ  
之ヲナスヘキトキハ之ヲ要セサルモノトス

獨 第七百六十二條 其期日ニ於テ分配案ニ對シ抗辨ヲナサルトキハ其案ヲ實行スル  
モノトス其抗辨ヲナストキハ之ニ關係セル債主即時ニ陳述ヲナスヘシ關係者其抗辨ヲ理  
由アリト承認スルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ協議調フトキハ之ニ從テ分配案ヲ更正スヘシ  
抗辨ノ完結セサルトキハ抗辨ヲ受ケサル部分ニ限り分配案ノ實行ヲナスモノトス

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタル  
モノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係  
ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス  
〔解義〕 本條ハ期日ニ出頭セサル債權者ニ付テノ規定ナリ

債權者カ配當期日ニ出頭セサルトキハ配當表ニ記載セル事項ハ之ヲ正當ト認メタルモノ  
ト看做ス故ニ後日出頭シテ異議ヲ述フルモ其効ナカル可シ

又出頭シタル債權者ノ中異議ヲ申立ツルモノアリテ他ノ債權者ニ於テハ之ヲ正當ト認ム  
ルモ出頭セサル債權者ハ之ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

〔參照〕 獨 第七百六十三條 其期日ニ出廷セス及其期日前裁判所ニ抗辨ヲナササル債主  
ニ對シテハ分配案ノ實行ニ同意シタルモノト看做ス

其期日ニ出廷セサル債主他ノ債主ノナシタル抗辨ニ參加シタルトキハ其抗辨ヲ理由アリ  
ト承認セサルモノト看做ス

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル  
債權者ハ他ノ債權者ニ對シテ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間  
内ニ裁判所ニ證明スヘシ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ  
拘ハチヌ配當ノ實施ヲ命ヌ可シ

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト  
雖トモ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ  
主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケララルコト無シ

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ

管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受クヘキコトヲ合意シタルトキハ此限ニアラス

〔解説〕第六百三十三條ハ異議ヲ申立テタル債權者カ盡ス可キ責任及ヒ其責任テ盡サ、ルトキノ制裁ヲ示定シ第六百三十四條ハ異議ヲ申立テタル債權者カ前條ノ責任ヲ盡サ、ルトキ特別ノ原因ヨリシテ尙ホ出訴ヲ爲シ得ヘキコトヲ示定シ第六百三十五條ハ異議ノ訴ニ付テノ管轄裁判所ヲ示定セリ

第六百三十三條 第六百三十四條 異議ノ申立アルモ他ノ關係人之ヲ正當ト認ムルカ又ハ讓合ヲ爲シテ調和スルトキハ配當ヲ實施スヘク又異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ノ配當ヲ實施シ異議アル部分ハ之ヲ供託スルカ故ニ異議ヲ申立テタル債權者ハ速ニ訴ヲ起シテ之ヲ確定セシメサル可ラス是ニ於テカ本條ハ配當期日ヨリ七日内ニ他ノ債權者ニ對シテ起シタルコトヲ證明セサル可ラス若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラス配當ノ實施ヲ命ス可シト規定セリ然レトモ配當ヲ實施シタル場合ニ於テ其異議カ優先權ヲ主張スルモノナルトキハ縱令其期間ヲ經過シタル後ト雖トモ尙ホ其訴ヲ提

起シテ優先權ヲ確定シタル後配當實施ヲ受ケタル各債權者ニ對シテ其償還ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

此優先權ヲ主張スル訴ハ普通ノ裁判籍ニ之ヲ提起ス可キナツ何トナレハ既ニ配當ヲ完結シ配當裁判所ナル者アラサレハナリ

第六百三十五條 第六百三十三條ノ規定ニ依リ債權者カ訴ヲ起ストキハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄シ若シ異議ノ訴數個アルトキハ他ノ訴ハ其事物ノ管轄ノ如何ニ拘ハラス其一箇ノ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ其餘ノ訴モ併セテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス然レトモ各債權者凡テノ異議ニ付キ配當裁判所ヲ以テ管轄トナス可キ合意ヲ爲スコトヲ得ヘシ

〔參照〕 獨 第七百六十四條 抗辨スル債主ハ豫メ督促ヲ受ルコトナクシテ分配期日ト共ニ始マル一月ノ期限内ニ關係スル債主ニ對シテ訴訟ヲ提起シタルコトヲ裁判所ニ證明スヘキモノトス此期限空シク經過シタル後ハ抗辨アルニ拘ラス分配案ノ實行ヲ命ス  
分配案ニ對シテ抗辨シタル債主ニ於テ其案ニ從ヒ金額ヲ受領シタル債主ニ對シテ訴訟ヲ以テ先行權ヲ申立ルノ權ハ期限ノ懈怠及分配案ノ實行ニ依リ喪失セサルモノトス  
獨 第七百六十五條 其訴訟ハ分配裁判所ニ之ヲ提起シ訴訟事件區裁判所ノ權限ニ屬セサルトキハ分配裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ之ヲ提起スヘキモノトス

地方裁判所ハ申立ヲナシタルモ分配期日ニ完結セザリシ抗辨ノ主旨ニ從ヒ一訴訟ニ付テ  
ノモ權限ヲ有スルトキト雖トモ總テノ訴訟ニ付キ權限ヲ有スルモノトス但關係債主ノ總  
員總テノ抗辨ニ付キ分配裁判所ニ於テ裁決スヘキコトヲ契約スルトキハ此限ニアラス

第六百二十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如  
何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ  
定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ  
他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百二十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辨論ノ期日ニ出頭セサ  
ルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ

第六百二十八條 前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當裁判所ハ其判  
決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス  
可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時  
ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者

ニ交付ス可シ

債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ  
證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付  
スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ  
債務者ニ交付ス可シ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

〔解義〕 第六百三十六條ハ異議ノ訴ニ付テハ如何ナル點ニ付キ判決ヲ與フ可キヲ示定シ第

六百三十七條ハ異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辨論ノ期日ニ出頭セサルトキハ闕席判決

ヲ爲ス可キコトヲ示定シ第六百三十八條ハ前二條ノ判決確定シタルトキハ其判決ニ基キ

支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命スヘキコトヲ示定シ第六百三十九條ハ配當裁判所ニ於テ配當

ニ行ヘ可キ手續ヲ示定セリ

第六百三十六條 異議ノ訴ヲ判決スル裁判所ハ當ニ異議ノ當否ヲ示スノミナラス判決主  
文ニ於テ如何ナル債權者ニ係争金額ノ幾何ヲ支拂ヘキヤヲ示ササル可ラス若シ配當表錯  
雜シテ誤謬少ナカラスト爲ストキハ新分配表ヲ作リ且之ニ基キ更ニ配當手續ヲ命スル  
旨ヲ言渡ス可キナリ

○動産ニ對スル強制執行

七百六十六

第六百三十七條 本條ハ異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辨論ノ期日ニ出頭セサルトキハ  
第二百四十六條第二百四十七條ニ依リ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲  
ス可キコトヲ規定セシマテニシテ別ニ解釋ヲ要セス唯注意ス可キハ此場合ニ於テハ前配  
當表ニ依リ實施スルモノトス

第六百三十八條 本條ハ一讀明瞭ニシテ別ニ解釋ヲ要セス

第六百三十九條 配當裁判所ハ異議ノ申立アル場合ト否ラサル場合トヲ問ハス左ノ手續  
ニ從ヒ配當ヲ實施スルモノトス即チ異議ナキ場合ハ勿論異議アル場合ハ其異議ナキ部分  
又ハ異議ノ完結シタルモノニ付キ實施スルモノトス

第一 配當ニ因リテ受ケル金額カ其請求額ノ全部ヲ充足スル債權者ニ對シテハ其金額ヲ  
記載シタル配當額支拂證ヲ作り之ヲ交付スルト同時ニ其所持スル所ノ執行力アル正本又  
ハ其債權證書ヲ差出サシメテ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ケル債權者トハ優先權ヲ有スルカ爲メ債權ノ皆濟ヲ受ケルニ至リシ  
者ノ如キヲ云フ又配當支拂證トハ豫テ供託規則ニ依リ大藏省預金局ヘ供託シタル金額  
ノ中ヨリ配當額ヲ支拂ハシムル爲メ裁判所ヨリ發スル證書ヲ云フ即チ裁判所ヨリ此支拂  
證書ヲ受取リ之ヲ以テ各自ニ預金局ニ至リ其金額ヲ引出スモノトス

第二 配當ニ因リテ受ケル金額カ其請求額ヲ充足セサル債權者ニ對シテハ配當額支拂證  
ヲ交付スルト同時ニ執行力アル正本又ハ其債權證書ヲ差出サシメ其配當額ヲ記入シテ之

ヲ返還シ且同時ニ債權者ヲシテ配當額ノ受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

第三 配當期日ニ出頭セサル債權者アルトキハ其配當額ヲ供託シ其出頭シタル時ニ於テ

第二節ニノ手續ヲ爲ス可シ

第四 裁判所書記ハ右手續ノ詳細ヲ調書ニ記載シテ明確ニス可シ

〔參照〕 獨 第七百六十六條 申立テタル抗辨ニ付キ裁判ヲナス判決ニハ同時ニ分配額ノ

爭ヒトナリタル部分ヲ執レノ債主ニ幾許額ヲ以テ辨償スヘキヤヲ定ムヘキモノトス之ヲ  
定ムルコトヲ不當ト認ムルトキハ判決ニ於テ新分配案ノ調製及其他ノ方法ニ於ケル分配  
手續ヲ命スヘシ

獨 第七百六十七條 抗辨スル債主ニ對シテ爲ス懈怠判決ニアリテハ其抗辨ヲ取下ケタ  
ルモノト看做スヘキコトヲ言渡スヘキモノトス

獨 第七百六十八條 分配裁判所ハ言渡シタル判決ニ依リ辨償又ハ其他分配手續ヲ命ス  
ルモノトス

第二節 不動産ニ對ル強制執行

第一款 通則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制競賣

第二 強制管理

○不動産ニ對スル強制執行

七百六十七

○不動産ニ對スル強制執行

七百六十八

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

〔解義〕〔理由〕本節ハ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中不動産ニ對スル強制執行ノ規定ニ本款ハ不動産ニ對スル強制執行ニ通シテ適用ス可キ規定ナリ又第六百四十條ハ不動産ニ對スル強制執行ハ如何ニシテ之ヲ爲ス可キヤヲ示定シ第六百四十一條ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ管轄裁判所ヲ示定セリ

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ノ方法ハ之ヲ分テ二ト爲ス曰強制競賣曰強制管理夫レ強制競賣トハ第六百四十二條以下ニ規定セル如ク不動産其物ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ債權者ノ請求額ニ充ツルヲ謂ヒ強制管理トハ第七百六條以下ニ規定セル如ク不動産ヲ管理シ其收益ヲ納メテ債權者ノ請求額ニ充ツルヲ謂フナリ而シテ債權者ハ自己ノ選擇ニ從ヒ二箇ノ方法ニ依リ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得ヘシ然レトモ

其目的物タル不動産ニシテ一箇ナルトキハ已ニ強制競賣ヲ爲サシムルノ一事ニ依リ不動産ニ對スル處置ハ之ヲ行フ能ハサルカ故ニ之ヲ競賣ニ付シテ尙ホ強制管理ヲモ求ムルト云フカ如キハ事實上爲シ能ハサル處ナリ又強制管理ノ方法ヲ以テ之ヲ續行セントスルトキハ競賣ヲ爲ス能ハサルハ最モ看易キ處ナリ是ヲ以テ二箇ノ方法ヲ併セ行フハ其目的物タル不動産二个以上ニ涉ルトキチ豫想セルモノト解セサル可ヲス

第六百四十一條 前條ノ執行方法ヲ爲スハ執達吏ニアラスシテ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所之ヲ爲スモノタリ夫レ不動産ニ對スル強制執行ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシメ不動産ニ對スル強制執行ハ裁判所ヲシテ之ヲ爲サシムル所以ノモノハ不動産ハ之ヲ動産ニ比スレハ概テ貴重ニシテ又容易ニ其權利ヲ廢移ス可ラサルカ爲メナリ而シテ執行裁判所ハ不動産所在地ノ管轄區裁判所ニシテ此區裁判所ヲ以テ執行裁判所トナス若シ其不動産數箇アリテ且數箇ノ區裁判所管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ニ從ヒ上級裁判所ニ管轄裁判所ノ指定アラソコトヲ請フ可キモノトス

〔參照〕 獨 第七百五十五條 地所ニ關スル強制執行ニ付テハ其地所所在ノ地ヲ管轄スル區裁判所執行裁判所タルノ權限ヲ有スルモノトス  
權利執行ハ其裁判所申立ニ依リ之ヲ命スルモノトス

獨 第七百五十六條 數箇ノ區裁判所管轄地ノ境界ニ付キ孰レノ區裁判所ニ權限アルヤノ不明ナルトキ又ハ其地所數箇ノ區裁判所ノ管轄地ニ所在スルトキハ關係者一名ノ申立

○不動産ニ對スル強制執行

七百六十九



○不動産ニ對スル強制執行

七百七十

ニ依リ一級上階ノ裁判所第三十六條ノ規定ヲ斟酌シテ其裁判所ノ一ヲ執行裁判所ニ任ス  
ヘキモノトス

此命令ハ同一ノ負債者ニ屬スル數箇ノ地所ニシテ數箇ノ區裁判所ノ管轄地ニ所在スルモ  
ノニ關シ強制執行ヲ求ムルノ申立チナストキモ亦之ヲ發スルコトヲ得

獨 第七百五十七條 不動産ニ關スル強制執行ハ其執行ト共ニ附帶スル督促手續及分配  
手續ヲ併セ各邦法律ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

各邦法律ハ特ニ強制執行ニ付キ不動産ニ屬スル事件及權利ノ種類并ニ債主其要求ヲ書入  
質帳ニ記入セシムヘキ權利ノ程度及其記入ヲナスヘキ方法ヲモ亦之ヲ定ムルモノトス  
強制執行ニ關スル手續ニ於テ特別ノ裁判手續ヲ以テ完結スヘキ訴訟ノ起ルトキハ此法ノ  
規定ニ從ヒ之ヲ完結スルモノトス分配ノ訴訟ニモ亦第七百六十五條ヨリ第七百六十八條  
マテノ規定ヲ適用ス

第二款 強制強賣

第六百四十二條 強制強賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二 不動産ノ表示

第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判  
事ノ認證書

第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ  
證ス可キ證書

第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數土地臺  
帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一年ノ租稅其  
他ノ公課ヲ證ス可キ證書

第四 建物ニ付キテハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建  
物ニ付キ納ム可キ一年ノ公課ヲ證ス可キ證書

第五 地所、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證  
ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳  
ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

○不動産ニ對スル強制執行

七百七十一

第四號及第七第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立  
ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所  
ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一  
號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添付スルコ  
トヲ要セズ

〔解義〕 第六百四十二條ハ強制競賣ヲ請求スルニ付キ其申立書中ニ具備ス可キ要件ヲ示定  
シ第六百四十三條ハ此申立書ニ添付ス可キ證書ノ種類ヲ示定セリ

第六百四十二條 本條ハ強制競賣ヲ請求スルニ付キ其申立ニ具備セサル可ラサル三箇ノ  
要件ヲ掲ケリ第三ノ一定ノ債權トハ例エハ貸金何圓或ハ要債金何圓ノ爲メニ強制競賣ヲ  
求ムルト云フカ如キ類ニシテ一定ノ債務名義トハ第四百九十七條ニ規定スル終局判決及  
ヒ第五百五十九條第一號乃至第五號ニ掲クル裁判、和解及ヒ公正證書ヲ云フ即チ此等ニ  
基キ執行ヲ求ムル旨ヲ申立ツルヲ云フナリ

第六百四十三條 強制競賣ノ申立ニハ執行力アル正本ヲ添付セサル可ラサルハ勿論本條  
ニ掲クル證書ヲモ併セテ之ニ添付セサル可ラズ  
第一號乃至第五號ノ事項ハ一覽明瞭ナルヲ以テ別ニ解釋ヲ要セズト雖トモ第三號及ヒ第

四號ニアル公課トハ市町村費ノ如キヲ云ヒ第二項ニ所謂公簿ヲ主管スル官廳トハ官吏ノ  
主管スル官衙ノミナラス公吏ノ役場モ包含ス又第四項ニ強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差  
押ヘタル場合トアルハ先ニ他人カ強制管理ヲ爲シタルト又ハ同一ノ債權者カ之ヲ爲シタ  
ルトヲ區別セサルナリ

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ  
差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ  
以テ之ヲ爲ス

〔解義〕 本條ハ競賣ヲ開始ス可キ方法及ヒ其効果ヲ示定セリ

執行裁判所強制競賣ノ申立ヲ受ケタルトキハ先ツ第六百四十二條及ヒ第六百四十三條ニ  
適スルヤ否ヲ調査シ其申立ノ適法ナルトキハ強制手續ノ開始決定ヲ爲シ且ツ其決定ニ於  
テ該不動産ヲ差押フル旨ヲ宣言ス可シ此決定ハ債權者ノ申立ヲ竣クス裁判所ノ職權ヲ以  
テ之ヲ債務者ニ送達ス此送達ヲ爲シタルトキハ不動産差押ノ効力ヲ生スルモノトス  
此差押ヲ爲ストモ競落決定言渡ニ至ルマテハ債務者其不動産ヲ利用シ及ヒ之ヲ管理シ且  
其收益ヲ獲得スルコトヲ得ヘシ之ノ強制管理ト差異アル一ナリ

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ撰定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期限内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判

所ニ申出ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期限内ニ債務者ニ對シテ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條 左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者

〔解義〕第六百四十五條ハ己ニ競賣手續ノ開始サレタル不動産ニ對シ更ニ強制競賣ヲ請求スル者アルモ再度開始ノ決定ヲ爲ササルコトヲ示定シ第六百四十六條ハ配當要求ヲ爲スノ方法ヲ示定シ第六百四十七條ハ前條ノ申立アリタルトキハ之ヲ利害關係人ニ通知ス可キヲ示定シ第六百四十八條ハ如何ナル人ヲ以テ利害關係人ト爲スコキヤヲ示定セリ第六百四十五條 第六百四十六條 第六百四十七條 第六百四十五條第一項ハ動産ノ強

○不動産ニ對スル強制執行

七百七十六

制執行ニ於ケル第五百八十六條第一項ト同一精神ニシテ第二項ハ第五百八十七條ノ規定ト同一又第三項ハ第五百八十六條末項ノ規定ト同一精神ニ出ツルヲ以テ彼此參考セハ明瞭ナル可シ

第六百四十六條第一項ハ第五百九十條ト同一又第二項ハ第五百九十二條ノ規定ト均シク配當要求ヲ爲シ得ヘキ期限ヲ定メタルモノナリ

第六百四十七條モ亦第五百九十一條ト同一精神ニ出ツルヲ以テ此ニ贊セス  
第六百四十八條 本條ニ利害關係人トシテ掲グルモノハ本款ノ手續ニ於テノニ適用ス可キモノトス

本條ハ第四號不動産上權利者トハ第六百五十四條ノ規定ニ於ケル官廳又ハ登記簿ニ記入セサル優先權アル權利者ノ如キヲ謂フナリ

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動産ハ賣却ニ因リ登記簿ニ記入ヲ要スル總テノ不動産上ノ負擔ヲ免カルルモノトス但競落人其負擔ヲ引受ケタルトキハ此限ニ在ラス  
登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産ノ負擔ハ競落人之レヲ引受クルモノト

ス

〔解義〕〔理由〕〔附例〕 本條ハ不動産カ差押債權者ノ債權ニ先ツ可キ負擔ヲ有スル場合ニ於テ競賣ヲ爲シ得ヘキ程度ヲ示定セリ

不動産ハ其物ノ上ニ或ル義務ヲ負フコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ若シ其競賣ヲ求メントスル不動産カ差押債權者ニ先ツ可キ義務ヲ負ヘルモノナルトキハ先ツ其負擔ヲ調査シ其負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ競賣代金ヲ以テ其負擔ヲ引去リ尙ホ差押債權者ニ利益スルノ見込アルトキニ非ラサレハ競賣ヲ爲スコトヲ得サルナリ此規定タル不動産ノ強制執行上ニ於テ徒勞徒費一毫モ之カ爲メニ利益スル所之レアラサルカ如キ結果ヲ防クノ意ニ出テタルモノニシテ本條ハ要スルニ第五百六十四條第三項ノ規定ト同一精神ニ出ツルモノナリ因テ開始決定前此事ノ分明ナルトキハ其決定ヲ爲サシテ競賣申立ヲ却下シ又決定後ニ在テハ其手續ヲ取消ス可シ此取消ノ場合ニ於テハ強制競賣ノ申立ヲ執行記録ニ添付シタルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シタル申立モ亦當然消滅スルモノトス  
不動産上ノ負擔ハ競落人ニ於テ特ニ之ヲ引受ケサル限リハ不動産ノ賣却ニ因リテ之ヲ免カルルモノトス何トナレバ賣得金ヲ以テ不動産上ノ義務ヲ辨濟ス可ケレハナリ然レトモ登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上ノ負擔ハ競落人ノ負擔ニ歸セサル可ラス登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産ノ負擔トハ租稅其他ノ公課又ハ天然ノ地役ノ類ヲ云フ

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ニ際シ差押又ハ競賣ノ申立ヲ

○不動産ニ對スル強制執行

七百七十七